

第4章 学部教育（保健福祉学部）

第4章 学部教育(保健福祉学部)

本学部の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

保健福祉学部は、地域や国際社会における人々の健康維持と増進に積極的に貢献できる看護、栄養、福祉、教育に関する幅広い知識と技術を修得し、専門分野に関する課題を科学的、論理的思考や分析に基づいて主体的に解決する能力を備え、高い倫理観と豊かな人間性にあふれ、さらに多様な人々と協働して社会の変化やグローバル化に柔軟に対応できる力とコミュニケーション能力を有する人材の育成を目指しています。

卒業要件を満たすことにより、次の能力や態度・意欲を身に付けた者に学位を授与します。

【人間・社会・自然の理解】

人文科学、社会科学、自然科学、健康科学の知識を通して、人間・社会・自然を理解する力を身に付けている。

【倫理観】

高度専門職業人として必要な倫理観と豊かな人間性を身に付けている。

【専門的知識・技能】【論理的思考力・判断力・実践力】

保健、医療、福祉、教育関連分野の幅広い知識及び技能を修得し、これらを科学的、論理的思考に基づいて統合的に活用することにより、社会に貢献できる判断力、実践力を身に付けている。

【課題発見・解決力】【主体性】

各専門分野において課題を発見し、主体的に解決できる能力を身に付けている。

【コミュニケーション力】

社会の変化やグローバル化に柔軟に対応するための外国語を含めたコミュニケーション能力を身に付けている。

【多様な人々と協働する力】

保健、医療、福祉、教育関連分野で貢献するために自他の役割を理解し、多様な人々と協調・協働して課題を解決する力を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

【基本方針】

保健福祉学部では、学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、4年間で系統的に修得した看護、栄養、福祉、教育に関する広範囲な分野の専門的知識を基礎として、専門分野に関する課題を科学的、論理的思考や分析に基づいて主体的に解決できる能力や多様な人々と協働して地域やグローバル社会に柔軟に対応できる力とコミュニケーション能力を発揮し、自身の専門的活動に活かすことができるよう、体系的な教育課程を以下のように編成しています。

【共通教育科目】

共通教育科目では、看護、栄養、福祉、教育関連分野の専門職として求められる知的実践的自律性を培うため、教養教育の導入、理論、実践を網羅する科目群を編成しています。

【修学基礎力】

高校の学びから大学での学びへの転換と準備のための初年次教育並びに各学科の専門性への学びを促す修学基礎科目群

【人間・社会・自然の理解】

人間や社会及び文化について考えるため、普遍的な理論や知識を修得し、人間理解を深めるとともに、社会の仕組みや歴史を修得し、そのあり方を問う論理的思考力や課題発見力を養う人文・社会科学科目群

自然現象やそれに関わる発見から普遍的な真理を探究することを通じ、論理的思考力や課題発見力などを身に付ける、自然科学科目群

心身の健康に関する理論や知識を修得し生活する上で適切な判断を導く思考力を養うとともに、生涯にわたり健全な社会生活を送るための技能を修得する健康科学科目群

以上の学問分野において、主体的に課題を設定し、調査、考察、発表、討論を経て最終的な解決に取り組む複合 PBL 科目群

【コミュニケーション力】

グローバル化する国内外の地域で活躍するために必要な語学力を育成する語学国際科目群、相互対話によって主体的に問題に取り組み自らの見解を他者に合理的に発信できる複合 PBL 科目群

【多様な人々と協働する力】

豊かな人間性をもって地域で活躍するために必要な課題発見力と多様な人々との協働性を養成する社会連携科目群

【学部教育科目】

学部教育科目では、全学科に共通する保健福祉学関連の基盤技術を教授し、保健、医療、福祉、教育の分野で総合的に貢献するために必要な理論や、これを活用するための技能を涵養する科目を体系的に編成しています。

すなわち、保健、医療、福祉、教育の分野で課題解決に必要とされる多様な基礎知識と、論理的思考に基づいてそれらを活用できる実践力を養成するため、さらに高度専門職業人として必要な倫理観を身に付けるために、各学科において基礎から専門にかけて講義科目を体系的に配置するとともに、豊富な演習・実験・実習科目を設置しています。さらに、各専門分野における技術課題の発見や解決に導くため、主体的に立案し遂行する能力を養うために卒業研究を設置しています。

【教職教育科目】

教職教育科目では、教職課程を設置している栄養学科及び子ども学科において、教育力を身に付けるために、教科、教職に関する科目や教育実習、教職実践演習を設置しています。

1. 看護学科

1.1 本学科の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

看護学科は、健康で豊かなその人らしい人生の実現を支援するための専門知識・技術と倫理観並びに豊かなコミュニケーション能力を育み、地域におけるあらゆる健康レベルの人々の生涯を通じた健康を支援し、岡山県から広く地域社会及び国際社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

卒業要件を満たすことにより、次の能力や態度・意欲を身に付けた者に学位を授与します。

- A. 【人間・社会・自然の理解】人文科学、社会科学、自然科学、健康科学の知識を通して、人間・社会・自然を理解する力を身に付けている。
- B. 【倫理観】看護専門職としてのアイデンティティを形成し、専門職業人として必要な倫理観と豊かな人間性を身に付けている。
- C-1. 【専門的知識・技能1】看護学の専門職として、幅広く社会に貢献するために必要な基礎的知識と技能を身に付けている。
- C-2. 【専門的知識・技能2】人体の構造と機能・疾病の成立及び健康との相互関係を科学的に理解し看護学的課題を明らかにするために必要な専門的知識と技術力、判断力を身に付けている。
- D. 【論理的思考力・判断力・実践力】看護の実践・教育・研究領域において、課題を発見・解決する能力、看護専門分野の知識・技術を基盤に、対象者の多様なニーズを判断し、対応できる実践的な能力を身に付けている。
- E. 【課題発見・解決力】【主体性】看護学において課題を発見し、主体的に解決できる能力を身に付けている。
- F. 【コミュニケーション力】社会の変化やグローバル化に柔軟に対応し、ヒューマンケアリングを実践するためのコミュニケーション能力を身に付けている。
- G. 【多様な人々と協働する力】保健、医療、福祉、教育関連分野で貢献するための課題解決に必要な自己管理能力及びマネジメント力や、自他の役割を理解し、多様な人々と協調・協働して課題を解決する力を身に付けている。

1.2 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

【基本方針】

看護学科では、学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、4年間で系統的に修得した看護学に関する広範囲な分野の専門的知識を基礎として、高い倫理観と豊かな教養やグローバルな視点を持ち、多職種と協働しながら看護学の専門的活動ができるよう、体系的な教育課程を以下のように編成しています。

【共通教育科目】共通教育科目では、看護職として求められる知的実践的自律性を培うため、教養教育の導入、理論、実践を網羅する科目群を編成しています。

【修学基礎力】高校の学びから大学での学びへの転換と準備のための初年次教育ならびに看護学の専門性への学びを促す修学基礎科目群

【人間・社会・自然の理解】人間や社会及び文化について考えるため、普遍的な理論や知識を修得し、人間理解を深めるとともに、社会の仕組みや歴史を修得し、そのあり方を問う論理的思考力や課題発見力を養う人文・社会科学科目群

自然現象やそれに関わる発見から普遍的な真理を探究することを通じ、論理的思考力や課題発見力などを身に付ける自然科学科目群

心身の健康に関する理論や知識を修得し、生活する上で適切な判断を導く思考力を養うとともに、生涯にわたり健全な社会生活を送るための技能を修得する健康科学科目群

以上の学問分野において、主体的に課題を設定し、調査、考察、発表、討論を経て最終的な解決に取り組む複合 PBL 科目群

【コミュニケーション力】グローバル化する国内外の地域で活躍するために必要な語学力を育成する語学国際科目群、相互対話によって主体的に問題に取り組み自らの見解を他者に合理的に発信できる複合 PBL 科目群

【多様な人々と協働する力】豊かな人間性をもって地域で活躍するために必要な課題発見力と多様な人々との協働性を養成する社会連携科目群

【学部教育科目】学部教育科目では、対象に寄り添うことができる看護専門職として必要な看護学に関する広範囲な専門的知識とヒューマンケアリングが実践できる能力を育成する科目群で編成しています。

【専門的知識・技能 1】看護学の専門職として、幅広く社会に貢献するために必要な基礎的知識と技能を養成する「人間と生活」並びに「健康支援と社会保障制度」の科目群

【専門的知識・技能 2】人体の構造と機能・疾病の成立と健康の相互関係を科学的に理解し、看護学的課題を明らかにするために必要な専門的知識と技術力を養成する「人体のしくみと病態」の科目群

【論理的思考力・判断力・実践力】専門基礎科目群に立脚し、個人や集団が抱える看護課題を解決するために、論理的思考力、判断力に基づき、看護学に関する専門的知識を活用し、応用力を身に付ける「基礎看護学」の科目群、及び修得した専門的知識を活用し、看護課題を解決するための対処方法が実践できるための技術を身に付ける「成人看護学、精神看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学」の科目群

【倫理観】【多様な人々と協働する力】修得した知識と技術を統合して、高度専門職業人として必要な豊かな人間性と倫理観を身に付けるとともに、実際に対象の看護課題を抽出し、応用力、専門分野で貢献するための課題解決に必要な自己管理能力及びマネジメント力、並びに自他の役割を理解し、多様な人々と協調・協働して課題を解決する力を身に付ける「地域・在宅看護学」「看護の統合と実践」の科目群

【課題発見・解決力】【主体性】系統的に修得した看護学に関する広範囲な分野の専門的知識を基礎として、発見した看護課題を解決に導くため、深い知識を獲得し、看護倫理を遵守した計画を主体的に立案し遂行する能力を養う卒業研究

【コミュニケーション力】社会の変化やグローバル化に柔軟に対応し、ヒューマンケアリングを実践するためのコミュニケーション能力を身に付ける「ヒューマンケアリング論」の科目

教育課程の編成

教育方針を達成するために下表に示すような教育課程を編成している。

| | カテゴリー | 概要 |
|--------|-------------|---|
| 専門基礎分野 | 人体のしくみと病態 | 医学領域の科目群及び微生物学・生化学等の科目により人体のしくみ、主要疾患の病態生理、症状、診断、治療、予後について学ぶ。 |
| | 人間と生活 | 看護の対象である人間及び家族、生活環境等について看護の視点で学ぶ。またヒューマンケアリングの実践のための基本概念と方法論を修得する。 |
| | 健康支援と社会保障制度 | 健康の保持増進、疾病予防について公衆衛生や健康教育の視点から理論や方法論を学ぶ。またそれらに関連する法制度・行財政、社会福祉サービスについても学ぶ。 |
| 専門分野 | 基礎看護学 | 看護は実践の科学であり、あらゆる年代、様々な健康段階の個人、家族、集団や地域社会を生活者の視点を重視して支援する専門職である。基礎看護学ではあらゆる看護に共通となる基礎理論と方法論を修得する。 |
| | 成人看護学 | 成人期にある人々とその健康現象に焦点を当て、成人各期の発達段階の特性からくる保健課題と健康問題解決の理論・方法論を修得する。特に急性期では、急性期・周手術期における看護の知識と方法を学び、臨地実習で実践能力を培う。慢性期看護では、慢性疾患を自ら管理(セルフケア)していく上での健康学習支援の基礎的実践能力を培い、臨地実習で実践展開する。 |
| | 精神看護学 | 人間の精神の発達・成熟の仕組みに焦点を当て、発達のプロセスにおける危機と対処の理論・方法を修得すると共に、精神発達上の問題解決の理論・方法論を修得する。また、臨地実習では精神の病気や障害をもつ人との関わりを通して、精神看護の臨床における基礎的実践能力を修得する。 |
| | 小児看護学 | 小児期の対象を成長・発達の様相から理解し、小児の健康を守り、健全育成に必要な知識・技術を修得すると共に、健康に障害を持った小児とその家族について問題解決の理論と方法を学ぶ。また臨地実習においては健康な子ども、健康障害を持つ子どもとその家族との関わりを通して基礎的な実践能力を修得する。 |
| | 母性看護学 | 女性の一生をリプロダクティブヘルス/ライツの視点から捉え、様々な課題に対する母性看護の基礎的能力を養うと共に、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における母性看護の理論と方法を学ぶ。臨地実習では、周産期を中心に基礎的な看護実践能力を修得する。 |
| | 老年看護学 | 人間にとっての「古い」の意味を考え、老年期の発達課題、老化過程の理論を修得すると共に、老年期における健康問題の特質、医療・保健・福祉対策の動向とその実際を学ぶ。また、臨地実習を通して、施設や在宅での高齢者看護・介護の実際を学ぶ。 |
| | 地域・在宅看護学 | あらゆる健康レベルに応じて地域では人々がどのような生活を送っているのかを理解したうえで、人々の健康を衛るために看護職がどのような責務と役割を果たすのか、また、これからの地域包括ケアシステムにおいて地域看護・在宅看護に必要な技術とマネジメントについて学ぶ。 |
| | 看護の統合と実践 | 変化する社会や環境・国際化に対応した看護活動ができるための基礎的知識と方法論を学ぶと共に、地域で生活している様々な人々の健康や QOL 向上に寄与する看護活動を展開するための固有の理論・方法論を学ぶ。また、各領域で修得した専門知識や技術を統合し、チーム医療が行われている臨床現場で、専門職として看護をマネジメントするための基礎的実践力を修得する。卒業研究では、各自が選択した看護のテーマについて、研究計画を立て、データ収集、解析、解釈・考察を通して卒業論文としてまとめる。統合実習では、看護政策・マネジメントに繋がるテーマを設定し、それを達成するための方法を検討、実践し、看護の視野を拡大する。 |
| | 助産学 | 助産師に必要な助産診断、助産技術の基本概念と意義を理解し、妊婦・産婦・褥婦と新生児に対する健康診査の方法とケア、ならびに正常な分娩介助技術と助産管理の基本概念を修得する。臨地実習では、継続受け持ち事例や正常分娩介助を通して助産診断・技術・助産管理能力を養う。 |

1.3 卒業要件と履修方法

(1) 卒業要件

卒業資格を得るためには共通教育科目と学部教育科目のカリキュラム表にしたがって、下表に示す卒業要件単位数を修得しなければならない。

| | 必修科目 | 選択科目 | 計 |
|--------|--------|-------|--------|
| 共通教育科目 | 21 単位 | 6 単位 | 27 単位 |
| 学部教育科目 | 100 単位 | 5 単位 | 105 単位 |
| 計 | 121 単位 | 11 単位 | 132 単位 |

(2) 臨地実習の履修要件

3、4年次に開講する臨地実習は、「看護学基礎論Ⅰ～Ⅱ」、「看護学方法論Ⅰ～Ⅵ」、「基礎看護学実習Ⅰ～Ⅱ」を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。なお、授業科目毎の要件がシラバスの「履修上の注意」に詳細に書いてあるので留意すること。

(3) 卒業研究の履修要件

3年次後期から必修科目として「卒業研究」を課している。卒業研究は、次の条件を充足しなければ、履修できない。なお、3年次前期に学科が行う卒業研究に関する履修指導に留意すること。

| 卒業研究の履修要件 | |
|-----------|-------------------------------|
| 共通教育科目 | 必修科目 21 単位修得 |
| 学部教育科目 | 3年前期までに修得すべき必修科目のうち 72 単位以上修得 |
| 計 | 93 単位以上 |

(4) 他学部・他学科開講科目の取り扱い

卒業要件単位として認定しない。

1.4 資格の取得

(1) 看護師国家試験受験資格は、卒業時に取得できる。

(2) 助産師国家試験受験資格は、看護師国家試験受験資格に必要な科目に加えて、次の選択科目の単位を全て修得することにより卒業時に取得できる。(女子のみ)

①生殖の科学 ②女性のライフサイクルと助産 ③助産診断・技術学Ⅰ ④助産診断・技術学Ⅱ
⑤助産診断・技術学Ⅲ ⑥助産診断・技術学Ⅳ ⑦地域母子保健 ⑧助産管理 ⑨助産学実習
なお助産師国家試験受験資格取得に必要な「助産学実習」の履修可能定員は4名程度であり、2年次に希望者の中から選考により決定する。この選考により履修を認められた者を助産師課程履修者と呼ぶ。

1.5 授業科目(令和5年度)

| 授業科目の名称 | | 授業の方法 | 担当教員 | 開講年次及び必修選択の別 | | | | 開講時間数 | 開講単位数 | 卒業要件単位数 |
|-----------|-------------|------------|----------|--------------|---|----|-----|-------|-------|---------------|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | |
| 専門基礎分野 | 人体のしくみと病態 | 生化学 | 川上(祐) | ◎ | | | | 30 | 2 | 105 単 位 |
| | | 微生物学 | 田中 | ◎ | | | | 30 | 1 | |
| | | 解剖生理学Ⅰ | 荻野 | ◎ | | | | 45 | 2 | |
| | | 解剖生理学Ⅱ | 荻野 | ◎ | | | | 30 | 2 | |
| | | 運動生理学 | ※坂本 | ○ | | | | 30 | 2 | |
| | | 病理学 | 荻野 | ◎ | | | | 30 | 2 | |
| | | 薬理学 | 高橋(吉) | | ◎ | | | 30 | 2 | |
| | | 生殖の科学 | ※中堀 | | △ | | | 15 | 1 | |
| | | 臨床病態学Ⅰ | 喜多村 | | ◎ | | | 30 | 2 | |
| | | 臨床病態学Ⅱ | 喜多村 | | ◎ | | | 30 | 1 | |
| 臨床病態学Ⅲ | 喜多村 | | ◎ | | | 30 | 1 | | | |
| 臨床病態学Ⅳ | 喜多村 | | | | ◎ | 30 | 1 | | | |
| 救急医学 | 喜多村 | | | | ◎ | 15 | 1 | | | |
| 人間と生活 | 栄養学総論 | 山下(広) | ○ | | | | 30 | 2 | | |
| | 看護情報学 | 實金 | ◎ | | | | 15 | 1 | | |
| | 家族看護学 | 岡崎 | ◎ | | | | 15 | 1 | | |
| | ヒューマンケアリング論 | 實金 | | | | ◎ | 15 | 1 | | |
| 社会保健支援と制度 | 医学概論 | 喜多村 | ◎ | | | | 15 | 1 | | |
| | リハビリテーション概論 | ※森村 | | ○ | | | 30 | 2 | | |
| | 健康教育論 | 住吉 | | ○ | | | 15 | 1 | | |
| | 公衆衛生学 | ※関 | | ◎ | | | 30 | 2 | | |
| | 疫学・保健統計学 | 井上(幸) | | ◎ | | | 30 | 2 | | |
| | 社会福祉概論 | ※山本 | ○ | | | | 30 | 2 | | |
| | 看護関係法規 | ※加藤 | | ◎ | | | 15 | 1 | | |
| 社会保障論 | 岩満 | | ◎ | | | 15 | 1 | | | |
| 専門分野 | 基礎看護学 | 看護学概論 | 森本 | ◎ | | | | 30 | 2 | |
| | | 看護学基礎論Ⅰ | 森本 | ◎ | | | | 15 | 1 | |
| | | 看護学基礎論Ⅱ | 森本 | | ◎ | | | 30 | 1 | |
| | | 看護学方法論Ⅰ | 佐藤(美)・高林 | ◎ | | | | 45 | 2 | |
| | | 看護学方法論Ⅱ | 佐藤(美)・高林 | ◎ | | | | 45 | 2 | |
| | | 看護学方法論Ⅲ | 佐藤(美)・高林 | ◎ | | | | 30 | 1 | |
| | | 看護学方法論Ⅳ | 佐々木・高林 | ◎ | | | | 30 | 1 | |
| | | 看護学方法論Ⅴ | 佐々木・高林 | | ◎ | | | 30 | 1 | |
| | 看護学方法論Ⅵ | 佐々木・高林 | | ◎ | | | 45 | 2 | | |
| | 基礎看護学実習Ⅰ | 佐藤(美)・森本 他 | ◎ | | | | 45 | 1 | | |
| | 基礎看護学実習Ⅱ | 佐々木・森本 他 | | ◎ | | | 90 | 2 | | |
| | 成人看護学 | 成人看護学Ⅰ | 住吉 | | ◎ | | | 15 | 1 | |
| | | 成人看護学Ⅱ | 名越 | | ◎ | | | 15 | 1 | |
| | | 成人看護学Ⅲ | 名越 | | | ◎ | | 15 | 1 | |
| 成人看護学Ⅳ | | 名越・犬飼 | | | ◎ | | 30 | 1 | | |
| 成人看護学Ⅴ | | 住吉・藤堂 | | | ◎ | | 30 | 1 | | |
| 成人看護学Ⅵ | | 住吉・藤堂 | | | ◎ | | 15 | 1 | | |
| 成人看護学実習Ⅰ | | 名越・犬飼 | | | ◎ | ◎ | 135 | 3 | | |
| 成人看護学実習Ⅱ | | 住吉・藤堂 | | | ◎ | ◎ | 135 | 3 | | |
| 精神看護学 | 精神看護学Ⅰ | 井上(幸) | | ◎ | | | 30 | 2 | | |
| | 精神看護学Ⅱ | 井上(幸)・角田 | | | ◎ | | 45 | 2 | | |
| | 精神看護学実習 | 井上(幸)・角田 | | | ◎ | ◎ | 90 | 2 | | |

| 授業科目の名称 | | 授業の方法 | 担当教員 | 開講年次及び 必修選択の別 | | | | 開講 時間数 | 開講 単位数 | 卒業要件 単位数 | |
|-------------|---------------|--------------|----------------------------|----------------------------|---|---|----|-----------|-----------|-------------|---------------|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | | |
| 専門分野 | 看護学 小児 | 小児看護学Ⅰ | 講義 | 木村・網野 | | ◎ | | | 30 | 2 | 105 単 位 |
| | | 小児看護学Ⅱ | 演習 | 木村・網野 | | | ◎ | | 45 | 2 | |
| | | 小児看護学実習 | 実習 | 木村・網野 | | | ◎ | ◎ | 135 | 3 | |
| | 看護学 母性 | 母性看護学Ⅰ | 講義 | 三谷・塚本 | | ◎ | | | 30 | 2 | |
| | | 母性看護学Ⅱ | 演習 | 三谷・塚本 | | ◎ | | | 45 | 2 | |
| | | 母性看護学実習 | 実習 | 三谷・塚本 | | | ◎ | ◎ | 90 | 2 | |
| | 看護学 老年 | 老年看護学Ⅰ | 講義 | 實金 | | ◎ | | | 30 | 2 | |
| | | 老年看護学Ⅱ | 演習 | 實金 | | ◎ | | | 45 | 2 | |
| | | 老年看護学実習 | 実習 | 實金・井上(か) | | | ◎ | ◎ | 90 | 2 | |
| | 看護学 地域・在宅 | 地域看護学概論 | 講義 | 森永 | ◎ | | | | 30 | 2 | |
| | | 在宅看護学Ⅰ | 講義 | 實金 | | ◎ | | | 30 | 2 | |
| | | 在宅看護学Ⅱ | 演習 | 實金・井上(か) | | | ◎ | | 45 | 2 | |
| | | 在宅看護学実習 | 実習 | 實金・井上(か)・角田 | | | ◎ | ◎ | 90 | 2 | |
| | 看護の統合と実践 | 国際保健看護論 | 講義 | ※池田 | ○ | | | | 15 | 1 | |
| | | 看護技術実験演習 | 演習 | 佐々木 | | ○ | | | 30 | 1 | |
| | | チームガバナビリティ演習 | 演習 | 中村(光)・住吉・岡崎・高林 他 | | | ○ | | 30 | 1 | |
| | | 地域保健福祉演習 | 演習 | 坂野・久保田 他 | | | ○ | | 30 | 1 | |
| | | フードビジネス学 | 講義 | 伊東 他 | | | ○ | | 30 | 2 | |
| | | 未来型プロジェクト<食> | 演習 | 伊東 他 | | | | ○ | 120 | 4 | |
| | | 災害看護論 | 講義 | 森本・住吉・森永・※アルチャナ | | | ○ | | 15 | 1 | |
| | | がん看護学 | 講義 | 名越 | | ◎ | | | 15 | 1 | |
| | | 看護倫理学 | 講義 | 森本 | | | ◎ | | 15 | 1 | |
| | | 看護アセスメント学 | 演習 | 名越 他 | | | ◎ | | 30 | 1 | |
| | | 看護政策・マネジメント論 | 講義 | 住吉 | | | ◎ | | 15 | 1 | |
| | | 看護研究 | 演習 | 森本 | | | ◎ | | 30 | 1 | |
| | | 臨床アセスメント学 | 講義 | 喜多村 | | | | ○ | 15 | 1 | |
| | | 看護教育 | 講義 | 佐藤(美) | | | | ○ | 30 | 2 | |
| | | 卒業研究 | 演習 | 学科教員 | | | ◎ | ◎ | 120 | 4 | |
| | | 統合実習 | 実習 | 住吉 他 | | | | ◎ | 45 | 1 | |
| | | 地域生活支援基盤実習 | 実習 | 森永・實金・井上(幸)・徳嶋 井上(か)・角田 | ◎ | | | | 45 | 1 | |
| 地域連携実践実習 | | 実習 | 森永・實金・井上(幸)・徳嶋 井上(か)・角田 | | | | ◎ | 45 | 1 | | |
| 感染看護学 | 講義 | 森本 | | ○ | | | 15 | 1 | | | |
| 海外研修(保健福祉学) | 演習 | 関根 他 | ○ | | | | 30 | 1 | | | |
| 助産学 | 助産診断・技術学Ⅰ | 講義 | 岡崎・※中堀・※川本・※上村 | | △ | | | 30 | 2 | | |
| | 助産診断・技術学Ⅱ | 演習 | 岡崎・塚本 | | | △ | | 45 | 2 | | |
| | 助産診断・技術学Ⅲ | 講義 | 三谷・岡崎 | | | △ | | 15 | 1 | | |
| | 助産診断・技術学Ⅳ | 講義 | 岡崎 | | | △ | | 15 | 1 | | |
| | 地域母子保健 | 講義 | 三谷 | | | △ | | 15 | 1 | | |
| | 女性のライフサイクルと助産 | 講義 | 岡崎 | | △ | | | 15 | 1 | | |
| | 助産管理 | 講義 | 岡崎 | | | △ | | 15 | 1 | | |
| | 助産学実習 | 実習 | 岡崎・三谷・塚本 | | | | △ | 405 | 9 | | |

注 ・「◎」印は必修科目 「○」印は選択科目 「△」印は助産必修科目
・「※」印は非常勤講師
学部教育科目の卒業要件単位数105単位
卒業要件単位数132単位(共通教育科目の卒業要件27単位を含む)

1.6 科目ナンバリング

| 授業科目の名称 | 科目ナンバリング | 分野1(略称と英語名称) | | 分野2(略称と英語名称) | | | |
|-------------|------------------|------------------|------------------|-------------------------------|--|--|------------------------------------|
| | | 略称 | 英語名称 | 略称 | 英語名称 | | |
| 専門基礎分野 | 人体のしくみと病態 | 生化学 | BAM_BOC-A1-1R-L1 | BAM | Basic Medicine | BOC | Biochemistry |
| | | 微生物学 | BAM_MBO-A1-1R-S1 | | (専門基礎分野) | MBO | Microbiology |
| | | 解剖生理学 I | BAM_AP1-A1-1R-S1 | | | AP1 | Anatomy and Physiology I |
| | | 解剖生理学 II | BAM_AP2-A1-1R-L1 | | | AP2 | Anatomy and Physiology II |
| | | 運動生理学 | BAM_EPO-A1-1E-L1 | | | EPO | Exercise Physiology |
| | | 病理学 | BAM_PAT-A1-1R-L1 | | | PAT | Pathology |
| | | 薬理学 | BAM_PHL-A1-2R-L1 | | | PHL | Pharmacology |
| | | 生殖の科学 | BAM_IHR-A1-2E-L1 | | | IHR | Introduction to Human Reproduction |
| | | 臨床病態学 I | BAM_CP1-A1-2R-L1 | | | CP1 | Clinical Pathology I |
| | | 臨床病態学 II | BAM_CP2-A1-2R-S1 | | | CP2 | Clinical Pathology II |
| | | 臨床病態学 III | BAM_CP3-A1-2R-S1 | | | CP3 | Clinical Pathology III |
| | | 臨床病態学 IV | BAM_CP4-A1-3R-S1 | | | CP4 | Clinical Pathology IV |
| | | 救急医学 | BAM_EME-A1-3R-L1 | | | EME | Emergency Medicine |
| | | 人間と生活 | 栄養学総論 | IND_FNS-A1-1E-L1 | IND | Interdisciplinary | FNS |
| 看護情報学 | IND_NUI-A1-1R-L1 | | | (学際的) | NUI | Nursing Informatics | |
| 家族看護学 | IND_FAN-A1-1R-L1 | | | | FAN | Family Nursing | |
| ヒューマンケアリング論 | IND_HUC-A1-3R-S1 | | | | HUC | Human Caring | |
| 社会保険制度と健康支援 | 医学概論 | IND_IME-A1-1R-L1 | IND | Interdisciplinary | IME | Introduction to Medicine | |
| | リハビリテーション概論 | IND_IRH-A1-2E-L1 | | (学際的) | IRH | Introduction to Rehabilitation | |
| | 健康教育論 | IND_HPE-A1-2E-L1 | | | HPE | Health Education & Patient Education | |
| | 公衆衛生学 | IND_PUH-A1-2R-L1 | | | PUH | Public Health | |
| | 疫学・保健統計学 | IND_ESH-A1-2R-L1 | | | ESH | Epidemiology and Statistics in Health | |
| | 社会福祉概論 | IND_ISW-A1-1E-L1 | | | ISW | Introduction to Social Welfare | |
| | 看護関係法規 | IND_NRL-A1-2R-L1 | | | NRL | Nursing-related Laws and regulations | |
| 社会保障論 | IND_SSU-A1-2R-L1 | | | SSU | Social Security | | |
| 基礎看護学 | 看護学概論 | FUN_INU-A1-1R-L1 | FUN | Fundamental Nursing | INU | Introduction to Nursing | |
| | 看護学基礎論 I | FUN_NT1-A1-1R-L1 | | (基礎看護学) | NT1 | Nursing Theory I | |
| | 看護学基礎論 II | FUN_NT2-A1-2R-S1 | | | NT2 | Nursing Theory II | |
| | 看護学方法論 I | FUN_NM1-A1-1R-S1 | | | NM1 | Nursing Methodology I | |
| | 看護学方法論 II | FUN_NM2-A1-1R-S1 | | | NM2 | Nursing Methodology II | |
| | 看護学方法論 III | FUN_NM3-A1-1R-S1 | | | NM3 | Nursing Methodology III | |
| | 看護学方法論 IV | FUN_NM4-A1-1R-S1 | | | NM4 | Nursing Methodology IV | |
| | 看護学方法論 V | FUN_NM5-A1-2R-S1 | | | NM5 | Nursing Methodology V | |
| | 看護学方法論 VI | FUN_NM6-A1-2R-S1 | | | NM6 | Nursing Methodology VI | |
| | 基礎看護学実習 I | FUN_BN1-A1-1R-P1 | | | BN1 | Basic Nursing Practice I | |
| | 基礎看護学実習 II | FUN_BN2-A1-2R-P1 | | | BN2 | Basic Nursing Practice II | |
| | 成人看護学 | 成人看護学 I | CLN_AH1-A1-2R-L1 | CLN | Clinical Nursing | AH1 | Adult Health Nursing I |
| | | 成人看護学 II | CLN_AH2-A1-2R-L1 | | (臨床看護学) | AH2 | Adult Health Nursing II |
| | | 成人看護学 III | CLN_AH3-A1-3R-L1 | | | AH3 | Adult Health Nursing III |
| 成人看護学 IV | | CLN_AH4-A1-3R-S1 | | | AH4 | Adult Health Nursing IV | |
| 成人看護学 V | | CLN_AH5-A1-3R-S1 | | | AH5 | Adult Health Nursing V | |
| 成人看護学 VI | | CLN_AH6-A1-3R-L1 | | | AH6 | Adult Health Nursing VI | |
| 成人看護学実習 I | | CLN_AN1-A1-3R-P1 | | | AN1 | Adult Health Nursing Practice I | |
| 成人看護学実習 II | CLN_AN2-A1-3R-P1 | | | AN2 | Adult Health Nursing Practice II | | |
| 精神看護学 | 精神看護学 I | CLN_PS1-A1-2R-L1 | CLN | Clinical Nursing | PS1 | Psychiatric Nursing I | |
| | 精神看護学 II | CLN_PS2-A1-3R-S1 | | (臨床看護学) | PS2 | Psychiatric Nursing II | |
| | 精神看護学実習 | CLN_PSP-A1-3R-P1 | | | PSP | Psychiatric Nursing Practice | |
| 小児看護学 | 小児看護学 I | CLN_PN1-A1-2R-L1 | CLN | Clinical Nursing | PN1 | Pediatric Nursing I | |
| | 小児看護学 II | CLN_PN2-A1-3R-S1 | | (臨床看護学) | PN2 | Pediatric Nursing II | |
| | 小児看護学実習 | CLN_PNP-A1-3R-P1 | | | PNP | Pediatric Nursing Practice | |
| 母性看護学 | 母性看護学 I | CLN_MA1-A1-2R-L1 | CLN | Clinical Nursing | MA1 | Maternal Nursing I | |
| | 母性看護学 II | CLN_MA2-A1-2R-S1 | | (臨床看護学) | MA2 | Maternal Nursing II | |
| | 母性看護学実習 | CLN_MAP-A1-3R-P1 | | | MAP | Maternal Nursing Practice | |
| 老年看護学 | 老年看護学 I | CLN_GN1-A1-2R-L1 | CLN | Clinical Nursing | GN1 | Geriatrics Nursing I | |
| | 老年看護学 II | CLN_GN2-A1-2R-S1 | | (臨床看護学) | GN2 | Geriatrics Nursing II | |
| | 老年看護学実習 | CLN_GNP-A1-3R-P1 | | | GNP | Geriatrics Nursing Practice | |
| 地域・在宅看護学 | 地域看護学概論 | ITS_CHN-A1-1R-L1 | ITS | Integration Interdisciplinary | CHN | Community Health Nursing | |
| | 在宅看護学 I | ITS_HC1-A1-2R-L1 | | (統合と実践) | HC1 | Home Care Nursing I | |
| | 在宅看護学 II | ITS_HC2-A1-3R-S1 | | | HC2 | Home Care Nursing II | |
| | 在宅看護学実習 | ITS_HCP-A1-4R-P1 | | | HCP | Home Care Nursing Practice | |
| 看護の統合と実践 | 国際保健看護論 | ITS_IHN-A1-1E-L0 | ITS | Integration Interdisciplinary | IHN | International Health Nursing | |
| | 看護技術実験演習 | ITS_PRE-A1-2E-S1 | | (統合と実践) | PRE | Human Physical Response Seminar | |
| | チームガバナンス演習 | CBL_TGE-A1-3E-S1 | CBL | Community Based Learning | TGE | Team Governability Exercise | |
| | 地域保健福祉演習 | CBL_PHW-A1-3E-S1 | | (地域連携教育) | RHW | Practice of Regional Health and Welfare | |
| | フードビジネス学 | CBL_FOB-A1-3E-L1 | | | FOB | Food business | |
| | 未来型プロジェクト<食> | CBL_PSF-A1-4E-S1 | | | PSF | Project for a Sustainable Future <Food> | |
| | 災害看護論 | ITS_DIN-A1-3E-L1 | ITS | Integration Interdisciplinary | DIN | Disaster Nursing | |
| | がん看護学 | ITS_CAN-A1-2R-L1 | | (統合と実践) | CAN | Cancer Nursing | |
| | 看護倫理学 | ITS_ETN-A1-3R-L1 | | | ETN | Ethics in Nursing | |
| | 看護アセスメント学 | ITS_NAS-A1-3R-S1 | | | NAS | Nursing Assessment | |
| | 看護政策・マネジメント論 | ITS_NPM-A1-3R-L1 | | | NPM | Nursing Policy and Management | |
| | 看護研究 | ITS_NRE-A1-3R-S1 | | | NRE | Nursing Research | |
| | 臨床アセスメント学 | ITS_CAS-A1-4E-L1 | | | CAS | Clinical Assessment | |
| | 看護教育 | ITS_NED-A1-4E-L1 | | | NED | Nursing Education | |
| | 卒業研究 | ITS_THE-A1-3R-S1 | | | THE | Thesis | |
| | 統合実習 | ITS_CNP-A1-4R-P1 | | | CNP | Comprehensive Nursing Practice | |
| | 地域生活支援基盤実習 | ITS_FPC-A1-1R-P1 | | | FPC | Fundamental Practice in Community Life Support | |
| 地域連携実践実習 | ITS_IPC-A1-4R-P1 | | | IPC | Implementation Practice in Community-based Cooperation | | |
| 感染看護学 | ITS_NIC-A1-2E-L1 | | | NIC | Nursing care and Infection control | | |
| 海外研修(保健福祉学) | ITS_SAP-A1-0E-S0 | | | SAP | Study Abroad Program(Health and Welfare Science) | | |
| 助産学 | 助産診断・技術学 I | MID_MI1-A1-2E-L1 | MID | Midwifery | MI1 | Midwifery Diagnosis and Technique I | |
| | 助産診断・技術学 II | MID_MI2-A1-3E-S1 | | (助産学) | MI2 | Midwifery Diagnosis and Technique II | |
| | 助産診断・技術学 III | MID_MI3-A1-3E-L1 | | | MI3 | Midwifery Diagnosis and Technique III | |
| | 助産診断・技術学 IV | MID_MI4-A1-3E-L1 | | | MI4 | Midwifery Diagnosis and Technique IV | |
| | 地域母子保健 | MID_CMC-A1-3E-L1 | | | CMC | Community Maternal and Child Health | |
| | 女性のライフサイクルと助産 | MID_MIL-A1-2E-L1 | | | MIL | Midwifery and Women's Life Cycle | |
| | 助産管理 | MID_MIM-A1-3E-L1 | | | MIM | Midwifery Management | |
| 助産学実習 | MID_MIP-A1-4E-P1 | | | MIP | Midwifery Practice | | |

1.7 カリキュラムマップ(2023年度)

| 授業科目の名称 | | 学位授与の方針に対する関与の程度 | | | | | | | |
|-------------|---------------|------------------|---|-----|-----|---|---|---|---|
| | | A | B | C-1 | C-2 | D | E | F | G |
| 専門基礎分野 | 人体のしくみと病態 | 生化学 | | | ◎ | | | | |
| | | 微生物学 | | | ◎ | | | | |
| | | 解剖生理学 I | | | ◎ | | | | |
| | | 解剖生理学 II | | | ◎ | | | | |
| | | 運動生理学 | | | ○ | | | | |
| | | 病理学 | | | ◎ | | | | |
| | | 薬理学 | | | ◎ | | | | |
| | | 生殖の科学 | | | ○ | | | | |
| | | 臨床病態学 I | | | ◎ | | | | |
| | | 臨床病態学 II | | | ◎ | | | | |
| | 臨床病態学 III | | | ◎ | | | | | |
| | 臨床病態学 IV | | | ◎ | | | | | |
| | 救急医学 | | | ◎ | | | | | |
| | 人間と生活 | 栄養学総論 | | ○ | | | | | |
| | 看護情報学 | | ◎ | | | | ○ | | |
| | 家族看護学 | | | | | ◎ | | | |
| | ヒューマンケアリング論 | | ○ | | | | | ◎ | |
| | 社会保健制度と健康支援 | 医学概論 | | | ◎ | | | | |
| | | リハビリテーション概論 | | ○ | | | | | |
| | | 健康教育論 | | | | | | ○ | ○ |
| 公衆衛生学 | | | | ◎ | | | | ○ | |
| 疫学・保健統計学 | | | ◎ | | | | | | |
| 社会福祉概論 | | | ○ | | | | | | |
| 看護関係法規 | | | ◎ | | | | | | |
| 社会保障論 | | | ◎ | | | | | | |
| 基礎看護学 | 看護学概論 | | | | | ◎ | | | |
| | 看護学基礎論 I | | | | | ◎ | | | |
| | 看護学基礎論 II | | | | | ◎ | | | |
| | 看護学方法論 I | | | | | ◎ | | | |
| | 看護学方法論 II | | | | | ◎ | | | |
| | 看護学方法論 III | | | | | ◎ | | | |
| | 看護学方法論 IV | | | | | ◎ | | | |
| | 看護学方法論 V | | | | | ◎ | | | |
| | 看護学方法論 VI | | | | | ◎ | | | |
| | 基礎看護学実習 I | | | | | ◎ | | ○ | |
| | 基礎看護学実習 II | | | | | ◎ | | ○ | |
| | 成人看護学 | 成人看護学 I | | ○ | | | ◎ | | |
| 成人看護学 II | | | | | | ◎ | | | |
| 成人看護学 III | | | | | | ◎ | | | |
| 成人看護学 IV | | | | | | ◎ | | | |
| 成人看護学 V | | | | ○ | | ◎ | | | |
| 成人看護学 VI | | | | | | ◎ | | ○ | |
| 成人看護学実習 I | | | | | | ◎ | | ◎ | |
| 成人看護学実習 II | | | | | ◎ | | ◎ | | |
| 看護学 精神 | 精神看護学 I | | | | | ◎ | | | |
| | 精神看護学 II | | | | | ◎ | | | |
| | 精神看護学実習 | | | | | ◎ | | ◎ | |
| | 小児看護学 I | | | | | ◎ | | | |
| | 小児看護学 II | | | | | ◎ | | | |
| | 小児看護学実習 | | | | | ◎ | | ◎ | |
| 看護学 母性 | 母性看護学 I | | | | | ◎ | | | |
| | 母性看護学 II | | | | | ◎ | | | |
| | 母性看護学実習 | | | | | ◎ | | ◎ | |
| 看護学 老年 | 老年看護学 I | | | | | ◎ | | | |
| | 老年看護学 II | | | | | ◎ | | | |
| | 老年看護学実習 | | | | | ◎ | | ◎ | |
| | 地域看護学概論 | | | | | | | ◎ | |
| 看護学 地域・在宅 | 在宅看護学 I | | | | | | ○ | ◎ | |
| | 在宅看護学 II | | | | | | ○ | ◎ | |
| 在宅看護学実習 | | | | | | ○ | ◎ | | |
| 看護の統合と実践 | 国際保健看護論 | | ○ | | | | | | |
| | 看護技術実験演習 | | ○ | | | | | | |
| | チームガバナンス演習 | | ○ | | | | | ◎ | |
| | 地域保健福祉演習 | | | | | | ○ | ◎ | |
| | フードビジネス学 | | | ○ | ○ | | | | |
| | 未来型プロジェクト<食> | | ○ | | | | | ○ | |
| | 災害看護論 | | | ○ | | | | | |
| | がん看護学 | | ◎ | | | | | | |
| | 看護倫理学 | | ◎ | | | | | | |
| | 看護アセスメント学 | | ◎ | | | | ○ | | |
| | 看護政策・マネジメント論 | | | | | | ◎ | | |
| | 看護研究 | | | | | ○ | | | |
| | 臨床アセスメント学 | | | | ○ | | | | |
| | 看護教育 | | | | | | | ◎ | |
| | 卒業研究 | | ○ | | | | | ◎ | |
| | 統合実習 | | | | | | ◎ | ◎ | |
| | 地域生活支援基盤実習 | | | | | ◎ | | | |
| | 地域連携実践実習 | | | | | ◎ | | ◎ | |
| 感染看護学 | | | ○ | | | | | | |
| 海外研修(保健福祉学) | | | | | | | ○ | | |
| 助産学 | 助産診断・技術学 I | | | | ○ | | | | |
| | 助産診断・技術学 II | | | | ○ | | | | |
| | 助産診断・技術学 III | | | | ○ | | | | |
| | 助産診断・技術学 IV | | | | ○ | | | | |
| | 地域母子保健 | | | | ○ | | | | |
| | 女性のライフサイクルと助産 | | ○ | | | ○ | | ○ | |
| | 助産管理 | | | | | ○ | | | |
| 助産学実習 | | | | ○ | | | ○ | | |

| 看護学科 学位授与の方針 |
|--|
| 看護学科は、健康で豊かなその人らしい人生の実現を支援するための専門知識・技術と倫理観ならびに豊かなコミュニケーション能力を育み、地域におけるあらゆる健康レベルの人々の生涯を通じた健康を支援し、岡山県から広く地域社会及び国際社会に貢献できる人材の育成を目指しています。 卒業要件を満たすことにより、次の能力や態度・意欲を身に付けた者に学位を授与します。 |
| A 【人間・社会・自然の理解】 人文科学、社会科学、自然科学、健康科学の知識を通して、人間・社会・自然を理解する力を身に付けている。 |
| B 【倫理観】 看護専門職としてのアイデンティティを形成し、専門職業人として必要な倫理観と豊かな人間性を身に付けている。 |
| C-1 【専門的知識・技能1】 看護学の専門職として、幅広く社会に貢献するために必要な基礎的知識と技能を身に付けている。 |
| C-2 【専門的知識・技能2】 人体の構造と機能・疾病の成立及び健康との相互関係を科学的に理解し看護学的課題を明らかにするために必要な専門的知識と技術力、判断力を身に付けている。 |
| D 【論理的思考力・判断力・実践力】 看護の実践・教育・研究領域において、課題を発見・解決する能力、看護専門分野の知識・技術を基盤に、対象者の多様なニーズを判断し、対応できる実践的な能力を身に付けている。 |
| E 【課題発見・解決力】【主体性】 看護学において課題を発見し、主体的に解決できる能力を身に付けている。 |
| F 【コミュニケーション力】 社会の変化やグローバル化に柔軟に対応し、ヒューマンケアリングを実践するためのコミュニケーション能力を身に付けている。 |
| G 【多様な人々と協働する力】 保健、医療、福祉、教育関連分野で貢献するための課題解決に必要な自己管理能力及びマネジメント力や、自他の役割を理解し、多様な人々と協調・協働して課題を解決する力を身に付けている。 |

| DP | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | |
|--------------|--|---|---|---|---|--|------------------|----|
| | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 修学基礎 | 大学で学ぶ フレッシュマンセミナー | 社会を生きる力を学ぶ | | | | | | |
| | 人文・社会科学要論 自然科学要論 日本語表現法 統計学 | 日本国憲法 | 生命倫理学 | | | | | |
| A | 「人文・社会科学」科目群 | | | | | | | |
| | 「自然科学」科目群 | | | | | | | |
| | 「健康科学」科目群 | | | | | | | |
| | 「複合PBL科目」科目群 | | | | | | | |
| B | | | がん看護学 | | 看護倫理学 看護アセスメント学 | | | |
| C1 | 看護情報学 医学概論 | | 疫学・保健統計学 公衆衛生学 看護関係法規 | 社会保障論 | | | | |
| | | | | 感染看護学 | | | | |
| C2 | 生化学 解剖生理学 I | 微生物学 解剖生理学 II 病理学 | 薬理学 | 臨床病態学 I 臨床病態学 II 臨床病態学 III | 臨床病態学 IV 救急医学 | | | |
| | | | 生殖の科学 | 助産診断・技術学 I | | 助産学実習 | | |
| D | 看護学概論 看護学方法論 I 看護学方法論 II 地域生活支援基盤実習 | 看護学基礎論 I 看護学方法論 III 看護学方法論 IV 基礎看護学実習 I 家族看護学 | 看護学基礎論 II 看護学方法論 V 看護学方法論 VI 成人看護学 I 成人看護学 II 母性看護学 I 老年看護学 I | 基礎看護学実習 II 老年看護学 II 母性看護学 II 精神看護学 I 小児看護学 I 女性のライフサイクルと助産 | 成人看護学 III 成人看護学 IV 成人看護学 V 精神看護学 II 小児看護学 II 助産診断・技術学 II 地域母子保健 | 成人看護学実習 I 成人看護学実習 II 精神看護学実習 老年看護学実習 小児看護学実習 母性看護学実習 成人看護学 VI 助産診断・技術学 III 助産診断・技術学 IV 助産管理 | 助産学実習 | |
| | | | | | 看護研究 | 看護政策・マネジメント論 成人看護学実習 II | 統合実習 卒業研究 | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| E | ELP1 ELP2 | ELP3 ELP4 基礎看護学実習 I | ELP5 | ELP6 基礎看護学実習 II | ヒューマンケアリング論 | | | |
| | 「語学国際」科目群 | | | | | | | |
| 「複合PBL科目」科目群 | | | | | | | | |
| F | 社会連携要論 | 地域資源論 地域看護学概論 基礎看護学実習 I | | 在宅看護学 I 基礎看護学実習 II | 在宅看護学 II 地域母子保健 | 在宅看護学実習 成人看護学実習 I 精神看護学実習 老年看護学実習 小児看護学実習 母性看護学実習 | 統合実習 地域連携実践実習 | |
| | 「社会連携」科目群 | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |

1.8 看護学科 履修モデル例

看護師をめざす場合

| 共通教育科目 | | | | | | | | |
|---------|---|----|--------------|----|-----|----|-----|----|
| | 1年次 | 単位 | 2年次 | 単位 | 3年次 | 単位 | 4年次 | 単位 |
| 修学基礎 | ◎大学で学ぶ | 1 | | | | | | |
| | ◎フレッシュマンセミナー | 1 | | | | | | |
| 人文・社会科学 | ◎人文・社会科学要論 | 2 | | | | | | |
| | ◎日本語表現法 | 2 | | | | | | |
| | ◎日本国憲法 | 2 | | | | | | |
| 自然科学 | ◎自然科学要論 | 2 | | | | | | |
| | ◎統計学 | 2 | | | | | | |
| | ○カテゴリから2単位 | 2 | | | | | | |
| 健康科学 | ○カテゴリから1単位 | 1 | ◎生命倫理学 | 1 | | | | |
| 語学国際 | ◎ELP1 | 1 | ◎ELP5 | 1 | | | | |
| | ◎ELP2 | 1 | ◎ELP6 | 1 | | | | |
| | ◎ELP3 | 1 | | | | | | |
| | ◎ELP4 | 1 | | | | | | |
| 複合PBL科目 | 人文・社会科学複合PBL科目 | | | | | | | |
| | 自然科学複合PBL科目 健康科学複合PBL科目 語学国際複合PBL科目 ○カテゴリから1単位 | 1 | | | | | | |
| 社会連携 | ◎社会連携要論 | 1 | | | | | | |
| | ◎地域資源学 | 1 | | | | | | |
| | | | ○全カテゴリーから2単位 | 2 | | | | |
| 小計 | | 22 | 小計 | 5 | 小計 | 0 | 小計 | 0 |

備考

- ・ELPはEnglish Language Programを指します。
- ・全カテゴリーから2単位の選択例：スポーツ科学、コンピュータ演習Ⅰ、地域創生演習 等
- ・小計の合計単位数は卒業要件単位数となっています。

学部教育科目

| | 1年次 | 単位 | 2年次 | 単位 | 3年次 | 単位 | 4年次 | 単位 |
|--------|-------------|----|-----------|---------------|--------------|-------|-----------|----|
| 専門基礎分野 | ◎生化学 | 2 | ◎薬理学 | 2 | ◎臨床病態学Ⅳ | 1 | | |
| | ◎微生物学 | 1 | ◎臨床病態学Ⅰ | 2 | ◎救急医学 | 1 | | |
| | ◎解剖生理学Ⅰ | 2 | ◎臨床病態学Ⅱ | 1 | ◎ヒューマンケアリング論 | 1 | | |
| | ◎解剖生理学Ⅱ | 2 | ◎臨床病態学Ⅲ | 1 | | | | |
| | ◎病理学 | 2 | | | | | | |
| | ◎家族看護学 | 1 | ◎公衆衛生学 | 2 | | | | |
| | ◎医学概論 | 1 | ◎疫学・保健統計学 | 2 | | | | |
| | ◎看護情報学 | 1 | ◎看護関係法規 | 1 | | | | |
| | | | ◎社会保障論 | 1 | | | | |
| 専門分野 | ◎看護学概論 | 2 | ◎看護学基礎論Ⅱ | 1 | ◎在宅看護学Ⅱ | 2 | | |
| | ◎看護学基礎論Ⅰ | 1 | ◎看護学方法論Ⅴ | 1 | ◎在宅看護学実習 | → | ◎在宅看護学実習 | 2 |
| | ◎看護学方法論Ⅰ | 2 | ◎看護学方法論Ⅵ | 2 | ◎成人看護学Ⅲ | 1 | | |
| | ◎看護学方法論Ⅱ | 2 | ◎基礎看護学実習Ⅱ | 2 | ◎成人看護学Ⅳ | 1 | | |
| | ◎看護学方法論Ⅲ | 1 | ◎在宅看護学Ⅰ | 2 | ◎成人看護学Ⅴ | 1 | | |
| | ◎看護学方法論Ⅳ | 1 | ◎成人看護学Ⅰ | 1 | ◎成人看護学Ⅵ | 1 | | |
| | ◎基礎看護学実習Ⅰ | 1 | ◎成人看護学Ⅱ | 1 | ◎成人看護学実習Ⅰ | → | ◎成人看護学実習Ⅰ | 3 |
| | ◎地域看護学概論 | 2 | ◎精神看護学Ⅰ | 2 | ◎成人看護学実習Ⅱ | → | ◎成人看護学実習Ⅱ | 3 |
| | ◎地域生活支援基盤実習 | 1 | ◎老年看護学Ⅰ | 2 | ◎精神看護学Ⅱ | 2 | | |
| | | | ◎老年看護学Ⅱ | 2 | ◎精神看護学実習 | → | ◎精神看護学実習 | 2 |
| | | | ◎小児看護学Ⅰ | 2 | ◎老年看護学実習 | → | ◎老年看護学実習 | 2 |
| | | | ◎母性看護学Ⅰ | 2 | ◎小児看護学Ⅱ | 2 | | |
| | | | ◎母性看護学Ⅱ | 2 | ◎小児看護学実習 | → | ◎小児看護学実習 | 3 |
| | | | ◎がん看護学 | 1 | ◎母性看護学実習 | → | ◎母性看護学実習 | 2 |
| | | | | | ◎看護倫理学 | 1 | ◎統合実習 | 1 |
| | | | | | ◎看護アセスメント学 | 1 | ◎地域連携実践実習 | 1 |
| | | | | ◎看護政策・マネジメント論 | 1 | | | |
| | | | | ◎看護研究 | 1 | | | |
| | | | | ◎卒業研究 | → | ◎卒業研究 | 4 | |
| 小計 | | 25 | 小計 | 35 | 小計 | 17 | 小計 | 23 |

全カテゴリーから5単位 例：チームガバナンス演習、地域保健福祉演習、フードビジネス学、海外研修(保健福祉学) 等

小計 5

備考

- ・全カテゴリーから5単位の選択は、1年から4年の間に選択します。
- ・小計の合計単位数は卒業要件単位数となっています。

履修上の注意

臨地実習の履修要件

・3、4年次に開講する臨地実習は、「看護学基礎論Ⅰ～Ⅱ」「看護学方法論Ⅰ～Ⅵ」「基礎看護学実習Ⅰ～Ⅱ」を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

卒業研究の履修要件

・3年次後期から開講する「卒業研究」は、共通教育科目は必修科目21単位、学部教育科目は3年次前期までに修得すべき必修科目のうち72単位以上、合計93単位以上を修得しておかなければ履修できない。

◎は必修科目 ○は選択科目 →は3年次後期～4年次前期あるいは4年次後期までの通年科目

看護学科 履修モデル例

助産師をめざす場合

| 共通教育科目 | | | | | | | | |
|---------|---|----|-------------|----|-----|----|-----|----|
| | 1年次 | 単位 | 2年次 | 単位 | 3年次 | 単位 | 4年次 | 単位 |
| 修学基礎 | ◎大学で学ぶ | 1 | | | | | | |
| | ◎フレッシュマンセミナー | 1 | | | | | | |
| 人文・社会科学 | ◎人文・社会科学要論 | 2 | | | | | | |
| | ◎日本語表現法 | 2 | | | | | | |
| | ◎日本国憲法 | 2 | | | | | | |
| 自然科学 | ◎自然科学要論 | 2 | | | | | | |
| | ◎統計学 | 2 | | | | | | |
| | ○カテゴリから2単位 | 2 | | | | | | |
| 健康科学 | ○カテゴリから1単位 | 1 | ◎生命倫理学 | 1 | | | | |
| | ◎ELP1 | 1 | ◎ELP5 | 1 | | | | |
| 語学国際 | ◎ELP2 | 1 | ◎ELP6 | 1 | | | | |
| | ◎ELP3 | 1 | | | | | | |
| | ◎ELP4 | 1 | | | | | | |
| | 人文・社会科学複合PBL科目 自然科学複合PBL科目 健康科学複合PBL科目 語学国際複合PBL科目 ○カテゴリから1単位 | 1 | | | | | | |
| 社会連携 | ◎社会連携要論 | 1 | | | | | | |
| | ◎地域資源学 | 1 | | | | | | |
| | | | ○全カテゴリから2単位 | 2 | | | | |
| 小計 | | 22 | 小計 | 5 | 小計 | 0 | 小計 | 0 |

備考

- ・ELPはEnglish Language Programを指します。
- ・全カテゴリから2単位の選択例: スポーツ科学、コンピュータ演習Ⅰ、地域創生演習 等

学部教育科目

| | 1年次 | 単位 | 2年次 | 単位 | 3年次 | 単位 | 4年次 | 単位 |
|--------|-------------|----|-----------|--------|---------------|--------|-----------|--------|
| 専門基礎分野 | ◎生化学 | 2 | ◎薬理学 | 2 | ◎臨床病態学Ⅳ | 1 | | |
| | ◎微生物学 | 1 | ◎臨床病態学Ⅰ | 2 | ◎救急医学 | 1 | | |
| | ◎解剖生理学Ⅰ | 2 | ◎臨床病態学Ⅱ | 1 | ◎ヒューマンケアリング論 | 1 | | |
| | ◎解剖生理学Ⅱ | 2 | ◎臨床病態学Ⅲ | 1 | | | | |
| | ◎病理学 | 2 | | | | | | |
| | ◎家族看護学 | 1 | ◎公衆衛生学 | 2 | | | | |
| | ◎医学概論 | 1 | ◎疫学・保健統計学 | 2 | | | | |
| | ◎看護情報学 | 1 | ◎看護関係法規 | 1 | | | | |
| | | | ◎社会保障論 | 1 | | | | |
| | | | * 生殖の科学 | 1 | | | | |
| 専門分野 | ◎看護学概論 | 2 | ◎看護学基礎論Ⅱ | 1 | ◎在宅看護学Ⅱ | 2 | | |
| | ◎看護学基礎論Ⅰ | 1 | ◎看護学方法論Ⅴ | 1 | ◎在宅看護学実習 | → | ◎在宅看護学実習 | 2 |
| | ◎看護学方法論Ⅰ | 2 | ◎看護学方法論Ⅵ | 2 | ◎成人看護学Ⅲ | 1 | | |
| | ◎看護学方法論Ⅱ | 2 | ◎基礎看護学実習Ⅱ | 2 | ◎成人看護学Ⅳ | 1 | | |
| | ◎看護学方法論Ⅲ | 1 | ◎在宅看護学Ⅰ | 2 | ◎成人看護学Ⅴ | 1 | | |
| | ◎看護学方法論Ⅳ | 1 | ◎成人看護学Ⅰ | 1 | ◎成人看護学Ⅵ | 1 | | |
| | ◎基礎看護学実習Ⅰ | 1 | ◎成人看護学Ⅱ | 1 | ◎成人看護学実習Ⅰ | → | ◎成人看護学実習Ⅰ | 3 |
| | ◎地域看護学概論 | 2 | ◎精神看護学Ⅰ | 2 | ◎成人看護学実習Ⅱ | → | ◎成人看護学実習Ⅱ | 3 |
| | ◎地域生活支援基盤実習 | 1 | ◎老年看護学Ⅰ | 2 | ◎精神看護学Ⅱ | 2 | | |
| | | | ◎老年看護学Ⅱ | 2 | ◎精神看護学実習 | → | ◎精神看護学実習 | 2 |
| | | | ◎小児看護学Ⅰ | 2 | ◎老年看護学実習 | → | ◎老年看護学実習 | 2 |
| | | | ◎母性看護学Ⅰ | 2 | ◎小児看護学Ⅱ | 2 | | |
| | | | ◎母性看護学Ⅱ | 2 | ◎小児看護学実習 | → | ◎小児看護学実習 | 3 |
| | | | ◎がん看護学 | 1 | ◎母性看護学実習 | → | ◎母性看護学実習 | 2 |
| | | | | | ◎看護倫理学 | 1 | ◎統合実習 | 1 |
| | | | | | ◎看護アセスメント学 | 1 | ◎地域連携実践実習 | 1 |
| | | | | | ◎看護政策・マネジメント論 | 1 | | |
| | | | | | ◎看護研究 | 1 | | |
| | | | | | ◎卒業研究 | → | ◎卒業研究 | 4 |
| | | | | | * 助産診断・技術学Ⅱ | 2 | | |
| | | | | | * 助産診断・技術学Ⅲ | 1 | * 助産学実習 | 9 |
| | | | | | * 助産診断・技術学Ⅳ | 1 | | |
| | | | | | * 地域母子保健 | 1 | | |
| | | | | * 助産管理 | 1 | | | |
| 小計 | | 25 | 小計 | 35(*4) | 小計 | 17(*6) | | 23(*9) |

備考

- ・助産師国家試験受験資格取得に必要な単位を満たしています。

履修上の注意

- ・助産師国家試験受験資格取得に必要な「助産診断・技術学Ⅱ」「助産診断・技術学Ⅲ」「助産診断・技術学Ⅳ」「地域母子保健」「助産管理」「助産学実習」の履修可能定員は4名程度であり、2年次に希望者の中から選考により決定します。

◎は必修科目 ○は選択科目 →は3年次後期～4年次前期あるいは4年次後期までの通年科目 *は助産師科目

2. 栄養学科

2. 1 本学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

栄養学科は、人間、健康、社会に関する幅広い知識と論理的な思考力をもって、食と健康の相互関係を科学的に理解し、多様な人々と協働して栄養学の専門分野を人の健康の維持・増進、病気の予防・治療へと応用するとともに、食と人とのかかわりにおける未知なる事象の解明に向けて主体的に研究する姿勢を身に付け、岡山県から広く地域社会及び国際社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

卒業要件を満たすことにより、次の能力や態度・意欲を身に付けた者に学位を授与します。

A.【人間・社会・自然の理解】

人文科学、社会科学、自然科学、健康科学の知識を通して、人間・社会・自然を理解する力を身に付けている。

B.【倫理観】

栄養学を人の健康の維持・増進、病気の予防・治療へと応用する専門職業人として必要な倫理観と豊かな人間性を身に付けている。

C-1.【専門的知識・技能1】

保健、医療、福祉、教育の分野で栄養学の専門職として総合的に貢献するために必要な基礎的知識と技能を身に付けている。

C-2.【専門的知識・技能2】

人体の構造と機能・疾病の成立ちや食と健康の相互関係を科学的に理解し、栄養学的課題を明らかにするために必要な専門的知識と技能を身に付けている。

D.【論理的思考力・判断力・実践力】

多様な個人や集団の栄養課題を解決するために、適切かつ高度な食・健康支援を企画提案するための論理的思考力・判断力を身に付け、栄養学の専門分野を統合して人の健康の維持・増進、病気の予防・治療へと応用する実践力を身に付けている。

E.【課題発見・解決力】【主体性】

食と人とのかかわりにおける未知なる事象の解明に向けて主体的に栄養学関連分野における課題を発見し、解決できる能力を身に付けている。

F.【コミュニケーション力】

グローバル化社会において岡山県から広く地域社会及び国際社会に貢献するためのコミュニケーション力を身に付けている。

G.【多様な人々と協働する力】

保健、医療、福祉、教育関連分野で貢献するために、自他の役割を理解し、多様な人々と協調・協働して課題を解決する力を身に付けている。

2. 2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本方針】

栄養学科では、学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、4年間で系統的に修得した栄養学に関する広範囲な分野の専門的知識を基礎として、グローバルセンスを持ち、地域社会や国際社会に貢献できる知識・技術・価値を修得し、栄養学の専門的活動ができるよう、体系的な教育課程を以下のように編成しています。

【共通教育科目】

共通教育科目では、管理栄養士または栄養学に関連する専門職の活動に求められる知的実践的自律性を培うため、教養教育の導入、理論、実践を網羅する科目群を編成しています。

【修学基礎力】

高校の学びから大学での学びへの転換と準備のための初年次教育ならびに栄養学の専門性への学びを促す修学基礎科目群。

【人間・社会・自然の理解】

人間や社会及び文化について考えるため、普遍的な理論や知識を修得し、人間理解を深めるとともに、社会の仕組みや歴史を修得し、そのあり方を問う論理的思考力や課題発見力を養う人文・社会科学科目群。

自然現象やそれに関わる発見から普遍的な真理を探究することを通じ、論理的思考力や課題発見力などを身に付ける自然科学科目群。

心身の健康に関する理論や知識を修得し、生活する上で適切な判断を導く思考力を養うとともに、生涯にわたり健全な社会生活を送るための技能を修得する健康科学科目群。

以上の学問分野において、主体的に課題を設定し、調査、考察、発表、討論を経て最終的な解決に取り組む複合 PBL 科目群。

【コミュニケーション力】

グローバル化する国内外の地域で活躍するために必要な語学力を育成する語学国際科目群、相互対話によって主体的に問題に取り組み自らの見解を他者に合理的に発信できる複合 PBL 科目群。

【多様な人々と協働する力】

豊かな人間性をもって地域で活躍するために必要な課題発見力と多様な人々との協働性を養成する社会連携科目群。

【学部教育科目】

学部教育科目では、食と健康の相互関係を科学的に理解し、健康の維持・増進、病気の予防・治療へと応用するために必要な理論や、これを活用するための技能を涵養する科目群を編成してい

ます。

【専門的知識・技能1】

保健、医療、福祉、教育の分野で栄養学の専門職として総合的に貢献するために必要な基礎的知識と技能を養成する「社会・環境と健康」の科目群。

【専門的知識・技能2】

人体の構造と機能・疾病の成り立ちや食と健康の相互関係を科学的に理解し、栄養学的課題を明らかにするために必要な専門的知識と技術力を養成する「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」並びに「食べ物と健康」の科目群。

【論理的思考力・判断力・実践力】

専門基礎科目群に立脚し、個人や集団の多様な栄養課題を解決するために、論理的思考力、判断力に基づき、栄養学に関する専門的知識を活用し、応用力を身に付ける「基礎栄養学」「応用栄養学」の科目群、および修得した専門的知識を活用し、個人や集団のニーズに応じた栄養支援や給食サービス、栄養教育を実践するための応用的知識と技術を身に付ける「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」の科目群。

【倫理観】

修得した専門的知識と技術を統合し、高度専門職業人として必要な豊かな人間性と倫理観を持つとともに、多様な人々と協働して栄養学の専門分野を人の健康の維持・増進、病気の予防・治療へと応用する力を身に付ける「総合演習」「臨地実習」の科目群。

【課題発見・解決力】【主体性】

系統的に修得した栄養学に関する広範囲な分野の専門的知識を基礎として、1年を通じ、研究対象に関する深い知識の獲得や、発見した栄養課題を解決に導くため、管理栄養士や研究者の倫理を遵守した計画を主体的に立案して遂行する能力を養う卒業研究。

【教職教育科目】

【教育力】

栄養教諭として必要である専門的知識と技能を身に付けるための「教育の基礎的理解」、「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等」、「教育課程の意義及び編成の方法」及び「栄養に係る教育」に関する科目群。

教育課程の編成

| カテゴリー | 概要 | 開設授業科目 |
|--------------|---|--|
| 共通教育 | 修学基礎 | 社会人基礎力涵養と栄養学科教員によるセミナーでキャリア育成に必要な心構えや基礎的表現力を修得する。 |
| | 人文・社会科学 自然科学 健康科学 複合 PBL | 歴史観・文化観・社会観を扱う学問領域、自然科学の基礎教養、身体を健康を考えた現代生活を営むための知見について学ぶ。化学、生物などの講義を通じて、学部教育科目を理解するための基礎的な知識や、コンピュータを活用する能力を修得する。倫理観をもち、健康を支援する心を醸成し、豊かな感性を身につける。以上の学問分野において、主体的に課題を設定し、調査、考察、発表、討論を経て最終的な解決に取り組む。 |
| | 語学国際 | 英語を始めとする外国語によるコミュニケーション能力、グローバル化に対応する能力を身につける。異文化理解によるコミュニケーション力を習得する。 |
| | 社会連携 | 英語を始めとする外国語によるコミュニケーション能力、グローバル化に対応する能力および地域に貢献する人材として携えるべき能力を修得する。 |
| 学部教育(専門基礎分野) | 社会・環境と健康 | 健康、健康管理に関する基礎的な知識、方法を修得する。 |
| | 人体の構造と機能・疾病の成り立ち | 医学領域の科目群・微生物学・生化学等の講義、実験を通じて、基礎的な知識と方法を身につける。 |
| | 食べ物と健康 | 食品学・食品加工学・食品衛生学・調理学等の講義、実験、実習を通じて、食の知識と技術を身につける。 |
| 学部教育(専門分野) | 基礎栄養学 | 栄養学総論・栄養学実験を通じて栄養学の基礎を修得する。 |
| | 応用栄養学 | 栄養学各論・応用栄養生理学等の講義、実習を通じて栄養学の応用的な知識と方法を身につける。 |
| | 公衆栄養学 | 公衆栄養学・地域栄養活動の講義、実習を通じて、マスの栄養に関する知識と方法を身につける。 |
| | 栄養教育論 | 栄養教育に関する講義、演習、実習を通じて栄養の教育に関する知識と方法を身につける。 |
| | 臨床栄養学 | 病態栄養学・臨床栄養学・臨床栄養管理の講義、実験、実習を通じて、病態と栄養に関する知識と方法を修得する。 |
| | 給食経営管理論 | 給食経営管理論・フードシステム学等の講義、実習を通じて、マスの給食に関する知識と方法を身につける。 |
| | 総合演習 | 基礎から給食経営管理までの専門分野を統合できる能力、チーム医療や地域保健福祉活動、食に関する総合的な開発プロジェクトの中でのコミュニケーション能力を修得する。 |
| | 臨地実習 | 臨床栄養学・栄養教育・地域栄養・給食管理の臨地実習を通じて管理栄養士の実務を修得する。 |
| 卒業研究 | 一つのテーマについての調査・研究を通じて研究の方法、データの解析、解釈そしてまとめるという総合的な能力を修得する。 | |
| 教職科目 | 学校教育の意義の理解と、食育の実践に必要な知識、技術を身につける。 | |

2. 3 卒業要件と履修方法

(1) 卒業要件

栄養学科令和5年度入学生の卒業要件単位数は下表に示している。

| | 必修科目 | 選択科目 | 計 |
|--------|--------|-------|--------|
| 共通教育科目 | 14 単位 | 14 単位 | 28 単位 |
| 学部教育科目 | 96 単位 | 4 単位 | 100 単位 |
| 計 | 110 単位 | 18 単位 | 128 単位 |

(2) 臨地実習関連科目の履修要件

臨地実習関連 6 科目(臨床栄養学実習Ⅱ、給食運営実習、給食経営管理実習Ⅱ、公衆栄養学実習Ⅱ、総合演習Ⅰ、総合演習Ⅱ)の履修については、次の要件を充足しなければ履修申請できない。

1) 学部教育科目の必修科目の単位数を 49 以上修得している。

臨地実習 4 科目(臨床栄養学実習Ⅱ、給食運営実習、給食経営管理実習Ⅱ、公衆栄養学実習Ⅱ)の履修については、次の要件を充足しなければ履修できない。

1) 感染症対策について所定の基準を満たしている。

2) 内科学、臨床栄養学Ⅰ、臨床栄養学実習Ⅰ、給食経営管理論Ⅰ、給食経営管理論Ⅱ、給食経営管理実習Ⅰ、公衆栄養学Ⅰ、公衆栄養学Ⅱ、公衆栄養学実習Ⅰ、総合演習Ⅰをすべて履修している。

臨地実習履修および関連する科目については、以下の方針に基づいて履修するものとする。

1) 臨地実習期間中における未履修科目(集中実験を含む)の重複履修は認めない。

2) 原則として、臨地実習関連 6 科目(臨床栄養学実習Ⅱ、給食運営実習、給食経営管理実習Ⅱ、公衆栄養学実習Ⅱ、総合演習Ⅰ、総合演習Ⅱ)は同一年度に履修する。

(3) 卒業研究の履修要件

卒業研究の履修については、次の要件を充足しなければ履修申請できない。

- 1) 卒業研究 10 単位を含む 23 単位以下を修得することにより卒業要件単位(必修 110 単位を含め 128 単位)を満たす。
- 2) 原則として、臨地実習関連 6 科目の単位を全て修得している(本要件に達しない者であっても、特別の事情があれば、申し出により卒業研究の履修を認めることがある)。

(4) 他学部・他学科開講科目の取り扱い

保健福祉学部の他学科ならびに他学部開講の学部教育科目の単位を履修した場合、履修単位の 4 単位までを本学科の卒業要件単位として認定することができる。また、修得単位は卒業研究履修要件の単位数に含める。

(5) 学部教育科目

| | | 授業科目の名称 | 授業の方法 | 担当教員 | 開講年次及び必修選択の別 | | | | 開講時間数 | 開講単位数 | 卒業要件単位数 | |
|--------|----------------|--------------|-------|------------|--------------|--------|---|----|-------|-------|---------|---|
| | | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | | |
| 専 | 社会・環境と健康 | 医学概論 | 講義 | 喜多村 | ○ | | | | 15 | 1 | 100 | |
| | | 公衆衛生学 | 講義 | ※三好 | ◎ | | | | 30 | 2 | | |
| | | 健康管理論 | 講義 | 喜多村 | ◎ | | | | 30 | 2 | | |
| | | | | 社会福祉政策論 | 講義 | 岩満 | ○ | | | 30 | | 2 |
| | | | | 保健福祉システム概論 | 講義 | ※秋山 | | ◎ | | 30 | | 2 |
| | | | | 看護の世界 | 講義 | 森本 | ○ | | | 15 | | 1 |
| | | | | 食生活論 | 講義 | 池口 | ○ | | | 15 | | 1 |
| | | | | 健康情報演習 | 演習 | 田淵 | ◎ | | | 30 | | 1 |
| 門 | 人体の構造と機能・疾病の成立 | 病理学 | 講義 | 荻野 | | ◎ | | | 30 | 2 | | |
| | | 生化学 | 講義 | 川上(祐) | ◎ | | | | 30 | 2 | | |
| | | 微生物学 | 講義 | 田中 | ◎ | | | | 30 | 2 | | |
| | | 内科学 | 講義 | 入江 | | ◎ | | | 30 | 2 | | |
| | | 栄養サポートチーム論 | 講義 | ※犬飼 | | | ○ | | 15 | 1 | | |
| | | 代謝生化学 | 講義 | 山下 他 | ◎ | | | | 30 | 2 | | |
| | | 分子生物学 | 講義 | 川上(祐) | | ◎ | | | 30 | 2 | | |
| | | 栄養学のための解剖生理学 | 講義 | 入江 | | ◎ | | | 30 | 2 | | |
| | | 薬理学 | 講義 | 入江 | | ○ | | | 30 | 2 | | |
| | | 解剖生理学実験Ⅰ | 実験 | 高橋(吉)・戸田 | | ◎ | | | 45 | 1 | | |
| | | 解剖生理学実験Ⅱ | 実験 | 入江・井上 | | | ◎ | | 45 | 1 | | |
| | | 微生物学実験 | 実験 | 田中・岩岡 | | ◎ | | | 45 | 1 | | |
| 基 | 食べ物と健康 | 生化学実験Ⅰ | 実験 | 川上(祐)・岩岡 | | ◎ | | 45 | 1 | | | |
| | | 生化学実験Ⅱ | 実験 | 川上(祐)・岩岡 | | | ◎ | 45 | 1 | | | |
| | | 食品学Ⅰ | 講義 | 伊東 | ◎ | | | | 30 | 2 | | |
| | | 食品学Ⅱ | 講義 | 伊東 | ◎ | | | | 30 | 2 | | |
| | | 食品材料学 | 講義 | 山下 | | ◎ | | | 30 | 2 | | |
| | | 食品加工演習 | 演習 | 池口・丸田 | | ○ | | | 30 | 1 | | |
| 分 | 食べ物と健康 | 食品分析学 | 講義 | 池口 | ○ | | | 15 | 1 | | | |
| | | 食品衛生学 | 講義 | 田中 | | ◎ | | 15 | 1 | | | |
| | | 調理学 | 講義 | 丸田 | ◎ | | | 30 | 2 | | | |
| | | フードビジネス学 | 講義 | 伊東 他 | | | ○ | | 30 | 2 | | |
| | | 機能性食品開発学 | 講義 | 池口 | | | ○ | | 15 | 1 | | |
| | | 食品学実験Ⅰ | 実験 | 伊東・岩岡 | | ◎ | | 45 | 1 | | | |
| | | 食品学実験Ⅱ | 実験 | 山下・岩岡 | | ◎ | | 45 | 1 | | | |
| | | 食品衛生学実験 | 実験 | 田中・津嘉山 | | | ◎ | | 45 | 1 | | |
| | | 調理学実習Ⅰ | 実習 | 丸田 | ◎ | | | 45 | 1 | | | |
| | | 調理学実習Ⅱ | 実習 | 丸田 | | ◎ | | 45 | 1 | | | |
| | | 野 | 基礎栄養学 | 食品学実験Ⅱ | 実験 | 山下・岩岡 | | ◎ | | 45 | 1 | |
| | | | | 食品衛生学実験 | 実験 | 田中・津嘉山 | | | ◎ | 45 | 1 | |
| 調理学実習Ⅰ | 実習 | | | 丸田 | ◎ | | | 45 | 1 | | | |
| 調理学実習Ⅱ | 実習 | | | 丸田 | | ◎ | | 45 | 1 | | | |
| 基礎栄養学 | 講義 | | | 山本 | ◎ | | | 30 | 2 | | | |
| 基礎栄養学 | 実験 | | | 池口・岩岡 | ◎ | | | 45 | 1 | | | |
| 基礎栄養学 | 実験 | | | 山本 | | ◎ | | 45 | 1 | | | |
| 基礎栄養学 | 講義 | | | 山本 | ◎ | | | 30 | 2 | | | |
| 専門分野 | 応用栄養学 | 基礎栄養学 | 実験 | 山本 | | ◎ | | 45 | 1 | | | |
| | | 基礎栄養学 | 講義 | 山本 | ◎ | | | 30 | 2 | | | |
| | | 基礎栄養学 | 講義 | 山本 | ◎ | | | 30 | 2 | | | |
| | | 基礎栄養学 | 講義 | 高橋(吉) | | ◎ | | 30 | 2 | | | |
| | | 基礎栄養学 | 講義 | 山下・綾部 | | ○ | | 30 | 2 | | | |
| | | 基礎栄養学 | 実習 | 山本・井上(里) | | | ◎ | 45 | 1 | | | |

100

単

位

第4章 学部教育
(保健福祉学部)

(6) 教職教育科目

| | 授業科目の名称 | 授業の方法 | 担当教員 | 開講年次及び必修選択の別 | | | | 開講時間数 | 単位数 | | |
|--|------------------------------------|------------------------------|--------|--------------|--------|---|---|-------|-------|-------|--------------|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | 開講単位数 | 必要単位数 | |
| | | | | | | | | | | | |
| 教職に関する科目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | 教育基礎論 | 講義 | 池田 | ● | | | | 30 | 2 | 32 単 位 |
| | | 教師論 | 講義 | 都島 | ● | | | | 30 | 2 | |
| | | 教育心理学 | 講義 | 樂木 | ● | | | | 30 | 2 | |
| | | 特別支援教育概論 | 講義 | 京林 | | ● | | | 15 | 1 | |
| | | 教育課程論 | 講義 | 都島 | ● | | | | 15 | 1 | |
| | 道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法(道徳教育を含む) | 講義 | 都島・※都田 | ● | | | | 15 | 1 | |
| | | 教育方法論 | 講義 | 都島 | | ● | | | 30 | 2 | |
| | | 生徒指導論 | 講義 | 都島 | | ● | | | 30 | 2 | |
| | | 教育相談(カウンセリング論を含む) | 講義 | 京林 | | ● | | | 15 | 1 | |
| | 教育実践に関する科目 | 学校栄養教育実習Ⅰ(事前事後指導) | 実習 | 川上(貴)他 | | | ● | ● | 45 | 1 | |
| | | 学校栄養教育実習Ⅱ | 実習 | 川上(貴)他 | | | | ● | 45 | 1 | |
| | | 教職実践演習(栄養教諭) | 演習 | 川上(貴)他 | | | | ● | 60 | 2 | |
| | 栄養に係る教育に関する科目 | 学校栄養教育論Ⅰ | 講義 | 川上(貴)・久保田 | | | ● | | 30 | 2 | |
| | | 学校栄養教育論Ⅱ | 講義 | 川上(貴)・※中桐 | | | | ● | 30 | 2 | |
| | 第66条の6に定める科目 | 日本国憲法 | 日本国憲法 | *1 講義 | ※伊藤(治) | ● | | | | 30 | |
| 体育 | | 健康スポーツA | *1 講・実 | 綾部・※森村 | ○ | | | | 30 | 1 | |
| | | 健康スポーツB | *1 講・実 | ※齋藤(智)・※犬飼 | ○ | | | | 30 | 1 | |
| | | スポーツ科学 | *1 講義 | 綾部 | ○ | | | | 15 | 1 | |
| 外国語コミュニケーション | | English Language Program 1 | *1 演習 | ※上仲 | ● | | | | 30 | 1 | |
| | | English Language Program 2 | *1 演習 | ※笠本 | ● | | | | 30 | 1 | |
| | | English Language Program 3 | *1 演習 | ※上仲 | ● | | | | 30 | 1 | |
| | | English Language Program 4 | *1 演習 | ※林 | ● | | | | 30 | 1 | |
| 情報機器の操作 | | コンピュータ演習Ⅰ | *1 演習 | ※藤本 | ● | | | | 30 | 1 | |
| | | 健康情報演習 | *2 演習 | 田淵 | ● | | | | 30 | 1 | |
| (注) ・「*1」印は共通教育科目、「*2」印は学部教育科目 ・「●」印は栄養教諭一種免許状取得のための必修科目、「○」印は選択科目、「※」印は非常勤講師 | | | | | | | | | | | |
| 栄養教諭一種免許状取得のために必要な取得単位数 ・教職教育科目等 32単位(共通教育科目と学部教育科目の計10単位含む) | | | | | | | | | | | |

(7) 科目ナンバリング

| 授業科目の名称 | 科目ナンバリング | 分野1(略称と英語名称) | | 分野2(略称と英語名称) | |
|---------------|------------------------------|------------------|-------------------------------|---|---|
| | | 略称 | 英語名称 | 略称 | 英語名称 |
| 社会・環境と健康 | 医学概論 | IND,IME-12-1E-L1 | IND interdisciplinary (学際的) | IME | Introduction to Medicine |
| | 公衆衛生学 | IND,PUH-12-1R-L1 | | PUH | Public Health |
| | 健康管理論 | IND,PHS-12-1R-L1 | | PHS | Principle of Health Science |
| | 社会福祉政策論 | IND,WPO-12-1E-L1 | | WPO | Social Welfare Policy |
| | 保健福祉システム概論 | IND,IHW-12-2R-L1 | | IHW | Introduction to Health and Welfare Systems |
| | 看護の世界 | IND,WNU-12-1E-L1 | | WNU | World of Nursing |
| | 食生活論 | IND,FOH-12-1E-L1 | | FOH | Food and Health |
| | 健康情報演習 | IND,HIP-12-1R-S1 | | HIP | Health Information Processing Exercise |
| | 人体の構造と機能・疾病の成立 | 病理学 | | BAM,PAT-12-2R-L1 | BAM Basic Medicine 基礎医学 |
| 生化学 | | BAM,BIC-12-1R-L1 | BIC | Biochemistry | |
| 微生物学 | | BAM,MIB-12-1R-L1 | MIB | Microbiology | |
| 内科学 | | BAM,INM-12-2R-L1 | INM | Internal Medicine | |
| 栄養サポートチーム論 | | BAM,NSP-12-3E-L1 | NSP | Team Work Principles for Nutritional Support | |
| 代謝生化学 | | BAM,MEB-12-1R-L1 | MEB | Metabolic Biochemistry | |
| 分子生物学 | | BAM,MOB-12-2R-L1 | MOB | Molecular Biology | |
| 栄養学のための解剖生理学 | | BAM,APN-12-2R-L1 | APN | Anatomy and Physiology for Clinical Nutrition | |
| 薬理学 | | BAM,PHA-12-2E-L1 | PHA | Pharmacology | |
| 解剖生理学実験Ⅰ | | BAM,AP1-12-2R-P1 | AP1 | Anatomy and Physiology Experiment I | |
| 解剖生理学実験Ⅱ | | BAM,AP2-12-3R-P1 | AP2 | Anatomy and Physiology Experiment II | |
| 微生物学実験 | | BAM,MIB-12-2R-P1 | MIB | Microbiology Experiment | |
| 生化学実験Ⅰ | | BAM,BC1-12-2R-P1 | BC1 | Biochemistry Experiment I | |
| 生化学実験Ⅱ | | BAM,BC2-12-3R-P1 | BC2 | Biochemistry Experiment II | |
| 食べ物と健康 | 食品学Ⅰ | FOS,FS1-12-1R-L1 | FOS Food Science 食品科学 | FS1 | Food Science I |
| | 食品学Ⅱ | FOS,FS2-12-1R-L1 | | FS2 | Food Science II |
| | 食品材料学 | FOS,FOM-12-2R-L1 | | FOM | Food Materials |
| | 食品加工演習 | FOS,FPT-12-2E-S1 | | FPT | Exercise of Food Processing Technology |
| | 食品分析学 | FOS,FOA-12-1E-L1 | | FOA | Food Analysis |
| | 食品衛生学 | FOS,FOH-12-2R-L1 | | FOH | Food Hygiene |
| | 調理学 | FOS,COO-12-1R-L1 | | COO | Cooking |
| | フードビジネス学 | FOS,FOB-12-3E-L1 | | FOB | Food business |
| | 機能性食品開発学 | FOS,FFD-12-3E-L1 | | FFD | Functional Food Development |
| | 食品学実験Ⅰ | FOS,FS1-12-2R-P1 | | FS1 | Food Science Experiment I |
| | 食品学実験Ⅱ | FOS,FS2-12-2R-P1 | | FS2 | Food Science Experiment II |
| | 食品衛生学実験 | FOS,FOH-12-3R-P1 | | FOH | Food Hygiene Experiment |
| | 調理学実習Ⅰ | FOS,CP1-12-1R-P1 | | CP1 | Cooking Practice I |
| | 調理学実習Ⅱ | FOS,CP2-12-2R-P1 | | CP2 | Cooking Practice II |
| 基礎栄養学 | 栄養学総論 | BAN,FNS-12-1R-L1 | BAN Basic Nutrition 基礎栄養学 | FNS | Fundamental Nutritional Science |
| | 栄養学基礎実験 | BAN,FCE-12-1R-P1 | | FCE | Fundamental Chemical Experiment |
| | 栄養学実験 | BAN,NUS-12-2R-P1 | | NUS | Nutritional Science Experiment |
| 応用栄養学 | 栄養学各論Ⅰ | PAN,AN1-12-2R-L1 | PAN Practical Nutrition 実践栄養学 | AN1 | Applied Nutritional Science I |
| | 栄養学各論Ⅱ | PAN,AN2-12-2R-L1 | | AN2 | Applied Nutritional Science II |
| | 応用栄養生理学 | PAN,SOM-12-2R-L1 | | NPA | Nutritional Pathophysiology |
| | スポーツ栄養学 | PAN,EXN-12-2E-L1 | | EXN | Exercise Nutrition |
| | 栄養学実習 | PAN,NUP-12-3R-P1 | | NUP | Nutrition Practice |
| | 栄養教育論 | 栄養教育論Ⅰ | | PAN,NE1-12-2R-L1 | NE1 |
| 栄養教育論Ⅱ | | PAN,NE2-12-3R-L1 | NE2 | Nutritional Education II | |
| カウンセリング演習 | | PAN,PSC-12-2R-S1 | PSC | Seminar of Psychological Counseling | |
| 栄養教育プログラム論 | | PAN,CSD-12-2R-L1 | CSD | Communication Skills for Dietitian | |
| 栄養教育実習 | | PAN,NUE-12-3R-P1 | NUE | Nutritional Education Practice | |
| 臨床栄養学 | 病態栄養学 | PAN,BCN-12-3R-L1 | BCN | Biochemical Bases of Clinical Nutrition | |
| | 臨床栄養学Ⅰ | PAN,CN1-12-3R-L1 | | CN1 | Clinical Nutrition I |
| | 臨床栄養学Ⅱ | PAN,CN2-12-4R-L1 | | CN2 | Clinical Nutrition II |
| | 臨床栄養管理 | PAN,NCM-12-3R-L1 | | NCM | Nutrition Care and Management |
| | 臨床栄養学実験 | PAN,CNE-12-3R-P1 | | CNE | Clinical Nutrition Experiment |
| | 臨床栄養学実習Ⅰ | PAN,CN1-12-3R-P1 | | CN1 | Clinical Nutrition Practice I |
| 公衆栄養学 | 公衆栄養学Ⅰ | PAN,PN1-12-1R-L1 | PN1 | Public Health Nutrition I | |
| | 公衆栄養学Ⅱ | PAN,PN2-12-2R-L1 | | PN2 | Public Health Nutrition II |
| | 公衆栄養学実習Ⅰ | PAN,PN1-12-3R-P1 | | PN1 | Public Health Nutrition Practice I |
| 給食経営管理論 | 給食経営管理論Ⅰ | PAN,FM1-12-3R-L1 | FM1 | Food Service and Management I | |
| | 給食経営管理論Ⅱ | PAN,FM2-12-3R-L1 | | FM2 | Food Service and Management II |
| | フードシステム学 | PAN,FOE-12-1R-L1 | | FOE | Food Economics |
| | 給食経営管理実習Ⅰ | PAN,FM1-12-3R-P1 | | FM1 | Food Service and Management Practice I |
| 総合演習 | 総合演習Ⅰ | PAN,GE1-12-3R-S1 | CBL | General Exercise I | |
| | 総合演習Ⅱ | PAN,GE2-12-3R-S1 | | GE2 | General Exercise II |
| | 総合演習Ⅲ | PAN,GE3-12-4R-S1 | | GE3 | General Exercise III |
| | チームガバナビリティ演習 | CBL,TGE-12-3E-S1 | | TGE | Team Governability Exercise |
| | 海外研修(保健福祉学) | CBL,SAP-12-1E-S1 | | SAP | Study Abroad Program(Health and Welfare Science) |
| | 地域保健福祉演習 | CBL,RHW-12-3E-S1 | | RHW | Practice of Regional Health and Welfare |
| 臨地実習 | 臨床栄養学実習Ⅱ | PAN,CN2-12-3R-P1 | CN2 | Clinical Nutrition Practice II | |
| | 給食運営実習 | PAN,FSP-12-3R-P1 | | FSP | Food Service Practice |
| | 公衆栄養学実習Ⅱ | PAN,PN2-12-3R-P1 | | PN2 | Public Health Nutrition Practice II |
| | 給食経営管理実習Ⅱ | PAN,FM2-12-3R-P1 | | FM2 | Food Service and Management Practice II |
| 卒業研究 | PAN,GRP-12-4R-S1 | GRP | Graduation Project | | |
| 教職に関する科目 | 教育基礎論 | EDU,PRE-12-1R-L1 | EDU Education | PRE | Principles of Education |
| | 教師論 | EDU,TEP-12-1R-L1 | | TEP | Teaching Profession |
| | 教育心理学 | EDU,EDP-12-1R-L1 | | EDP | Educational Psychology |
| | 特別支援教育概論 | EDU,SSE-12-2R-L1 | | SSE | Special Support Education |
| | 教育課程論 | EDU,CUS-12-1R-L1 | | CUS | Curriculum Study |
| | 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法(道徳教育を含む) | EDU,EXA-12-1R-L1 | | EXA | Extracurricular Activities, Integrated Studies, Moral Education |
| | 教育方法論 | EDU,TEM-12-2R-L1 | | TEM | Teaching Methodology |
| | 生徒指導論 | EDU,SGT-12-2R-L1 | | SGT | Student Guidance Theory |
| | 教育相談(カウンセリング論を含む) | EDU,EDC-12-2R-L1 | | EDC | Educational Counseling |
| | 学校栄養教育実習Ⅰ(事前事後指導) | EDU,NS1-12-3R-P1 | | NS1 | Nutritional Education for School Children Practice I |
| 卒業に係る教育に関する科目 | 学校栄養教育実習Ⅱ | EDU,NS2-12-4R-P1 | NES | Nutritional Education for School Children Practice II | |
| | 教職実践演習(栄養教諭) | EDU,GTE-12-4R-S1 | | GTE | General Teaching Exercise |
| | 学校栄養教育論Ⅰ | NES,NS1-12-3R-L1 | | NS1 | Nutritional Education for School Children I |
| | 学校栄養教育論Ⅱ | NES,NS2-12-4R-L1 | | NS2 | Nutritional Education for School Children II |

2. 4 資格の取得

規定の単位(2.3 卒業要件と履修方法参照)を修得すれば、卒業と同時に栄養士免許と管理栄養士の国家試験受験資格に加えて、食品衛生管理者ならびに食品衛生監視員の任用資格が得られる。

- (1) 栄養士免許:卒業後に、住居地の都道府県に申請することにより免許証を取得することができる。(付表1参照)
- (2) 管理栄養士国家試験受験資格:卒業後に、管理栄養士国家試験を受験し、合格者は住居地の都道府県に申請することにより免許証を取得することができる。(付表2参照)
- (3) 食品衛生管理者、食品衛生監視員:本学科はカリキュラム編成の点から、食品衛生管理者ならびに食品衛生監視員養成施設(以後、食管養成施設という)の認定を受けている。付表3には、食管養成施設としての指定基準に定められた必要科目と対応した本学科における開講科目を示した。(食品衛生任用資格取得コース)

[任用資格]

- ① 食品衛生管理者とは、食品または添加物の製造および加工を衛生的に管理するための専門資格であり、当該の施設ごとに配置することが義務づけられている。この資格は、卒業後に衛生管理を必要とする施設等に就職してから、居住地の都道府県に申請することにより取得できる。
- ② 食品衛生監視員とは、国、都道府県および保健所を設置する市で、食品衛生に関する監視、指導等に従事する職員(国家および地方公務員)のことである。この資格は、先の職業に就く時に必要である。詳細については、国または都道府県等の募集要項を参照されたい。

2. 5 入学前の既修得単位の認定(資格取得との関係において)

本学入学前に、他の大学または短期大学で修得した単位は、本学の卒業要件単位として認定されることがある(第1章 履修について参照)。ただし、食管養成施設でない大学または短期大学出身者が付表3に示した食管養成施設としての指定基準に定められた必要科目について認定を受けた場合は、食品衛生管理者ならびに食品衛生監視員の任用資格は得られないことに留意すること。

2. 6 栄養教諭免許状の取得に関する単位履修要領

本学科は栄養教諭の教職課程の設置もあり、上記の卒業要件単位数の他に以下に示す所定の単位を修得すれば、栄養教諭の免許状が得られる。

(1) 教育目標

本学科では、人の健康の維持・増進、病気の予防・治療へと応用できる人材育成の目的に基づき、学校においては児童生徒の健全な人間形成を支えるために食育を中心とした教育能力を備えた栄養教諭の養成をめざしている。

(2) 免許状の種類：栄養教諭一種免許状

(3) 基礎資格：学士の学位を有し、次の各号のいずれかに該当するものとする。

- ① 栄養士法第2条第3項の規定により管理栄養士の免許を受けていること。
- ② 栄養士法第5条の3第4号の規定により管理栄養士養成施設の課程を修了し、同法第2条第1項の規定により栄養士の免許を受けていること。

(4) 所要単位数（必要最低単位数）

| 科目区分および単位数 | | |
|--------------------------------|------------------|----------------------|
| 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 8単位 | 教職に関する科目 18単位 | 栄養に係る教育に関する科目 4単位 |

(5) 法令で規定された単位数

① 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

| 免許法施行規則に定める科目 | | 対応する開設授業科目 | | |
|---------------|------|------------|----------------------------|-----|
| 科目 | 単位数 | 科目区分 | 授業科目名 | 単位数 |
| 日本国憲法 | 2 | 共通教育科目 | 日本国憲法 | 2 |
| 体育 | 2 | 共通教育科目 | 健康スポーツ A | 1 |
| | | | 健康スポーツ B | 1 |
| | | | スポーツ科学 | 1 |
| 外国語コミュニケーション | 2(*) | 共通教育科目 | English Language Program 1 | 1 |
| | | | English Language Program 2 | 1 |
| | | | English Language Program 3 | 1 |
| | | | English Language Program 4 | 1 |
| 情報機器の操作 | 2 | 共通教育科目 | コンピュータ演習 I | 1 |
| | | 学部教育科目 | 健康情報演習 | 1 |

*ただし、本学科の卒業要件として右欄に示された英語4科目が必修科目となる。

② 教職に関する科目(教職科目)

| 免許法施行規則に定める科目 | 対応する開設授業科目 | |
|------------------------------------|------------------------------|-----|
| 科目 | 授業科目名 | 単位数 |
| 教育の基礎的理解に関する科目 | 教育基礎論 | 2 |
| | 教師論 | 2 |
| | 教育心理学 | 2 |
| | 特別支援教育概論 | 1 |
| | 教育課程論 | 1 |
| 道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法(道徳教育を含む) | 1 |
| | 教育方法論 | 2 |
| | 生徒指導論 | 2 |
| | 教育相談(カウンセリング論を含む) | 1 |
| 教育実践に関する科目 | 学校栄養教育実習Ⅰ(事前事後指導) | 1 |
| | 学校栄養教育実習Ⅱ | 1 |
| | 教職実践演習(栄養教諭) | 2 |

③ 栄養に係る教育に関する科目

| 対応する開設授業科目 | |
|------------|-----|
| 授業科目名 | 単位数 |
| 学校栄養教育論Ⅰ | 2 |
| 学校栄養教育論Ⅱ | 2 |

(6) 栄養教育実習の受講資格

学校栄養教育実習(4年次前期)を受講するには、原則としてそれまでに履修しておかなければならないすべての科目(管理栄養士養成課程ならびに栄養教諭の教職課程の必修科目)の単位取得を必要とする。

(7) 教職実践演習の受講資格

教職実践演習(4年次後期)を受講するには、学校栄養教育実習の受講資格を得るとともに、1年次から履修しているすべての科目(管理栄養士養成課程ならびに栄養教諭教育課程)について、履修カルテを作成し、半期ごとに履修履歴に関して担当教員との面談を行うこと。

(付表1) 栄養士の資格を取得するために必要な授業科目及び単位数

| 栄養士法施行規則別表第1に定められる教育内容 | | | 保健福祉学部栄養学科における開設科目等 | | |
|------------------------|----------------|----------------|---------------------|----------------|----------------|
| 教育内容 | 単位数 | | 授業科目等の名称 | 配当単位数 | |
| | 講義 又は 演習 | 実験 又は 実習 | | 講義 又は 演習 | 実験 又は 実習 |
| 社会生活と健康 | 4 | 4 | 公衆衛生学 | 2 | |
| | | | 健康管理論 | 2 | |
| | | | 保健福祉システム概論 | 2 | |
| | | | 健康情報演習 | 1 | |
| | | | 小計 | 7 | 0 |
| 人体の構造と機能 | 8 | 4 | 病理学 | 2 | |
| | | | 生化学 | 2 | |
| | | | 微生物学 | 2 | |
| | | | 内科学 | 2 | |
| | | | 代謝生化学 | 2 | |
| | | | 分子生物学 | 2 | |
| | | | 栄養学のための解剖生理学 | 2 | |
| | | | 解剖生理学実験Ⅰ | | 1 |
| | | | 解剖生理学実験Ⅱ | | 1 |
| | | | 微生物学実験 | | 1 |
| | | | 生化学実験Ⅰ | | 1 |
| 生化学実験Ⅱ | | 1 | | | |
| | | | 小計 | 14 | 5 |
| 食品と衛生 | 6 | 4 | 食品学Ⅰ | 2 | |
| | | | 食品学Ⅱ | 2 | |
| | | | 食品材料学 | 2 | |
| | | | 食品衛生学 | 1 | |
| | | | 食品学実験Ⅰ | | 1 |
| | | | 食品学実験Ⅱ | | 1 |
| | | | 食品衛生学実験 | | 1 |
| | | | 小計 | 7 | 3 |
| 栄養と健康 | 8 | 10 | 栄養学総論 | 2 | |
| | | | 栄養学各論Ⅰ | 2 | |
| | | | 栄養学各論Ⅱ | 2 | |
| | | | 応用栄養生理学 | 2 | |
| | | | 病態栄養学 | 2 | |
| | | | 臨床栄養学Ⅰ | 2 | |
| | | | 臨床栄養学Ⅱ | 2 | |
| | | | 臨床栄養管理 | 2 | |
| | | | 栄養学基礎実験 | | 1 |
| | | | 栄養学実験 | | 1 |
| | | | 栄養学実習 | | 1 |
| | | | 臨床栄養学実験 | | 1 |
| | | | 臨床栄養学実習Ⅰ | | 1 |
| | | | 小計 | 16 | 5 |
| 栄養の指導 | 6 | 10 | 栄養教育論Ⅰ | 2 | |
| | | | 栄養教育論Ⅱ | 2 | |
| | | | 栄養教育プログラム論 | 1 | |
| | | | 公衆栄養学Ⅰ | 2 | |
| | | | 公衆栄養学Ⅱ | 2 | |
| | | | 栄養教育実習 | | 1 |
| | | | 公衆栄養学実習Ⅰ | | 1 |
| | | | 小計 | 9 | 2 |
| 給食の運営 | 4 | 10 | 給食経営管理論Ⅰ | 2 | |
| | | | 給食経営管理論Ⅱ | 1 | |
| | | | フードシステム学 | 2 | |
| | | | 調理学 | 2 | |
| | | | 調理学実習Ⅰ | | 1 |
| | | | 調理学実習Ⅱ | | 1 |
| | | | 給食運営実習 | | 1 |
| | | | 給食経営管理実習Ⅰ | | 1 |
| | | | 小計 | 7 | 4 |
| 小計 | 36 | 14 | 小計 | 60 | 19 |
| 合計 | 50 | | 合計 | 79 | |

(付表2) 管理栄養士国家試験受験資格を取得するために必要な授業科目及び単位数

| 管理栄養士学校指定規則別表第1に定められる教育内容 | | | 保健福祉学部栄養学科における開設科目等 | | | | | | |
|---------------------------|-------------------|----------------|---------------------|---|---|-----------------------|------------------|----|----|
| 教育内容 | 単位数 | | 授業科目等の名称 | 配当単位数 | | | | | |
| | 講義 又は 演習 | 実験 又は 実習 | | 講義 又は 演習 | 実験 又は 実習 | | | | |
| 専門基礎分野 | 社会・環境と健康 | 6 | 10 | 公衆衛生学 健康管理論 保健福祉システム概論 健康情報演習 小計 | 2 2 2 1 7 0 | | | | |
| | 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち | 14 | 10 | 病理学 生化学 微生物学 内科学 代謝生化学 分子生物学 栄養学のための解剖生理学 解剖生理学実験Ⅰ 解剖生理学実験Ⅱ 微生物学実験 生化学実験Ⅰ 生化学実験Ⅱ 小計 | 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 14 5 | | | | |
| | 食べ物と健康 | 8 | | 食品学Ⅰ 食品学Ⅱ 食品材料学 食品衛生学 調理学 食品学実験Ⅰ 食品学実験Ⅱ 食品衛生学実験 調理学実習Ⅰ 調理学実習Ⅱ 小計 | 2 2 2 1 2 1 1 1 1 1 9 5 | | | | |
| 専門基礎分野小計 | | 28 | 10 | 専門基礎分野小計 | | 30 | 10 | | |
| 専門分野 | 基礎栄養学 | 2 | 8 | 栄養学総論 栄養学基礎実験 栄養学実験 小計 | 2 1 1 2 | 1 1 | | | |
| | 応用栄養学 | 6 | | 栄養学各論Ⅰ 栄養学各論Ⅱ 応用栄養生理学 栄養学実習 小計 | 2 2 2 6 1 | 1 | | | |
| | 栄養教育論 | 6 | | 栄養教育論Ⅰ 栄養教育論Ⅱ カウンセリング演習 栄養教育プログラム論 栄養教育実習 小計 | 2 2 1 1 6 1 | 1 | | | |
| | 臨床栄養学 | 8 | | 病態栄養学 臨床栄養学Ⅰ 臨床栄養学Ⅱ 臨床栄養管理 臨床栄養学実験 臨床栄養学実習Ⅰ 小計 | 2 2 2 2 1 1 8 2 | 1 1 | | | |
| | 公衆栄養学 | 4 | | 公衆栄養学Ⅰ 公衆栄養学Ⅱ 公衆栄養学実習Ⅰ 小計 | 2 2 4 1 | 1 | | | |
| | 給食経営管理論 | 4 | | 給食経営管理論Ⅰ 給食経営管理論Ⅱ フードシステム学 給食経営管理実習Ⅰ 小計 | 2 1 2 5 1 | 1 | | | |
| | 総合演習 | 2 | | 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ 総合演習Ⅲ 小計 | 1 1 1 3 | 0 | | | |
| | 臨地実習 | — | | 4 | 臨床栄養学実習Ⅱ 給食運営実習 公衆栄養学実習Ⅱ 給食経営管理実習Ⅱ 小計 | 1 1 1 4 0 | 1 1 1 4 | | |
| | 専門分野小計 | | | 32 | 12 | 専門分野小計 | | 34 | 12 |
| | 小計 | | | 60 | 22 | 小計 | | 64 | 22 |
| 合計 | | 82 | | 合計 | | 86 | | | |

(付表3) 食品衛生管理者および食品衛生監視員の任用資格を取得するために必要な授業科目及び単位数

| 食管養成施設としての指定基準に定める必要科目 | | 保健福祉学部栄養学科（食品衛生任用資格取得コース）開講科目 | | |
|--|-------|-------------------------------|-----|-----|
| 科 目 | 単 位 数 | 科 目 | 単 位 | |
| | | | 必 修 | 選 択 |
| 分析化学 有機化学 1科目以上 無機化学 | 22 | 生化学実験 II | 1 | |
| | | 生化学実験 I | 1 | |
| | | 生化学基礎実験 | 2 | |
| 生物化学 食品化学 食品分析学 1科目以上 生理学 毒性学 | 40 | 代謝生化学 | 2 | |
| | | 食品学 I | 2 | |
| | | 食品学 II | 2 | |
| | | 食品材料学 | 2 | |
| | | 食品分析学 | 1 | 1 |
| | | 食品学実験 I | 1 | |
| | | 食品学実験 II | 2 | |
| | | 栄養学のための解剖生理学 | 1 | |
| | | 解剖生理学実験 I | 1 | |
| | | 解剖生理学実験 II | 1 | |
| 微生物学 食品微生物学 1科目以上 食品保存学・食品製造学 | 40 | 微生物学 | 2 | |
| | | 微生物学実験 | 1 | |
| | | 食品加工演習 | | 1 |
| 公衆衛生学 食品衛生学 1科目以上 環境衛生学 衛生行政学、疫学 | 40 | 公衆衛生学 | 2 | |
| | | 食品衛生学 | 1 | |
| | | 食品衛生学実験 | 1 | |
| | | 公衆栄養学 I | 2 | |
| 小 計 | | | 28 | 2 |
| (例示) 病理学 医学概論 栄養学、酵素化学 栄養学 環境保健学 解剖学、栄養化学、血清学 衛生管理学 衛生統計学 医化学、遺伝学 環境保健学 衛生管理学 衛生管理学 血液学、栄養化学 衛生管理学 | 40 | (例示科目該当科目) | | |
| | | 病理学 | 2 | 1 |
| | | 医学概論 | | |
| | | 栄養学総論 | 2 | |
| | | 栄養学各論 I | 2 | |
| | | 栄養学各論 II | 2 | |
| | | 栄養学実験 | 1 | |
| | | 臨床栄養学 I | 2 | |
| | | 臨床栄養学 II | 2 | |
| | | 病態栄養学 | 2 | |
| | | 応用栄養生理学 | 2 | |
| | | 臨床栄養学実習 I | 1 | |
| | | 臨床栄養学実習 II | 1 | |
| | | 臨床栄養学実験 | 1 | |
| | | 公衆栄養学実習 I | 1 | |
| | | (例示科目以外の関連科目) | | |
| | | 調理学 | 2 | |
| | | 調理学実習 I | 1 | |
| | | 調理学実習 II | 1 | |
| | | 食生活論 | | 1 |
| 栄養教育論 I | 2 | | | |
| 栄養教育論 II | 2 | | | |
| 栄養教育実習 | 1 | | | |
| 給食経営管理論 I | 2 | | | |
| 給食経営管理論 II | 1 | | | |
| フードシステム学 | 2 | | | |
| 給食経営管理実習 I | 1 | | | |
| 給食経営管理実習 II | 1 | | | |
| 給食運営実習 | 1 | | | |
| 小 計 | | 38 | 2 | |
| 合 計 | | 66 | 4 | |

栄養学科 カリキュラムマップ<2023年度>

| 授業科目の名称 | | 学位授与の方針に対する関与の程度 ◎:各方針と関係が深い科目 ○:各方針と関係する科目 | | | | | | | |
|------------------------------|-----------------------------------|---|---------|-----|-----|---|---|---|---|
| | | A | B | C-1 | C-2 | D | E | F | G |
| 専 門 基 礎 | 社会・環境と健康 | 医学概論 | | ◎ | | | | | |
| | | 公衆衛生学 | | ◎ | | | | | |
| | | 健康管理論 | | ◎ | | | | | |
| | | 社会福祉政策論 | | ◎ | | | | | |
| | | 保健福祉システム概論 | | ◎ | | | | | |
| | | 看護の世界 | | ◎ | | | | | |
| | 人体の構造と機能・疾病の成り立ち | 食生活論 | ○ | | | | | | ○ |
| | | 健康情報演習 | | ◎ | | | | | |
| | | 病理学 | | | | ◎ | | | |
| | | 生化学 | | | | ◎ | | | |
| | | 微生物学 | | | | ◎ | | | |
| | | 内科学 | | | | ◎ | | | |
| | | 栄養サポートチーム論 | | | | ◎ | | | |
| | | 代謝生化学 | | | | ◎ | | | |
| | | 分子生物学 | | | | ◎ | | | |
| | | 栄養学のための解剖生理学 | | | | ◎ | | | |
| | | 薬理学 | | | | ◎ | | | |
| | | 解剖生理学実験 I | | | | ◎ | | | |
| 解剖生理学実験 II | | | | ◎ | | | | | |
| 微生物学実験 | | | | ◎ | | | | | |
| 生化学実験 I | | | | ◎ | | | | | |
| 生化学実験 II | | | | ◎ | | | | | |
| 分 野 | 食べ物と健康 | 食品学 I | | | ◎ | | | | |
| | | 食品学 II | | | ◎ | | | | |
| | | 食品材料学 | | | ◎ | | | | |
| | | 食品加工演習 | | | ◎ | | | | |
| | | 食品分析学 | | | ◎ | | | | |
| | | 食品衛生学 | | | ◎ | | | | |
| | | 調理学 | | | ◎ | | | | |
| | | フードビジネス学 | | ○ | ◎ | | | | |
| | | 機能性食品開発学 | | | ◎ | | | | |
| | | 食品学実験 I | | | ◎ | | | | |
| | | 食品学実験 II | | | ◎ | | | | |
| | | 食品衛生学実験 | | | ◎ | | | | |
| | 調理学実習 I | | | ◎ | | | | | |
| | 調理学実習 II | | | ◎ | | | | | |
| | 基礎栄養学 | 栄養学総論 | | | | ◎ | | | |
| | | 栄養学基礎実験 | | | | ◎ | | | |
| | | 栄養学実験 | | | | ◎ | | | |
| | | 応用栄養学 | 栄養学各論 I | | | | ◎ | | |
| 栄養学各論 II | | | | | | ◎ | | | |
| 応用栄養生理学 | | | | | | ◎ | | | |
| 栄養教育論 | スポーツ栄養学 | | | | ◎ | | | | |
| | 栄養学実習 | | | | ◎ | | | | |
| | 栄養教育論 I | | | | ◎ | | | | |
| 臨床栄養学 | 栄養教育論 II | | | | ◎ | | | | |
| | カウンセリング演習 | | | | ◎ | | ○ | | |
| | 栄養教育プログラム論 | | | | ◎ | | | | |
| | 栄養教育実習 | | | | ◎ | | | ○ | |
| | 病態栄養学 | | | | ◎ | | | | |
| | 臨床栄養学 I | | | | ◎ | | | | |
| 公衆栄養学 | 臨床栄養学 II | | | | ◎ | | | | |
| | 臨床栄養管理 | | | | ◎ | | | | |
| | 臨床栄養学実験 | | | | ◎ | | | | |
| 給食経営管理論 | 臨床栄養学実習 I | | | | ◎ | | | | |
| | 公衆栄養学 I | | | | ◎ | | | | |
| | 公衆栄養学 II | | | | ◎ | | | | |
| 総合演習 | 公衆栄養学実習 I | | | | ◎ | | | | |
| | 給食経営管理論 I | | | | ◎ | | | | |
| | 給食経営管理論 II | | | | ◎ | | | | |
| | フードシステム学 | | | | ◎ | | | | |
| | 給食経営管理実習 I | | | | ◎ | | | | |
| | 総合演習 I | | ◎ | | | | | ○ | |
| | 総合演習 II | | ◎ | | | | | ○ | |
| | 総合演習 III | | ○ | | | | | ○ | |
| | チームガバナビリティ演習 | | ◎ | | | | | ◎ | |
| | 海外研修(保健福祉学) | | | | | | ◎ | | |
| | 地域保健福祉演習 | | | | | | ○ | ◎ | |
| | 未来型プロジェクト<食> | | ◎ | | | | | ◎ | |
| 臨床実習 | 臨床栄養学実習 II | | ◎ | | | | | ○ | |
| | 給食運営実習 | | ◎ | | | | | ○ | |
| | 公衆栄養学実習 II | | ◎ | | | | | ○ | |
| 教職に関する科目 | 給食経営管理実習 II | | ◎ | | | | | ○ | |
| | 卒業研究 | | | | | | ◎ | | |
| | 教育の基礎的理解に関する科目 | 教育基礎論 | | | | | | | |
| | | 教師論 | | | | | | | |
| | | 教育心理学 | | | | | | | |
| | 選修、総合的な学習の時間等の内容及び指導等、教育相談等に関する科目 | 特別支援教育概論 | | | | | | | |
| 教育課程論 | | | | | | | | | |
| 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法(道徳教育を含む) | | | | | ○ | | | | |
| 教育実践に関する科目 | 教育方法論 | | | | ○ | | | | |
| | 生徒指導論 | | | | | ○ | | | |
| | 教育相談(カウンセリング論を含む) | | | | | ○ | | | |
| 栄養に係る教育に関する科目 | 学校栄養教育実習 I (事前事後指導) | | | | | | | ○ | |
| | 学校栄養教育実習 II | | | | | | | ○ | |
| | 教職実践演習(栄養教諭) | | | | | ○ | | ○ | |
| | 学校栄養教育論 I | | | | | ○ | | | |
| | 学校栄養教育論 II | | | | | ○ | | | |

栄養学科 DP

| DP(学位授与の方針) | |
|-------------|--|
| A | 【人間・社会・自然の理解】 人文科学、社会科学、自然科学、健康科学の知識を通して、人間・社会・自然を理解する力を身に付けている。 |
| B | 【倫理観】 栄養学を人の健康の維持・増進、病気の予防・治療へと応用する専門職人として必要な倫理観と豊かな人間性を身に付けている。 |
| C-1 | 【専門的知識・技能1】 保健、医療、福祉、教育の分野で栄養学の専門職として総合的に貢献するために必要な基礎的知識と技能を身に付けている。 |
| C-2 | 【専門的知識・技能2】 人体の構造と機能・疾病の成立ちや食と健康の相互関係を科学的に理解し、栄養学的課題を明らかにするために必要な専門的知識と技能を身に付けている。 |
| D | 【論理的思考力・判断力・実践力】 多様な個人や集団の栄養課題を解決するために、適切かつ高度な食・健康支援を企画提案するための論理的思考力・判断力を身に付け、栄養学の専門分野を統合して人の健康の維持・増進、病気の予防・治療へと応用する実践力を身に付けている。 |
| E | 【課題発見・解決力】【主体性】 食と人とのかわりにおける未知なる事象の解明に向けて主体的に栄養学関連分野における課題を発見し、解決できる能力を身に付けている。 |
| F | 【コミュニケーション力】 グローバル化社会において岡山県から広く地域社会及び国際社会に貢献するためのコミュニケーション力を身に付けている。 |
| G | 【多様な人々と協働する力】 保健、医療、福祉、教育関連分野で貢献するために、自他の役割を理解し、多様な人々と協調・協働して課題を解決する力を身に付けている。 |

| DP | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | |
|-----------------|--------------------------|----------------|------------------|----------------|--|--------|--------|----|
| | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 修学基礎 | 大学で学ぶ フレッシュマン セミナー | 社会を生きる力を 学ぶ | | | | | | |
| A | 人文・社会科学要論 | | | | | | | |
| | 自然科学要論 | | | | | | | |
| | 「人文・社会科学」カテゴリ科目 | | | | | | | |
| | 「自然科学」カテゴリ科目 | | | | | | | |
| | 「健康科学」カテゴリ科目 | | | | | | | |
| 「複合PBL科目」カテゴリ科目 | | | | | | | | |
| B | | | | | 総合演習Ⅰ チームガバナビリティ 演習 | 総合演習Ⅱ | 総合演習Ⅲ | |
| | | | | | 臨地実習(臨床栄養学実習Ⅱ、給食運営実習、 公衆栄養学実習Ⅱ、給食経営管理実習Ⅱ) | | | |
| C-1 | 健康管理論 公衆衛生学 | 健康情報演習 | 保健福祉システム 概論 | | | | | |
| C-2 | 生化学 | 代謝生化学 | 栄養学のための 解剖生理学 | 解剖生理学実験Ⅰ | 解剖生理学実験Ⅱ | | | |
| | 微生物学 | | 病理学 | 内科学 | | | | |
| | | | 分子生物学 | 生化学実験Ⅰ | 生化学実験Ⅱ | | | |
| | | | 食品衛生学 | 微生物学実験 | 食品衛生学実験 | | | |
| | | | 食品材料学 | 食品学実験Ⅰ | 食品学実験Ⅱ | | | |
| | | 食品学Ⅰ・Ⅱ | | | | | | |
| | | 調理学 | | | | | | |
| | | 調理学実習Ⅰ | 調理学実習Ⅱ | | | | | |
| D | 栄養学基礎実験 | 栄養学総論 | 栄養学実験 | | | | | |
| | | | 栄養学各論Ⅰ | 栄養学各論Ⅱ | 栄養学実習 | | | |
| | | | カウンセリング演習 | 応用栄養生理 | 栄養教育Ⅱ | | | |
| | | | | 栄養教育Ⅰ | 栄養教育実習 | | | |
| | | | | 栄養教育 プログラム論 | 病態栄養学 | | | |
| | | | | | 臨床栄養学Ⅰ | 臨床栄養管理 | 臨床栄養学Ⅱ | |
| | | | | | 臨床栄養学実験 | | | |
| | | | | | 臨床栄養学実習Ⅰ | | | |
| | | | 公衆栄養学Ⅰ | 公衆栄養学Ⅱ | 公衆栄養学実習Ⅰ | | | |
| | | | フードシステム学 | | 給食経営管理論 Ⅰ・Ⅱ | | | |
| | | | | 給食経営管理実習Ⅰ | | | | |
| E | | | | | | | 卒業研究 | |
| F | ELP1 | ELP3 | ELP5 | ELP6 | 栄養教育実習 | | | |
| | ELP2 | ELP4 | カウンセリング演習 | | 地域保健福祉演習 | | | |
| | 「英語以外の外国語・国際」科目 | | | | | | | |
| | 「複合PBL科目」カテゴリ科目 | | | | | | | |
| 海外研修(保健福祉学) | | | | | | | | |
| G | | | | | 総合演習Ⅰ | 総合演習Ⅱ | 総合演習Ⅲ | |
| | | | | | チームガバナビリティ 演習 | | | |
| | | | | | 臨地実習(臨床栄養学実習Ⅱ、給食運営実習、 公衆栄養学実習Ⅱ、給食経営管理実習Ⅱ) | | | |
| | 社会連携要論 | 地域資源学 | | | 地域保健福祉演習 | | | |
| 「複合PBL科目」カテゴリ科目 | | | | | | | | |
| 「社会連携」カテゴリ科目 | | | | | | | | |

2. 7 履修モデル（履修上の留意点）

① 共通教育科目について

共通教育科目は1年次を中心に、1年次から4年次までの間に履修する。とくに、本学科は学部教育における多くの科目の教育基盤である生物学、化学、統計学Bは1年次生で履修することが望ましい。

② 学部教育科目について

学部教育科目の大半は必修科目となっているので、それぞれの開講年次に修得しておくことに留意すること。1年次から3年次前期にかけて開講される多くの科目は、3年次後期に開講されている3領域の臨地(学外)実習への準備という重要な意味を持つ。例えば、公衆栄養学 I (1年次開講)、公衆栄養学 II (2年次開講)、公衆栄養学実習 I (3年次前期開講)を修得していない者は、臨地実習の公衆栄養学実習 II (3年次後期開講)を履修申請できない。

R5 年度入学生用
 栄養学科 履修モデル

臨床（病院・高齢者施設等）管理栄養士をめざす場合

| 共通教育科目 | | | | | | | |
|---|----|--------------|----|--------------|----|--------|----|
| 1 年次 | 単位 | 2 年次 | 単位 | 3 年次 | 単位 | 4 年次 | 単位 |
| 大学で学ぶ フレッシュマンセミナー | 1 | ELP5～ELP6 | 2 | | | | |
| 自然科学要論 | 1 | | | | | | |
| 人文・社会科学要論 | 2 | | | | | | |
| ELP1～ELP4 | 2 | | | | | | |
| 社会連携要論 | 4 | | | | | | |
| 地域資源学 | 1 | | | | | | |
| [人文・社会科学]から4 | 1 | | | | | | |
| 統計学 | 4 | | | | | | |
| 生物学 | 2 | | | | | | |
| 化学 | 2 | | | | | | |
| [健康科学]から2 | 2 | | | | | | |
| 複合 PBL 科目から1 | 2 | | | | | | |
| [全カテゴリー]から1 | 1 | | | | | | |
| 小計 | 25 | 小計 | 2 | 小計 | 0 | 小計 | 0 |
| 備考 ・ 共通教育選択科目は 14 単位以上を習得する。斜字は選択科目を示し、以下に内訳と科目例を示す。 [人文・社会科学]から4単位 例) 倫理学、人文・社会科学セミナーC [自然科学基幹科目の情報・統計]から2単位 統計学 [自然科学基幹科目の理科]から4単位 生物学・化学 [健康科学]から2単位 例) 健康科学要論 [全カテゴリー]から1単位 例) 地域創生演習、海外研修(保健福祉学) | | | | | | | |
| 学部教育科目 | | | | | | | |
| 1 年次 | 単位 | 2 年次 | 単位 | 3 年次 | 単位 | 4 年次 | 単位 |
| 公衆衛生学 | 2 | 保健福祉システム概論 | 2 | 解剖生理学実験Ⅱ | 1 | 臨床栄養学Ⅱ | 2 |
| 健康管理論 | 2 | 病理学 | 2 | 生化学実験Ⅱ | 1 | 総合演習Ⅲ | 1 |
| 健康情報演習 | 1 | 内科学 | 2 | 食品衛生学実験 | 1 | 卒業研究 | 10 |
| 生化学 | 2 | 分子生物学 | 2 | 栄養学実習 | 1 | | |
| 微生物学 | 2 | 栄養学のための解剖生理学 | 2 | 栄養教育論Ⅱ | 2 | | |
| 代謝生化学 | 2 | 解剖生理学実験Ⅰ | 1 | 栄養教育実習 | 1 | | |
| 食品学Ⅰ | 2 | 微生物学実験 | 1 | 病態栄養学 | 2 | | |
| 食品学Ⅱ | 2 | 生化学実験Ⅰ | 1 | 臨床栄養学Ⅰ | 2 | | |
| 調理学 | 2 | 食品材料学 | 2 | 臨床栄養管理 | 2 | | |
| 調理学実習Ⅰ | 1 | 食品衛生学 | 1 | 臨床栄養学実験 | 1 | | |
| 栄養学総論 | 2 | 食品学実験Ⅰ | 1 | 臨床栄養学実習Ⅰ | 1 | | |
| 栄養学基礎実験 | 1 | 食品学実験Ⅱ | 1 | 公衆栄養学実習Ⅰ | 1 | | |
| 公衆栄養学Ⅰ | 2 | 調理学実習Ⅱ | 1 | 給食経営管理論Ⅰ | 2 | | |
| フードシステム学 | 2 | 栄養学実験 | 1 | 給食経営管理論Ⅱ | 1 | | |
| | | 栄養学各論Ⅰ | 2 | 給食経営管理実習Ⅰ | 1 | | |
| | | 栄養学各論Ⅱ | 2 | 総合演習Ⅰ | 1 | | |
| | | 応用栄養生理学 | 2 | 総合演習Ⅱ | 1 | | |
| | | 栄養教育論Ⅰ | 2 | 臨床栄養学実習Ⅱ | 1 | | |
| | | カウンセリング演習 | 1 | 給食運営実習 | 1 | | |
| | | 栄養教育プログラム論 | 1 | 公衆栄養学実習Ⅱ | 1 | | |
| | | 公衆栄養学Ⅱ | 2 | 給食経営管理実習Ⅱ | 1 | | |
| | | 薬理学 | 2 | 栄養学チーム論 | 1 | | |
| | | | | チームバリエーション演習 | 1 | | |
| 小計 | 25 | 小計 | 34 | 小計 | 28 | 小計 | 13 |
| 備考 ・ 専門基礎分野および専門分野から 100 単位以上を習得すること。斜字は選択科目例を示す。 | | | | | | | |
| 履修上の注意 ・ 3 年次修了までに、105 単位以上を修得すること。 | | | | | | | |

栄養学科 履修モデル 栄養教諭をめざす場合

| 共通教育科目 | | | | | | | |
|--|--------|----------------|-------|--------------|--------|-------------|--------|
| 1年次 | 単位 | 2年次 | 単位 | 3年次 | 単位 | 4年次 | 単位 |
| 大学で学ぶ | 1 | ELP5～ELP6 | 2 | | | | |
| フレッシュセミナー | 1 | *教育方法論 | (*2) | | | | |
| 自然科学要論 | 2 | *生徒指導論 | (*2) | | | | |
| 人文・社会科学要論 | 2 | *教育相談(幼少児)論を含む | (*1) | | | | |
| ELP1～ELP4 | *4 | | | | | | |
| 社会連携要論 | 1 | *特別支援教育概論 | (*1) | | | | |
| 地域資源学 | 1 | | | | | | |
| [人文・社会科学]から4 | 2+*2 | | | | | | |
| 統計学 | 2 | | | | | | |
| 生物学 | 2 | | | | | | |
| 化学 | 2 | | | | | | |
| [健康科学]から2 | *2 | | | | | | |
| 複合PBL科目から1 | 1 | | | | | | |
| [全カテゴリー]から1 | 1 | | | | | | |
| *教育基礎論 | (*2) | | | | | | |
| *教師論 | (*2) | | | | | | |
| *教育心理学 | (*2) | | | | | | |
| *教育課程論 | (*1) | | | | | | |
| *特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 | (*1) | | | | | | |
| *コンピュータ演習I | (*1) | | | | | | |
| 小計 | 26(*9) | 小計 | 2(*6) | 小計 | 0 | 小計 | 0 |
| 備考 ・ 共通教育選択科目卒業要件は14単位以上を習得する。斜字は選択科目を示し、以下に内訳と科目例を示す。 [人文・社会科学]から4単位 例) 倫理学、人文・社会科学セミナーC [自然科学基幹科目の情報・統計]から2単位 統計学 [自然科学基幹科目の理科]から4単位 生物学・化学 [健康科学]から2単位 例) 健康科学要論 [全カテゴリー]から1単位 例) 地域創生演習、海外研修(保健福祉学) ・ 栄養教諭一種免許状取得のために必要な取得単位数32単位である。()は卒業要件単位以外に免許取得に必要な単位数を示す。 ・ 教職教育科目は*で示す。共通教育科目を含む教職必修科目の計23単位を習得すること。 | | | | | | | |
| 学部教育科目 | | | | | | | |
| 1年次 | 単位 | 2年次 | 単位 | 3年次 | 単位 | 4年次 | 単位 |
| 公衆衛生学 | 2 | 保健福祉システム概論 | 2 | 解剖生理学実験II | 1 | 臨床栄養学II | 2 |
| 健康管理論 | 2 | 病理学 | 2 | 生化学実験II | 1 | 総合演習III | 1 |
| *健康情報演習 | *1 | 内科学 | 2 | 食品衛生学実験 | 1 | 卒業研究 | 10 |
| 生化学 | 2 | 分子生物学 | 2 | 栄養学実習 | 1 | *学校栄養教育論II | (*2) |
| 微生物学 | 2 | 栄養学のための解剖生理学 | 2 | 栄養教育論II | 2 | *学校栄養教育実習II | (*1) |
| 代謝生化学 | 2 | 解剖生理学実験I | 1 | 栄養教育実習 | 1 | *教職実践演習 | (*2) |
| 食品学I | 2 | 微生物学実験 | 1 | 病態栄養学 | 2 | | |
| 食品学II | 2 | 生化学実験I | 1 | 臨床栄養学I | 2 | | |
| 調理学 | 2 | 食品材料学 | 2 | 臨床栄養管理 | 2 | | |
| 調理学実習I | 1 | 食品衛生学 | 1 | 臨床栄養学実験 | 1 | | |
| 栄養学総論 | 2 | 食品学実験I | 1 | 臨床栄養学実習I | 1 | | |
| 栄養学基礎実験 | 1 | 食品学実験II | 1 | 公衆栄養学実習I | 1 | | |
| 公衆栄養学I | 2 | 調理学実習II | 1 | 給食経営管理論I | 2 | | |
| フードシステム学 | 2 | 栄養学実習 | 1 | 給食経営管理論II | 1 | | |
| 食生活論 | 1 | 栄養学各論I | 2 | 給食経営管理実習I | 1 | | |
| | | 栄養学各論II | 2 | 総合演習I | 1 | | |
| | | 応用栄養生理学 | 2 | 総合演習II | 1 | | |
| | | 栄養教育論I | 2 | 臨床栄養学実習II | 1 | | |
| | | カウンセリング演習 | 1 | 給食運営実習 | 1 | | |
| | | 栄養教育プログラム論 | 1 | 公衆栄養学実習II | 1 | | |
| | | 公衆栄養学II | 2 | 給食経営管理実習II | 1 | | |
| | | 食品加工演習 | 1 | チームバリエーション演習 | 1 | | |
| | | | | *学校栄養教育論I | (*2) | | |
| | | | | *学校栄養教育実習I | (*1) | | |
| 小計 | 26 | 小計 | 33 | 小計 | 28(*3) | 小計 | 13(*5) |
| 備考 ・ 専門基礎分野および専門分野から100単位以上を習得すること。斜字は選択科目例を示す。 ・ 教職教育科目は*で示す。学部教育科目の1単位含む教職必修科目の計9単位を習得すること。 | | | | | | | |
| 履修上の注意 ・ 3年次修了までに、105単位以上を修得すること | | | | | | | |

栄養学科 履修モデル

行政（保健所、市町村保健センター等）管理栄養士をめざす場合

| 共通教育科目 | | | | | | | |
|--|-------|--------------|------|-------------|----|--------|----|
| 1 年次 | 単位 | 2 年次 | 単位 | 3 年次 | 単位 | 4 年次 | 単位 |
| 大学で学ぶ | 1 | ELP5～ELP6 | 2 | | | | |
| フレッシュマンセミナー | 1 | *地域創生実践論 | (*) | | | | |
| 自然科学要論 | 2 | | | | | | |
| 人文・社会科学要論 | 2 | | | | | | |
| ELP1～ELP4 | 4 | | | | | | |
| *社会連携要論 | 1 | | | | | | |
| *地域資源学 | 1 | | | | | | |
| *地域創生演習 | 1 | | | | | | |
| [人文・社会科学]から4 | 4 | | | | | | |
| 統計学 | 2 | | | | | | |
| 生物学 | 2 | | | | | | |
| 化学 | 2 | | | | | | |
| [健康科学]から2 | 2 | | | | | | |
| 複合 PBL 科目から1 | 1 | | | | | | |
| [全カテゴリー]から1 | 1 | | | | | | |
| 小計 | 26(*) | 小計 | 2(*) | 小計 | 0 | 小計 | 0 |
| 備考 | | | | | | | |
| ・ 共通教育選択科目は 14 単位以上を習得する。斜字は選択科目を示し、以下に内訳と科目例を示す。 [人文・社会科学]から 4 単位 例) 倫理学、人文・社会科学セミナーC [自然科学基幹科目の情報・統計]から 2 単位 統計学 [自然科学基幹科目の理科]から 4 単位 生物学・化学 [健康科学]から 2 単位 例) 健康科学要論 [全カテゴリー]から 1 単位 例) *地域創生演習、海外研修（保健福祉学） ・ 地域創生推進士のために必要な取得単位数 10 単位である。（ ）は卒業要件単位以外に推進士取得に必要な単位数を示す。 ・ 岡山創生学課程の科目は*で示す。共通教育科目を含む岡山創生学修了のための計 5 単位以上を習得すること。 | | | | | | | |
| 学部教育科目 | | | | | | | |
| 1 年次 | 単位 | 2 年次 | 単位 | 3 年次 | 単位 | 4 年次 | 単位 |
| 公衆衛生学 | 2 | 保健福祉システム概論 | 2 | 解剖生理学実験Ⅱ | 1 | 臨床栄養学Ⅱ | 2 |
| 健康管理論 | 2 | 病理学 | 2 | 生化学実験Ⅱ | 1 | 総合演習Ⅲ | 1 |
| 健康情報演習 | 1 | 内科学 | 2 | 食品衛生学実験 | 1 | 卒業研究 | 10 |
| 生化学 | 2 | 分子生物学 | 2 | 栄養学実習 | 1 | | |
| 微生物学 | 2 | 栄養学のための解剖生理学 | 2 | 栄養教育論Ⅱ | 2 | | |
| 代謝生化学 | 2 | 解剖生理学実験Ⅰ | 1 | 栄養教育実習 | 2 | | |
| 食品学Ⅰ | 2 | 微生物学実験 | 1 | 病態栄養学 | 2 | | |
| 食品学Ⅱ | 2 | 生化学実験Ⅰ | 1 | 臨床栄養学Ⅰ | 2 | | |
| 調理学 | 2 | 食品材料学 | 2 | 臨床栄養管理 | 2 | | |
| 調理学実習Ⅰ | 1 | 食品衛生学 | 1 | 臨床栄養学実験 | 1 | | |
| 栄養学総論 | 2 | 食品学実験Ⅰ | 1 | 臨床栄養学実習Ⅰ | 1 | | |
| 栄養学基礎実験 | 1 | 食品学実験Ⅱ | 1 | *公衆栄養学実習Ⅰ | 1 | | |
| 公衆栄養学Ⅰ | 2 | 調理学実習Ⅱ | 1 | 給食経営管理論Ⅰ | 2 | | |
| フードシステム学 | 2 | 栄養学実験 | 1 | 給食経営管理論Ⅱ | 1 | | |
| 社会福祉政策論 | 2 | 栄養学各論Ⅰ | 2 | 給食経営管理実習Ⅰ | 1 | | |
| | | 栄養学各論Ⅱ | 2 | 総合演習Ⅰ | 1 | | |
| | | 応用栄養生理学 | 2 | 総合演習Ⅱ | 1 | | |
| | | 栄養教育論Ⅰ | 2 | 臨床栄養学実習Ⅱ | 1 | | |
| | | カウンセリング演習 | 1 | 給食運営実習 | 1 | | |
| | | 栄養教育プログラム論 | 1 | *公衆栄養学実習Ⅱ | 1 | | |
| | | 公衆栄養学Ⅱ | 2 | 給食経営管理実習Ⅱ | 1 | | |
| | | | | *チームカバレッジ演習 | 1 | | |
| | | | | *地域保健福祉演習 | 1 | | |
| 小計 | 27 | 小計 | 32 | 小計 | 28 | 小計 | 13 |
| 備考 | | | | | | | |
| ・ 専門基礎分野および専門分野から 100 単位以上を習得すること。斜字は選択科目例を示す。 ・ 岡山創生学課程の科目は*で示す。学部教育科目の 2 単位含む岡山創生学課程修了のための計 5 単位以上を習得すること。 | | | | | | | |
| 履修上の注意 | | | | | | | |
| ・ 3 年次修了までに、105 単位以上を修得すること。 | | | | | | | |

食品系企業をめざす場合

| 共通教育科目 | | | | | | | |
|---|----|--------------|----|--------------|--------|---------------|--------|
| 1 年次 | 単位 | 2 年次 | 単位 | 3 年次 | 単位 | 4 年次 | 単位 |
| 大学で学ぶ | 1 | ELP5~ELP6 | 2 | | | | |
| フレッシュマンセミナー | 1 | | | | | | |
| 自然科学要論 | 2 | | | | | | |
| 人文・社会科学要論 | 2 | | | | | | |
| ELP1~ELP4 | 4 | | | | | | |
| 社会連携要論 | 1 | | | | | | |
| 地域資源学 | 1 | | | | | | |
| [人文・社会科学]から4 | 4 | | | | | | |
| 統計学 | 2 | | | | | | |
| 生物学 | 2 | | | | | | |
| 化学 | 2 | | | | | | |
| [健康科学]から2 | 2 | | | | | | |
| 複合PBL科目から1 | 1 | | | | | | |
| [全カテゴリー]から1 | 1 | | | | | | |
| 小計 | 26 | 小計 | 2 | 小計 | 0 | 小計 | 0 |
| 備考 | | | | | | | |
| ・ 共通教育選択科目は 14 単位以上を習得する。斜字は選択科目を示し、以下に内訳と科目例を示す。 [人文・社会科学]から 4 単位 例) 経済学、経営学 [自然科学基幹科目の情報・統計]から 2 単位 統計学 [自然科学基幹科目の理科]から 4 単位 生物学・化学 [健康科学]から 2 単位 例) 健康科学要論 [全カテゴリー]から 1 単位 例) 未来社会論 (人文・社会科学)、海外研修 (保健福祉学) | | | | | | | |
| 学部教育科目 | | | | | | | |
| 1 年次 | 単位 | 2 年次 | 単位 | 3 年次 | 単位 | 4 年次 | 単位 |
| 公衆衛生学 | 2 | 保健福祉システム概論 | 2 | 解剖生理学実験Ⅱ | 1 | 臨床栄養学Ⅱ | 2 |
| 健康管理論 | 2 | 病理学 | 2 | 生化学実験Ⅱ | 1 | 総合演習Ⅲ | 1 |
| 健康情報演習 | 1 | 内科学 | 2 | 食品衛生学実験 | 1 | 卒業研究 | 10 |
| 生化学 | 2 | 分子生物学 | 2 | 栄養学実習 | 1 | *未来型プロジェクト<食> | 4 |
| 微生物学 | 2 | 栄養学のための解剖生理学 | 2 | 栄養教育論Ⅱ | 2 | | |
| 代謝生化学 | 2 | 解剖生理学実験Ⅰ | 1 | 栄養教育実習 | 1 | | |
| 食品学Ⅰ | 2 | 微生物学実験 | 1 | 病態栄養学 | 2 | | |
| 食品学Ⅱ | 2 | 生化学実験Ⅰ | 1 | 臨床栄養学Ⅰ | 2 | | |
| 調理学 | 2 | 食品材料学 | 2 | 臨床栄養管理 | 2 | | |
| 調理学実習Ⅰ | 1 | 食品衛生学 | 1 | 臨床栄養学実験 | 1 | | |
| 栄養学総論 | 2 | 食品学実験Ⅰ | 1 | 臨床栄養学実習Ⅰ | 1 | | |
| 栄養学基礎実験 | 1 | 食品学実験Ⅱ | 1 | 公衆栄養学実習Ⅰ | 1 | | |
| 公衆栄養学Ⅰ | 2 | 調理学実習Ⅱ | 1 | 給食経営管理論Ⅰ | 2 | | |
| フードシステム学 | 2 | 栄養学実験 | 1 | 給食経営管理論Ⅱ | 1 | | |
| 食品分析学 | 1 | 栄養学各論Ⅰ | 2 | 給食経営管理実習Ⅰ | 1 | | |
| | | 栄養学各論Ⅱ | 2 | 総合演習Ⅰ | 1 | | |
| | | 応用栄養生理学 | 2 | 総合演習Ⅱ | 1 | | |
| | | 栄養教育論Ⅰ | 2 | 臨床栄養学実習Ⅱ | 1 | | |
| | | カウンセリング演習 | 1 | 給食運営実習 | 1 | | |
| | | 栄養教育プログラム論 | 1 | 公衆栄養学実習Ⅱ | 1 | | |
| | | 公衆栄養学Ⅱ | 2 | 給食経営管理実習Ⅱ | 1 | | |
| | | 食品加工演習 | 1 | *フードビジネス学 | 2 | | |
| | | | | *チームバザリティー演習 | 1 | | |
| | | | | *地域保健福祉演習 | 1 | | |
| 小計 | 27 | 小計 | 32 | 小計 | 26(*4) | 小計 | 17(*4) |
| 備考 | | | | | | | |
| ・ 専門基礎分野および専門分野から 100 単位以上を習得すること。斜字は選択科目例を示す。 ・ のために必要な取得単位数は 8 単位である。() は卒業要件単位以外に地域創生クリエイター取得に必要な単位数を示す。 ・ 吉備の杜クリエイター課程の科目は*で示す。吉備の杜クリエイター課程を修了すると、地域創生クリエイターの称号を与えられる。吉備の杜クリエイター課程の修了のためには、*で示す計 8 単位を習得するとともに、活動要件をみだすこと。 | | | | | | | |
| 履修上の注意 | | | | | | | |
| ・ 3 年次修了までに、105 単位以上を修得すること。 | | | | | | | |

3 現代福祉学科

3. 1 本学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

現代福祉学科は、少子高齢社会やグローバル社会といった複雑化する現代社会において生じている多様な社会的、個人的ニーズを科学的に解明し、すべての人々の健康と幸福の増進のために、介護福祉学を含む社会福祉学関連の学問を基盤に、グローバルセンスをもって岡山県から広く地域社会及び国際社会に能動的、創造的に貢献できる人材の育成を目指しています。

卒業の要件を満たすことにより、次の能力や態度・意欲を身に付けた者に学位を授与します。

- A. 【人間・社会・自然の理解】人文科学、社会科学、自然科学、健康科学の知識を通して、人間・社会・自然を理解する力を身に付けている。
- B. 【倫理観】様々な社会問題に対する福祉の専門職業人として必要な倫理観と豊かな人間性を身に付けている。
- C-1. 【専門的知識・技能1】個人や社会から得られたデータを用いた社会福祉学的課題や福祉サービス利用者の援助上の課題を明らかにする専門的知識と技能を身に付けている。
- C-2. 【専門的知識・技能2】福祉ならびに保健、医療、教育等の福祉以外の分野のサービス利用者が抱える多様な福祉ニーズの理解及び課題解決のために必要な専門的知識と技能を身に付けている。
- D. 【論理的思考力・判断力・実践力】多様な社会的課題や個人の生活課題を理解し、解決していく能力、多様な福祉ニーズに対応する福祉プログラムを企画立案する能力、及び学際的な視点から情報交流や意見交換を行い、多様な福祉ニーズに対応できる能力を身に付けている。
- E. 【課題発見・解決力】【主体性】社会福祉学ならびにその関連分野における課題を発見し主体的に解決する力とともに、多様な福祉ニーズに対応する力を身に付けている。
- F. 【コミュニケーション力】多様な福祉ニーズを有している外国人に対応するコミュニケーション能力や、地域社会や国際社会における福祉の実践感覚を身に付けている。
- G. 【多様な人々と協働する力】保健、医療、福祉、教育関連分野で貢献するための課題解決に必要な自己管理能力及びマネジメント力や、自他の役割を理解し、多様な人々と協調・協働して課題を解決する力を身に付けている。

3. 2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本方針】

現代福祉学科では、学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、4年間で系統的に修得した介護福祉学を含む社会福祉学関連の広範囲な分野の専門的知識を基礎として、グローバルセンスを持ち、地域社会や国際社会に貢献できる知識・技術・価値を修得し、社会福祉学関連の専門的活動ができるよう、体系的な教育課程を以下のように編成しています。

【共通教育科目】共通教育科目では、福祉職または社会福祉学に関連する専門職の活動に求められる知的実践的自律性を培うため、教養教育の導入、理論、実践を網羅する科目群を編成しています。

【修学基礎力】高校の学びから大学での学びへの転換と準備のための初年次教育ならびに現代福祉学の専門性への学びを促す修学基礎科目群

【人間・社会・自然の理解】人間や社会及び文化について考えるため、普遍的な理論や知識を修得し、人間理解を深めるとともに、社会の仕組みや歴史を修得し、そのあり方を問う論理的思考力や課題発見力を養う人文・社会科学科目群

自然現象やそれに関わる発見から普遍的な真理を探究することを通じ、論理的思考力や課題発見力などを身に付ける自然科学科目群

心身の健康に関する理論や知識を修得し、生活する上で適切な判断を導く思考力を養うとともに、生涯にわたり健全な社会生活を送るための技能を修得する健康科学科目群

以上の学問分野において、主体的に課題を設定し、調査、考察、発表、討論を経て最終的な解決に取り組む複合 PBL 科目群

【コミュニケーション力】グローバル化する国内外の地域で活躍するために必要な語学力を育成する語学国際科目群、相互対話によって主体的に問題に取り組み自らの見解を他者に合理的に発信できる複合 PBL 科目群

【多様な人々と協働する力】豊かな人間性を持って地域で活躍するために必要な課題発見力と多様な人々との協働性を養成する社会連携科目群

【学部教育科目】学部教育科目では、社会福祉学コースにおいて、ソーシャルワーカーとして必要な相談援助の理論やこれを活用するための技術等を涵養する次の科目群を編成しています。また、介護福祉マネジメント学コースにおいては、組織等のマネジメント力を身に付けた介護福祉学の専門職として必要な理論やこれを活用するための技術等を涵養する科目群を編成しています。

【専門的知識・技能1】社会福祉学コースでは、個人や社会から得られたデータを用いて、福祉的課題を明らかにする能力を養成する「専門共通科目」ならびに「福祉行政・スクールソーシャルワーク」の科目群

介護福祉マネジメント学コースでは、個人や社会から得られたデータを用いて、福祉の課題を明らかにする能力を養成する「専門共通科目」ならびに「マネジメント学」の科目群

【専門的知識・技能2】社会福祉学コースでは、様々な福祉サービス利用者の援助上の課題を明らかにする能力や様々な分野で展開されるソーシャルワーク実践に必要な専門的知識と技術力を養成する「福祉行政・スクールソーシャルワーク」ならびに「ソーシャルワーク」の科目群

介護福祉マネジメント学コースでは、様々な福祉サービス利用者の援助上の課題や組織等の課題を明らかにする能力やマネジメント力を身に付けた介護福祉学の専門職に必要な専門的知識と技術力を養成する「健康科学」ならびに「マネジメント学」の科目群

【論理的思考力・判断力・実践力】社会福祉学コースでは、個人や社会が抱える課題を解決するために、ソーシャルワーカーとしての論理的思考力、判断力、実践力を身に付ける「専門共通科目」ならびに「ソーシャルワーク」の科目群

介護福祉マネジメント学コースでは、組織等のマネジメント力を身に付けた介護福祉学の専門職としての論理的思考力、判断力、実践力を身に付ける「専門共通科目」「介護福祉学」及び「マネジメント学」の科目群

【倫理観】社会福祉学コースでは、修得した社会福祉学をはじめとする広範の専門的知識を通じて、高度専門職業人として必要な豊かな人間性と倫理観をもつとともに、創造的思考・表現・企画提案力を身に付ける「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」、「研究ゼミナール」などの科目

介護福祉マネジメント学コースでは、修得した広範の専門的知識を通じて、高度専門職業人として必要な豊かな人間性と倫理観をもつとともに、個人や組織のアセスメントや計画立案といった創造的思考・表現・企画提案力を身に付ける「社会福祉の原理と政策Ⅰ」、「研究ゼミナール」、「介護原論Ⅰ」などの科目

【課題発見・解決力】【主体性】【多様な人々と協働する力】社会福祉学コースでは、系統的に修得した社会福祉学に関連する広範囲な分野の専門的知識を基礎として、1年を通じ、研究対象に関する深い知識の獲得や、発見した個人や社会の課題を解決に導くため、ソーシャルワーカーの倫理を遵守した計画を主体的に立案し遂行する能力とともに、これまで身につけた知識や技術を、生涯に

わたって自ら積み上げていく力、専門分野で貢献するための課題解決に必要な自己管理能力及びマネジメント力、ならびに自他の役割を理解し、多様な人々と協調・協働して課題を解決する力を養う基礎ゼミナール、専門ゼミナール、研究ゼミナールなどの科目

介護福祉マネジメント学コースでは、系統的に修得した介護福祉学、マネジメント学に関する広範囲な分野の専門的知識を基礎として、1年を通じ、研究対象に関する深い知識の獲得や、発見した介護福祉や介護に関連する組織等のマネジメントの課題を解決に導くため、介護福祉士の倫理を遵守した計画を主体的に立案し遂行する能力、専門分野で貢献するための課題解決に必要な自己管理能力及びマネジメント力、ならびに自他の役割を理解し、多様な人々と協調・協働して課題を解決する力を養う基礎ゼミナール、専門ゼミナール、研究ゼミナールなどの科目

【コミュニケーション力】社会福祉学コースでは、多様な福祉ニーズを有している外国人に対応するコミュニケーション能力や、地域社会や国際社会における福祉の実践感覚を身に付ける「人間関係形成とコミュニケーション」などの科目

介護福祉マネジメント学コースでは、多様な福祉ニーズを有している外国人に対応するコミュニケーション能力や、地域社会や国際社会における福祉の実践感覚を身に付ける「人間関係形成とコミュニケーション」などの科目

教育課程の編成

現代福祉学科では以下に示す教育課程を編成している。

| | |
|----------------------|--|
| 専門共通科目 | 両コースの学生が履修する科目である。保健福祉学の基礎理論及び知識を修得するとともに、研究方法を身につけ卒業論文としてまとめる。 |
| 専門科目(社会福祉学コース) | 社会福祉学コースの学生が履修する科目である。現代社会の多様な問題解決ができるソーシャルワーカーに必要な社会福祉学の専門的理論、知識及びソーシャルワークの方法・技術を修得する。加えて、精神保健福祉士やスクールソーシャルワーカーに求められる専門的知識及び方法・技術を修得する。 |
| 専門科目(介護福祉マネジメント学コース) | 介護福祉マネジメント学コースの学生が履修する科目である。経営に強い介護福祉のリーダーや介護福祉分野の企業人に必要なマネジメント学及び介護福祉学の専門的理論、知識、方法・技術を修得する。 |

3. 3 卒業要件と履修方法

(1) 卒業要件

現代福祉学科(令和5年度入学生用)

| | 必修科目 | 選択科目 | 計 |
|--------|------|------|-------|
| 共通教育科目 | 16単位 | 12単位 | 28単位 |
| 学部教育科目 | 22単位 | 74単位 | 96単位 |
| 計 | 38単位 | 86単位 | 124単位 |

(2) 研究ゼミナールの履修要件

4年次には必修科目として、卒業論文に取り組むための「研究ゼミナール」を課している。「研究ゼミナール」の履修要件は、4年次に、研究ゼミナール4単位を含め30単位以内を単位修得することにより卒業要件単位(共通教育科目と学部教育科目を総合した124単位)を満たすものとする。

(3) 他学部・他学科開講科目の扱い

保健福祉学部の他学科並びに他学部開講の学部教育科目の単位を修得した場合、修得単位の4単位までを本学科の学部教育科目の選択科目として認定する。当該授業科目のカテゴリーは保健福祉学部長が決定する。修得単位は卒業要件単位数に含める。

(4) 履修上の留意点

現代福祉学科における学部教育科目は、資格取得のための科目と、スペシャリストとして必要な専門基礎に関する科目及びより専門性を高めるための科目からなる。将来の進路としては、国家・地方公務員等のソーシャルワーカー、スクールソーシャルワーカー、医療ソーシャルワーカー、精神保健分野のソーシャルワーカー、高齢者・障害者福祉のソーシャルワーカー、介護福祉のリーダー、企業人などがある。履修計画では、このことを考えて、必修科目や資格取得科目だけでなく、専門分野に沿った選択科目を幅広く履修し、専門職としての見識や能力をより高めるようにする。なお、各分野の進路を目指すために必要な科目は、(11)履修モデルを参照すること。

ただし、表2～表4に定める科目は、履修に際して条件が定められているため表の注記に従うこと。

(5) 社会福祉学コース 授業科目

| 授業科目の名称 | 授業の方法 | 担当教員 | 開講年次及び必修選択の別 | | | | 開講時間数 | 開講単位数 | 卒業要件単位数 | |
|--------------|-------------------|------------------|--------------|-------|---|---|-------|-------|---------|---|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | | |
| 専門共通科目 | 現代福祉入門 | 講義 | 学科長他 | ◎ | | | | 30 | 2 | |
| | 社会学と社会システム | 講義 | 近藤 | ◎ | | | | 30 | 2 | |
| | 社会福祉の原理と政策Ⅰ | 講義 | 村社 | ◎ | | | | 30 | 2 | |
| | 医学概論 | 講義 | 高戸・中村 | ◎ | | | | 30 | 2 | |
| | ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ | 講義 | 村社 | ◎ | | | | 30 | 2 | |
| | 人間関係形成とコミュニケーション | 講義 | 佐藤 | ◎ | | | | 30 | 2 | |
| | 社会保障Ⅰ | 講義 | 岩満 | ○ | | | | 30 | 2 | |
| | ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ | 講義 | 竹本 | ○ | | | | 30 | 2 | |
| | 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ | 講義 | 口村 | ○ | | | | 30 | 2 | |
| | 福祉産業論 | 講義 | 喜村 | | ○ | | | 30 | 2 | |
| | サービスマーケティング論 | 講義 | 喜村 | | ◎ | | | 30 | 2 | |
| | 高齢者福祉 | 講義 | 桐野 | | ○ | | | 30 | 2 | |
| | 身体機能と障害 | 講義 | 中村・高戸 | | ○ | | | 30 | 2 | |
| | 知的発達と障害 | 講義 | 中村 | | ○ | | | 30 | 2 | |
| | 権利擁護を支える法制度 | 講義 | 桐野 | | | ○ | | 30 | 2 | |
| | 福祉サービスの組織と経営 | 講義 | 井上(祐) | | | ○ | | 30 | 2 | |
| | 現代の精神保健の課題と支援Ⅰ | 講義 | 周防 | | | ○ | | 30 | 2 | |
| | チームガバナリティ演習 | 演習 | 中村 他 | | | ○ | | 30 | 1 | |
| | 地域保健福祉演習 | 演習 | 坂野・久保田・住吉 | | | ○ | | 30 | 1 | |
| | フードビジネス学 | 講義 | 伊東 他 | | | ○ | | 30 | 2 | |
| 未来型プロジェクト<食> | 演習 | 伊東 他 | | | | ○ | 120 | 4 | | |
| 海外研修(保健福祉学) | 演習 | 関根 他 | ○ | | | | 30 | 1 | | |
| 基礎ゼミナール〔隔週〕 | 演習 | 学科長・坂野・樂木・喜村 | | ◎ | | | 30 | 1 | | |
| 専門ゼミナール〔隔週〕 | 演習 | 学科教員 | | | ◎ | | 30 | 1 | | |
| 研究ゼミナール | 演習 | 学科教員 | | | | ◎ | 120 | 4 | | |
| 専門科目 | 福祉行政・スクールソーシャルワーク | 児童・家庭福祉Ⅰ | 講義 | 周防 | | ○ | | 30 | 2 | |
| | | 児童・家庭福祉Ⅱ | 講義 | 周防 | | ○ | | 30 | 2 | |
| | | 家族福祉論 | 講義 | 周防 | | | ◎ | | 30 | 2 |
| | | 障害者福祉 | 講義 | 坂野 | | ○ | | | 30 | 2 |
| | | 貧困に対する支援 | 講義 | 岩満 | | | ○ | | 30 | 2 |
| | | 社会福祉の原理と政策Ⅱ | 講義 | 岩満 | | | ○ | | 30 | 2 |
| | | 社会保障Ⅱ | 講義 | 岩満 | | ○ | | | 30 | 2 |
| | | 国際福祉論 | 講義 | 近藤 | | ○ | | | 30 | 2 |
| | | 国際家族政策論 | 講義 | 近藤 | | | ○ | | 30 | 2 |
| | | 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ | 講義 | 口村 | | ○ | | | 30 | 2 |
| | | 社会病理学 | 講義 | 近藤 | | ○ | | | 30 | 2 |
| | | 社会福祉調査の基礎 | 講義 | 桐野・喜村 | | | ○ | | 30 | 2 |
| | | 社会福祉調査演習 | 演習 | 桐野・喜村 | | | ○ | | 30 | 1 |
| | | 福祉のまちづくり政策論 | 講義 | 高戸 | | | ○ | | 30 | 2 |
| | | スクールソーシャルワーク論 | 講義 | 周防 | | | ○ | | 30 | 2 |
| | | スクールソーシャルワーク演習 | 演習 | 周防 | | | ○ | | 30 | 1 |
| | | スクールソーシャルワーク実習指導 | 実習 | 周防 | | | | ○ | 45 | 1 |
| | | スクールソーシャルワーク実習 | 実習 | 周防 | | | | ○ | 90 | 2 |
| | | 発達心理学 | 講義 | 樂木 | | ○ | | | 30 | 2 |
| | | 教育社会学 | 講義 | 近藤 | | | ○ | | 30 | 2 |

96 単 位

| 授業科目の名称 | 授業の方法 | 担当教員 | 開講年次及び必修選択の別 | | | | 開講時間数 | 開講単位数 | 卒業要件単位数 | |
|---------------------|-----------------|---------|-----------------------------------|----|---|---|-------|-------|---------|--------------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | | |
| 専門科目 ソーシャルワーク | ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ | 講義 | 竹本 | | ○ | | | 30 | 2 | 96 単 位 |
| | ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ | 講義 | 村社 | | | ○ | | 30 | 2 | |
| | ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ | 講義 | 竹本 | | | ○ | | 30 | 2 | |
| | ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ | 講義 | 口村 | | | | ○ | 30 | 2 | |
| | ソーシャルワーク演習Ⅰ | 演習 | 竹本・桐野・口村 | | ○ | | | 30 | 1 | |
| | ソーシャルワーク演習Ⅱ | 演習 | 竹本・桐野・口村 | | ○ | | | 30 | 1 | |
| | ソーシャルワーク演習Ⅲ | 演習 | 村社・佐藤・井上 | | | ○ | | 60 | 2 | |
| | ソーシャルワーク実習指導Ⅰ | 実習 | 竹本・村社・桐野・口村・澤田・井上 | | ○ | | | 45 | 1 | |
| | ソーシャルワーク実習指導Ⅱ | 実習 | 口村・村社・竹本・近藤・中村・桐野・佐藤・周防・※中田・澤田・井上 | | | ○ | | 45 | 1 | |
| | ソーシャルワーク実習指導Ⅲ | 実習 | 桐野・口村・村社・竹本・近藤・中村・佐藤・周防・※中田・澤田・井上 | | | ○ | | 45 | 1 | |
| | ソーシャルワーク実習 | 実習 | 口村・村社・竹本・近藤・中村・桐野・佐藤・周防・※中田・澤田・井上 | | | ○ | | 240 | 6 | |
| | 医療・精神保健ソーシャルワーク | 保健医療と福祉 | 講義 | 竹本 | | | ○ | | 30 | |
| ソーシャルワーク演習Ⅳ | | 演習 | 竹本・桐野 | | | | ○ | 30 | 1 | |
| 刑事司法と福祉 | | 講義 | ※藤原 | | | ○ | | 30 | 2 | |
| 精神保健福祉の原理Ⅰ | | 講義 | 大倉 | | | ○ | | 30 | 2 | |
| 精神保健福祉の原理Ⅱ | | 講義 | 大倉 | | | ○ | | 30 | 2 | |
| 精神保健ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ | | 講義 | 大倉 | | | ○ | | 30 | 2 | |
| 精神保健ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ | | 講義 | 周防 | | | ○ | | 30 | 2 | |
| 精神保健ソーシャルワーク演習Ⅰ | | 演習 | 大倉 | | | ○ | | 30 | 1 | |
| 精神保健ソーシャルワーク演習Ⅱ | | 演習 | 大倉 | | | | ○ | 30 | 1 | |
| 精神保健ソーシャルワーク演習Ⅲ | | 演習 | 大倉・坂野 | | | | ○ | 30 | 1 | |
| 精神障害リハビリテーション論 | | 講義 | ※上田 | | | ○ | | 30 | 2 | |
| 精神保健福祉制度論 | | 講義 | 大倉 | | | ○ | | 30 | 2 | |
| 精神医学と精神医療Ⅰ | | 講義 | ※國方 | | | ○ | | 30 | 2 | |
| 精神医学と精神医療Ⅱ | | 講義 | ※國方 | | | ○ | | 30 | 2 | |
| 現代の精神保健の課題と支援Ⅱ | | 講義 | 坂野 | | | ○ | | 30 | 2 | |
| 精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅰ | | 実習 | 坂野・大倉 | | | ○ | | 45 | 1 | |
| 精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅱ | | 実習 | 坂野・大倉 | | | | ○ | 45 | 1 | |
| 精神保健ソーシャルワーク実習 | | 実習 | 坂野・大倉 | | | | ○ | 180 | 4 | |
| 生活とエルゴノミクス | 講義 | 高戸 | | ○ | | | 30 | 2 | | |
| 臨床心理学 | 講義 | 樂木 | | | ○ | | 30 | 2 | | |

「◎」は必修科目、「○」は選択科目、「※」は非常勤講師

資格取得に関しては別表を参照のこと。

学部教育科目の卒業要件単位数 96単位

卒業要件単位数 124単位（共通教育科目の卒業要件28単位を含む）

(6) 介護福祉マネジメント学コース 授業科目

| 授業科目の名称 | 授業の方法 | 担当教員 | 開講年次及び | | | | 開講時間数 | 開講単位数 | 卒業要件単位数 |
|----------------|--------------------|---------------|--------------|-------|---|----|-------|-------|---------|
| | | | 必修選択の別 | | | | | | |
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | |
| 専門 共通 科目 | 現代福祉入門 | 講義 | 学科長他 | ◎ | | | | 30 | 2 |
| | 社会学と社会システム | 講義 | 近藤 | ◎ | | | | 30 | 2 |
| | 社会福祉の原理と政策 I | 講義 | 村社 | ◎ | | | | 30 | 2 |
| | 医学概論 | 講義 | 高戸・中村 | ◎ | | | | 30 | 2 |
| | ソーシャルワークの基盤と専門職 I | 講義 | 村社 | ◎ | | | | 30 | 2 |
| | 人間関係形成とコミュニケーション | 講義 | 佐藤 | ◎ | | | | 30 | 2 |
| | 社会保障 I | 講義 | 岩満 | ○ | | | | 30 | 2 |
| | ソーシャルワークの基盤と専門職 II | 講義 | 竹本 | ○ | | | | 30 | 2 |
| | 地域福祉と包括的支援体制 I | 講義 | 口村 | ○ | | | | 30 | 2 |
| | 福祉産業論 | 講義 | 喜村 | | ○ | | | 30 | 2 |
| | サービスマーケティング論 | 講義 | 喜村 | | ◎ | | | 30 | 2 |
| | 高齢者福祉 | 講義 | 桐野 | | ○ | | | 30 | 2 |
| | 身体機能と障害 | 講義 | 中村・高戸 | | ○ | | | 30 | 2 |
| | 知的発達と障害 | 講義 | 中村 | | ○ | | | 30 | 2 |
| | 権利擁護を支える法制度 | 講義 | 桐野 | | | ○ | | 30 | 2 |
| | 福祉サービスの組織と経営 | 講義 | 井上(祐) | | | ○ | | 30 | 2 |
| | 現代の精神保健の課題と支援 I | 講義 | 周防 | | | ○ | | 30 | 2 |
| | チームガバナビリティ演習 | 演習 | 中村 他 | | | ○ | | 30 | 1 |
| | 地域保健福祉演習 | 演習 | 坂野・久保田・住吉 | | | ○ | | 30 | 1 |
| | フードビジネス学 | 講義 | 伊東 他 | | | ○ | | 30 | 2 |
| | 未来型プロジェクト<食> | 演習 | 伊東 他 | | | | ○ | 120 | 4 |
| | 海外研修(保健福祉学) | 演習 | 関根他 | ○ | | | | 30 | 1 |
| | 基礎ゼミナール〔隔週〕 | 演習 | 学科長・坂野・樂木・喜村 | | ◎ | | | 30 | 1 |
| 専門ゼミナール〔隔週〕 | 演習 | 学科教員 | | | ◎ | | 30 | 1 | |
| 研究ゼミナール | 演習 | 学科教員 | | | | ◎ | 120 | 4 | |
| 専門 科目 | 健康科学 | 人体の構造と機能 | 講義 | 若林 | | ○ | | 30 | 2 |
| | | 老年科学 | 講義 | 中村・澤田 | | ○ | | 30 | 2 |
| | | 老年医学 | 講義 | ※植木 | | ○ | | 30 | 2 |
| | | 認知症論 | 講義 | 中村 | | ○ | | 30 | 2 |
| | | 認知症ケア論 | 講義 | 佐藤 | | | ○ | 30 | 2 |
| | | 運動・リハビリテーション学 | 講義 | ※原田 | | ○ | | 30 | 2 |
| | | 薬理学 | 講義 | 入江 | | | ○ | 30 | 2 |
| | | ヒューマンケア心理学演習 | 演習 | 中村・澤田 | | | ○ | 30 | 1 |
| | | 医療的ケア I | 講義 | 若林 | | | ○ | 20 | 1 |
| | | 医療的ケア II | 講義 | 若林 | | | ○ | 20 | 1 |
| 医療的ケア III | 講義 | 若林 | | | ○ | 20 | 1 | | |
| 医療的ケア演習 | 演習 | 若林 | | | ○ | 30 | 1 | | |

96 単 位

| 授業科目の名称 | 授業の方法 | 担当教員 | 開講年次及び | | | | 開講時間数 | 開講単位数 | 卒業要件単位数 | |
|---|-----------------------------|-------|-------------|---|---|---|-------|-------|---------|--------------|
| | | | 必修選択の別 | | | | | | | |
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | | |
| 専門科目 介護福祉学 マネジメント学 | 介護原論Ⅰ | 講義 | 佐藤 | | ◎ | | | 30 | 2 | 96 単 位 |
| | 介護原論Ⅱ | 講義 | 若林 | | ○ | | | 30 | 2 | |
| | 多文化介護論 | 講義 | 趙 | | ○ | | | 30 | 2 | |
| | リーダーシップ演習 | 演習 | 佐藤・趙・若林 | | | | ○ | 30 | 1 | |
| | 介護管理 | 講義 | 趙 | | | | ○ | 30 | 2 | |
| | 介護予防演習 | 演習 | 高戸 | | | | ○ | 30 | 1 | |
| | コミュニケーション技術Ⅰ | 演習 | 趙 | | ○ | | | 30 | 1 | |
| | コミュニケーション技術Ⅱ | 演習 | 佐藤 | | | ○ | | 30 | 1 | |
| | 生活支援技術Ⅰ（生活支援の理解・居住環境・デザイン） | 演習 | 趙 | | ○ | | | 30 | 1 | |
| | 生活支援技術Ⅱ（自立に向けた移動の介護） | 演習 | 趙 | | ○ | | | 30 | 1 | |
| | 生活支援技術Ⅲ（自立に向けた排泄の介護） | 演習 | 若林 | | ○ | | | 30 | 1 | |
| | 生活支援技術Ⅳ（自立に向けた食事の介護） | 演習 | 趙 | | ○ | | | 30 | 1 | |
| | 生活支援技術Ⅴ（自立に向けた入浴・清潔保持の介護他） | 演習 | 趙 | | ○ | | | 60 | 2 | |
| | 生活支援技術Ⅵ（休息睡眠の介護、人生の最終段階の介護） | 演習 | 若林 | | ○ | | | 30 | 1 | |
| | 福祉用具の活用技術と理論 | 演習 | 佐藤 | | ○ | | | 30 | 1 | |
| | 家政学演習 | 演習 | 山下・※治部 | | | ○ | | 30 | 1 | |
| | 住環境科学演習 | 演習 | 高戸 | | | ○ | | 30 | 1 | |
| | 介護過程総論 | 演習 | 若林 | | ○ | | | 30 | 1 | |
| | 介護過程Ⅰ（基礎） | 演習 | 若林 | | ○ | | | 30 | 1 | |
| | 介護過程Ⅱ（実践） | 演習 | 若林 | | ○ | | | 60 | 2 | |
| | 介護過程Ⅲ（応用） | 演習 | 佐藤・若林 | | | ○ | | 30 | 1 | |
| | 介護総合演習導入 | 演習 | 趙 | | ○ | | | 30 | 1 | |
| | 介護総合演習Ⅰ（高齢者施設、障がい者支援施設） | 演習 | 趙・若林・※木林 | | ○ | | | 30 | 1 | |
| | 介護総合演習Ⅱ（高齢者施設、介護過程展開） | 演習 | 趙・佐藤・若林・※木林 | | | ○ | | 30 | 1 | |
| | 介護総合演習Ⅲ（障がい者支援施設） | 演習 | 佐藤・趙・※木林 | | | ○ | | 15 | 1 | |
| | 介護総合演習Ⅳ（地域） | 演習 | 佐藤・若林・※木林 | | | | ○ | 15 | 1 | |
| | 介護福祉実習Ⅰ（高齢者施設、障がい者支援施設） | 実習 | 趙・若林 | | ○ | | | 90 | 2 | |
| | 介護福祉実習Ⅱ（高齢者施設、介護過程展開） | 実習 | 佐藤・趙・若林 | | | ○ | | 180 | 4 | |
| 介護福祉実習Ⅲ（障がい者支援施設） | 実習 | 佐藤・趙 | | | ○ | | 90 | 2 | | |
| 介護福祉実習Ⅳ（地域） | 実習 | 佐藤・若林 | | | | ○ | 90 | 2 | | |
| 介護ロボット論 | 講義 | ※井上 | | | ○ | | 30 | 2 | | |
| 介護施設デザイン演習 | 演習 | 高戸・畠 | | | ○ | | 30 | 1 | | |
| 経営戦略論 | 講義 | 喜村 | | | ○ | | 30 | 2 | | |
| 施設会計演習 | 演習 | 喜村・井上 | | | ○ | | 15 | 1 | | |
| 介護データマネジメント演習 | 演習 | ※土屋 | | | ○ | | 30 | 1 | | |
| 海外介護プロモーション | 演習 | 趙 | | | | ○ | 30 | 1 | | |
| 海外介護プロモーションは隔年開講。介護福祉マネジメント学コースの学生のみ履修可能 「◎」は必修科目、「○」は選択科目、「※」は非常勤講師 資格取得に関しては別表を参照のこと。 学部教育科目の卒業要件単位数 96単位 卒業要件単位数 124単位（共通教育科目の卒業要件28単位を含む） | | | | | | | | | | |

(7) 科目ナンバリング

| 授業科目の名称 | 科目ナンバリング | 分野1 (略称と英語名称) | | 分野2 (略称と英語名称) | |
|-----------------------|------------------|---------------|--------------------------|---------------|--|
| | | 略称 | 英語名称 | 略称 | 英語名称 |
| 現代福祉入門 | IND_JCS-A6-1R-L0 | IND | interdisciplinary | ICS | Introduction to Contemporary Social Welfare |
| 社会学と社会システム | IND_SSS-A6-1R-L1 | | (学際的) | SSS | Sociology and Social System |
| 社会福祉の原理と政策 I | IND_PSI-A6-1R-L1 | | | PSI | Principles of Social Welfare I |
| 医学概論 | IND_IMD-A6-1R-L1 | | | IMD | Introduction to Medicine |
| ソーシャルワークの基盤と専門職 I | IND_SW1-A6-1R-L1 | | | SW1 | Social Work Theory I |
| 人間関係形成とコミュニケーション | IND_HRC-A6-1R-L1 | | | HRC | Human Relationship Formation and Communication |
| 社会保障 I | IND_SSI-A6-1E-L1 | | | SSI | Social Security I |
| ソーシャルワークの基盤と専門職 II | IND_SW2-A6-1E-L1 | | | SW2 | Social Work Theory II |
| 地域福祉と包括的支援体制 I | IND_CW1-A6-1E-L1 | | | CW1 | Community based Welfare I |
| 福祉産業論 | IND_ISW-A6-2E-L0 | | | ISW | Industrial Social Welfare |
| サービスマーケティング論 | IND_SEM-A6-2R-L0 | | | SEM | Service Marketing |
| 高齢者福祉 | IND_WFE-A6-2E-L1 | | | WFE | Welfare for the Elderly |
| 身体機能と障害 | IND_PFD-A6-2E-L1 | | | PFD | Physical Functions and Disabilities |
| 知的発達と障害 | IND_IDD-A6-2E-L1 | | | IDD | Intellectual Development and Developmental Disorders |
| 権利擁護を支える法制度 | IND_HRA-A6-3E-L1 | | | HRA | Human Rights Advocacy and Adult Guardianship |
| 福祉サービスの組織と経営 | IND_SIM-A6-3E-L1 | | | SIM | Social Welfare Institution Management |
| 現代の精神保健の課題と支援 I | IND_MHI-A6-3E-L1 | | | MHI | Contemporary Mental Health and Welfare Issues and Support I |
| チームガバナンス演習 | CBL_TGE-A6-3E-S0 | CBL | Community Based Learning | TGE | Team Governability Exercise |
| 地域保健福祉演習 | CBL_RHW-A6-3E-S0 | | | RHW | Practice of Regional Health and Welfare |
| フードビジネス学 | CBL_FOB-A6-3E-L0 | | | FOB | Food Business |
| 未来型プロジェクト<食> | CBL_PSF-A6-4E-S0 | | | PSF | Project of a Sustainable Future <Food> |
| 海外研修(保健福祉学) | CBL_SAH-A6-1E-S0 | | | SAH | Study Abroad Program (Health and Welfare Science) |
| 基礎ゼミナール(隔週) | IND_SEM-A6-2R-S0 | | | SEM | Seminar I |
| 専門ゼミナール(隔週) | IND_SEM-A6-3R-S0 | | | SEM | Seminar II |
| 研究ゼミナール | IND_THE-A6-4R-S0 | | | THE | Thesis |
| 児童・家庭福祉 I | SWS_CP1-A6-2E-L1 | SWS | Social Work Studies | CP1 | Child Welfare Policy and Practice I |
| 児童・家庭福祉 II | SWS_CP2-A6-2E-L1 | | (社会福祉学) | CP2 | Child Welfare Policy and Practice II |
| 家族福祉論 | SWS_FAW-A6-3R-L1 | | | FAW | Family Welfare |
| 障害者福祉 | SWS_WPD-A6-2E-L1 | | | WPD | Welfare for Persons with Disabilities |
| 貧困に対する支援 | SWS_SWP-A6-3E-L1 | | | SWP | Social Welfare for People in Poverty |
| 社会福祉の原理と政策 II | SWS_PS2-A6-3E-L1 | | | PS2 | Principles of Social Welfare II |
| 社会保障 II | SWS_S2-A6-2E-L1 | | | SS2 | Social Security II |
| 国際福祉論 | SWS_ISW-A6-2E-L0 | | | ISW | International Social Welfare |
| 国際家族政策論 | SWS_IFP-A6-3E-L0 | | | IFP | International Family Policy |
| 地域福祉と包括的支援体制 II | SWS_CW2-A6-2E-L1 | | | CW2 | Community based Welfare II |
| 社会病理学 | SWS_SOP-A6-2E-L0 | | | SOP | Social Pathology |
| 社会福祉調査の基礎 | SWS_SWR-A6-3E-L1 | | | SWR | Social Work Research |
| 社会福祉調査演習 | SWS_SRE-A6-3E-S0 | | | SRE | Social Work Research Exercise |
| 福祉のまちづくり政策論 | SWS_STP-A6-3E-L0 | | | STP | Social Town Planning |
| スクールソーシャルワーク論 | SWS_SSW-A6-3E-L1 | | | SSW | School Social Work |
| スクールソーシャルワーク演習 | SWS_SWE-A6-3E-S1 | | | SWE | School Social Work Exercise |
| スクールソーシャルワーク実習指導 | SWS_SSP-A6-4E-P1 | | | SSP | Leading of School Social Work Practice |
| スクールソーシャルワーク実習 | SWS_SWP-A6-4E-P1 | | | SWP | Social Work Practice |
| 発達心理学 | SWS_DEP-A6-2E-L0 | | | DEP | Developmental Psychology |
| 教育社会学 | SWS_SOE-A6-3E-L0 | | | SOE | Sociology of Education |
| ソーシャルワークの理論と方法 I | SWS_SW1-A6-2E-L1 | | | SW1 | Social Work I |
| ソーシャルワークの理論と方法 II | SWS_SW2-A6-3E-L1 | | | SW2 | Social Work II |
| ソーシャルワークの理論と方法 III | SWS_SW3-A6-3E-L1 | | | SW3 | Social Work III |
| ソーシャルワークの理論と方法 IV | SWS_SW4-A6-4E-L1 | | | SW4 | Social Work IV |
| ソーシャルワーク演習 I | SWS_WE1-A6-2E-S1 | | | WE1 | Social Work Exercise I |
| ソーシャルワーク演習 II | SWS_WE2-A6-2E-S1 | | | WE2 | Social Work Exercise II |
| ソーシャルワーク演習 III | SWS_WE3-A6-3E-S1 | | | WE3 | Social Work Exercise III |
| ソーシャルワーク実習指導 I | SWS_LP1-A6-2E-P1 | | | LP1 | Leading of Social Work Practice I |
| ソーシャルワーク実習指導 II | SWS_LP2-A6-3E-P1 | | | LP2 | Leading of Social Work Practice II |
| ソーシャルワーク実習指導 III | SWS_LP3-A6-3E-P1 | | | LP3 | Leading of Social Work Practice III |
| ソーシャルワーク実習 | SWS_SWP-A6-3E-P1 | | | SWP | Social Work Practice |
| 保健医療と福祉 | SWS_SSH-A6-3E-L1 | | | SSH | Social Services in Health Care |
| ソーシャルワーク演習 IV | SWS_WE4-A6-4E-S1 | | | WE4 | Social Work Exercise IV |
| 刑事司法と福祉 | SWS_SWL-A6-3E-L1 | | | SWL | Social Welfare Laws |
| 精神保健福祉の原理 I | SWS_PM1-A6-3E-L1 | | | PM1 | Principle of Mental Health Social Work I |
| 精神保健福祉の原理 II | SWS_PM2-A6-3E-L1 | | | PM2 | Principle of Mental Health Social Work II |
| 精神保健ソーシャルワークの理論と方法 I | SWS_SM1-A6-3E-L1 | | | SM1 | Social Work in Mental Health I |
| 精神保健ソーシャルワークの理論と方法 II | SWS_SM2-A6-3E-L1 | | | SM2 | Social Work in Mental Health II |
| 精神保健ソーシャルワーク演習 I | SWS_MH1-A6-3E-S1 | | | MH1 | Mental Health Social Work Exercise I |
| 精神保健ソーシャルワーク演習 II | SWS_MH2-A6-4E-S1 | | | MH2 | Mental Health Social Work Exercise II |
| 精神保健ソーシャルワーク演習 III | SWS_MH3-A6-4E-S1 | | | MH3 | Mental Health Social Work Exercise III |
| 精神障害リハビリテーション論 | SWS_MHR-A6-3E-L1 | | | MHR | Mental Health Rehabilitation |
| 精神保健福祉制度論 | SWS_SSM-A6-3E-L1 | | | SSM | Social Services for the Mentally Disabled |
| 精神医学と精神医療 I | SWS_PM1-A6-3E-L1 | | | PM1 | Psychiatric Medicine I |
| 精神医学と精神医療 II | SWS_PM2-A6-3E-L1 | | | PM2 | Psychiatric Medicine II |
| 現代の精神保健の課題と支援 II | SWS_MH2-A6-3E-L1 | | | MH2 | Contemporary Mental Health and Welfare Issues and Support II |
| 精神保健ソーシャルワーク実習指導 I | SWS_PP1-A6-3E-P1 | | | PP1 | Leading of Psychiatric Social Work Practice I |
| 精神保健ソーシャルワーク実習指導 II | SWS_PP2-A6-4E-P1 | | | PP2 | Leading of Psychiatric Social Work Practice II |
| 精神保健ソーシャルワーク実習 | SWS_PSP-A6-4E-P1 | | | PSP | Psychiatric Social Work Practice |
| 生活とエルゴノミクス | SWS_EDL-A6-2E-L0 | | | EDL | Ergonomics for Daily Life |
| 臨床心理学 | SWS_CLI-A6-3E-L0 | | | CLI | Clinical Psychology |

| 授業科目の名称 | 科目ナンバリング | 分野1(略称と英語名称) | | 分野2(略称と英語名称) | |
|--------------------------------|------------------|--------------|-------------------|--------------|--|
| | | 略称 | 英語名称 | 略称 | 英語名称 |
| 人体の構造と機能 | CWS_SFH-A6-2E-L1 | CWS | Care Work Studies | SFH | Structure and Functions in Human Body |
| 老年科学 | CWS_GER-A6-2E-L1 | | (介護福祉学) | GER | Gerontology |
| 老年医学 | CWS_GRI-A6-2E-L1 | | | GRI | Geriatrics |
| 認知症論 | CWS_CDD-A6-2E-L1 | | | CDD | Cognitive Disorders and Dementia |
| 認知症ケア論 | CWS_DEC-A6-3E-L1 | | | DEC | Dementia Care |
| 運動・リハビリテーション学 | CWS_KRH-A6-2E-L0 | | | KRH | Kinesiology and Rehabilitation for Human Life Care |
| 薬理学 | CWS_PHL-A6-3E-L0 | | | PHL | Pharmacology for Human Life Care |
| ヒューマンケア心理学演習 | CWS_PHC-A6-3E-S0 | | | PHC | Psychology of Human Care |
| 医療的ケア I | CWS_MC1-A6-3E-L1 | | | MC1 | Medical Care I |
| 医療的ケア II | CWS_MC2-A6-3E-L1 | | | MC2 | Medical Care II |
| 医療的ケア III | CWS_MC3-A6-3E-L1 | | | MC3 | Medical Care III |
| 医療的ケア演習 | CWS_ME1-A6-3E-S1 | | | ME1 | Medical Care Exercise I |
| 介護原論 I | CWS_IC1-A6-2R-L1 | | | IC1 | Introduction to Care Work I |
| 介護原論 II | CWS_IC2-A6-2E-L1 | | | IC2 | Introduction to Care Work II |
| 多文化介護論 | CWS_MCW-A6-2E-L1 | | | MCW | Multicultural Care Work |
| リーダーシップ演習 | CWS_CWL-A6-4E-S1 | | | CWL | Care Work Leadership |
| 介護管理 | CWS_CWM-A6-4E-L1 | | | CWM | Care Work Management |
| 介護予防演習 | CWS_EPF-A6-3E-S1 | | | EPF | Exercise for prevention of long-term frailty |
| コミュニケーション技術 I | CWS_CS1-A6-2E-S1 | | | CS1 | Communication Skills I |
| コミュニケーション技術 II | CWS_CS2-A6-3E-S1 | | | CS2 | Communication Skills II |
| 生活支援技術 I (生活支援の理解・居住環境・デザイン) | CWS_HL1-A6-2E-S1 | | | HL1 | Human Life Care Technique I |
| 生活支援技術 II (自立に向けた移動の介護) | CWS_HL2-A6-2E-S1 | | | HL2 | Human Life Care Technique II |
| 生活支援技術 III (自立に向けた排泄の介護) | CWS_HL3-A6-2E-S1 | | | HL3 | Human Life Care Technique III |
| 生活支援技術 IV (自立に向けた食事の介護) | CWS_HL4-A6-2E-S1 | | | HL4 | Human Life Care Technique IV |
| 生活支援技術 V (自立に向けた入浴・清潔保持の介護他) | CWS_HL5-A6-2E-S1 | | | HL5 | Human Life Care Technique V |
| 生活支援技術 VI (休息睡眠の介護、人生の最終段階の介護) | CWS_HL6-A6-2E-S1 | | | HL6 | Human Life Care Technique VI |
| 福祉用具の活用技術と理論 | CWS_ATA-A6-2E-S1 | | | ATA | Application and Theory of Assistive Technologies |
| 家政学演習 | CWS_HEP-A6-3E-S1 | | | HEP | Home Economics Practice |
| 住環境科学演習 | CWS_SDE-A6-3E-S1 | | | SDE | Science of Dwelling Environment and Housing-Exercise |
| 介護過程総論 | CWS_ICP-A6-2E-S1 | | | ICP | Introduction to Care-Work Process |
| 介護過程 I (基礎) | CWS_BCW-A6-2E-S1 | | | BCW | Basic Care-Work Process |
| 介護過程 II (実践) | CWS_ACW-A6-2E-S1 | | | ACW | Applied Care-Work Process |
| 介護過程 III (応用) | CWS_PCW-A6-3E-S1 | | | PCW | Practice Care-Work Process |
| 介護総合演習導入 | CWS_ICE-A6-2E-S1 | | | ICE | Introduction to Care Work Exercise |
| 介護総合演習 I (高齢者施設、障がい者支援施設) | CWS_CE1-A6-2E-S1 | | | CE1 | Care Work Exercise I |
| 介護総合演習 II (高齢者施設、介護過程展開) | CWS_CE2-A6-3E-S1 | | | CE2 | Care Work Exercise II |
| 介護総合演習 III (障がい者支援施設) | CWS_CE3-A6-3E-S1 | | | CE3 | Care Work Exercise III |
| 介護総合演習 IV (地域) | CWS_CE4-A6-4E-S1 | | | CE4 | Care Work Exercise IV |
| 介護福祉実習 I (高齢者施設、障がい者支援施設) | CWS_CW1-A6-2E-P1 | | | CW1 | Care Work Practice I |
| 介護福祉実習 II (高齢者施設、介護過程展開) | CWS_CW2-A6-3E-P1 | | | CW2 | Care Work Practice II |
| 介護福祉実習 III (障がい者支援施設) | CWS_CW3-A6-3E-P1 | | | CW3 | Care Work Practice III |
| 介護福祉実習 IV (地域) | CWS_CW4-A6-4E-P1 | | | CW4 | Care Work Practice IV |
| 介護ロボット論 | CWS_CRT-A6-3E-L0 | | | CRT | Care Robot Theory |
| 介護施設デザイン演習 | CWS_EID-A6-3E-S0 | | | EID | Exercise for Care Work Institution Design |
| 経営戦略論 | CWS_STM-A6-3E-L0 | | | STM | Strategic Management |
| 施設会計演習 | CWS_ACC-A6-3E-S0 | | | ACC | Accounting |
| 介護データマネジメント演習 | CWS_DME-A6-3E-S0 | | | DME | Care Work Data Management Exercise |
| 海外介護プロモーション | CWS_GPC-A6-4E-S0 | | | GPC | Global Promotion of Care Work |

専門科目

(8) 資格取得

社会福祉学コースでは、社会福祉士受験資格(表1)と社会福祉主事任用資格(表5)が取得できる。これに加えて、精神保健福祉士受験資格(表2)、スクールソーシャルワーク教育課程修了証(表3)のいずれかが取得できる。ただし、精神保健福祉士受験資格、スクールソーシャルワーク教育課程の最大定員は各10名であるため、これらの取得を希望する学生は3年次前期に決定する。希望者が定員を超えた場合には学科内で選考を行い、決定後の変更は認められない。

介護福祉マネジメント学コースでは介護福祉士受験資格(表4)と社会福祉主事任用資格(表5)が取得できる。介護福祉マネジメント学コースの定員は10名であるため、これらの取得を希望する学生は、1年次修了前に決定し、2年次から専門科目領域の専門科目を履修する。希望者が定員を超えた場合には学科内で選考を行い、決定後の変更は認められない。

社会福祉士は「社会福祉士及び介護福祉士法」で位置づけられた、社会福祉業務に携わる人の国家資格である。本学科において、厚生労働省の告示により指定されている所定の授業科目をすべて単位取得し、年1回2月に実施される国家試験に合格すれば、社会福祉士として登録できる。「社会福祉士及び介護福祉士法」には「社会福祉士とは、専門的知識及び技術をもって、身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者との連絡及び調整その他の援助を行うことを業とする者」と規定されている。

精神保健福祉士は「精神保健福祉士法」で位置づけられた、精神保健福祉業務に携わる人の国家資格である。本学科において、厚生労働省の告示により指定されている所定の授業科目をすべて単位取得し、年1回2月に実施される国家試験に合格すれば、精神保健福祉士として登録ができる。「精神保健福祉士法」には、「精神保健福祉士とは、精神障害者の保健及び福祉に関する専門的知識及び技術をもって、精神科病院その他の医療施設において精神障害の医療を受け、又は精神障害者の社会復帰の促進を図ることを目的とする施設を利用している者の地域相談支援に関する相談に応じ、助言、指導、日常生活への適応のために必要な訓練その他の援助を行うことを業とする者」と規定されている。

介護福祉士は、「社会福祉士及び介護福祉士法」で位置づけられた、介護業務に携わる人の国家資格である。本学科において、厚生労働省の告示により指定されている所定の授業科目をすべて単位取得し、年1回1月に実施される国家試験に合格すれば、介護福祉士として登録できる。「社会福祉士及び介護福祉士法」では、「介護福祉士とは、専門的知識及び技術をもって、身体上又は精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者につき心身の状況に応じた介護(喀痰吸引その他のその者が日常生活を営むのに必要な行為であって、医師の指示の下に行われるもの(厚生労働省令で定めるものに限る。))を含む。)を行い、並びにその者及びその介護者に対して介護に関する指導を行うことを業とする者」と規定されている。

スクールソーシャルワーカーは、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟の規定に定められた認定資格である。本学科において、日本ソーシャルワーク教育学校連盟により指定されているスクールソーシャルワーク教育課程を修了した者であって、社会福祉士登録を受けた者が、「一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟認定スクール(学校)ソーシャルワーク教育課程修了者」としての修了証の交付を受けることができる。スクール(学校)ソーシャルワーカーとは、「学校教育法で定める学校のうち、18歳未満の児童生徒を対象とした学校において、学校及び日常での生活を営む上で課題の解決を要する児童生徒とその家庭及びその児童を取り巻く環境・学校・社会・制度等を対象としたソーシャルワークの業を行う者」とされている。

社会福祉主事は、「社会福祉法」に規定された任用資格で、都道府県、市町村の行政職や福祉職の公務員試験に合格し、福祉事務所などのケースワーカーに採用される場合に活きる資格である。一定の社会福祉施設の生活支援員等の資格にも準用される。この資格を得るためには、「社会福祉主事に関する指定科目」(表5)のうち、いずれか3科目を取得する必要がある。

表1 社会福祉士の受験資格を取得するために必要な授業科目及び単位数

| 厚生労働省告示に定める科目 | 社会福祉学コース開講科目 | | | |
|---------------------|------------------|--------|--------|-----|
| 科目 | 科目 | 受験資格科目 | 国家試験科目 | 時間数 |
| 医学概論 | 医学概論 | ○ | ○ | 30 |
| 心理学と心理的支援 | 心理学 | ○ | ○ | 30 |
| 社会学と社会システム | 社会学と社会システム | ○ | ○ | 30 |
| 現代福祉の原理と政策 | 社会福祉の原理と政策Ⅰ | ○ | ○ | 30 |
| | 社会福祉の原理と政策Ⅱ | ○ | ○ | 30 |
| 社会福祉調査の基礎 | 社会福祉調査の基礎 | ○ | ○ | 30 |
| ソーシャルワークの基盤と専門職 | ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ | ○ | ○ | 30 |
| ソーシャルワークの基盤と専門職(専門) | ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ | ○ | ○ | 30 |
| ソーシャルワークの理論と方法 | ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ | ○ | ○ | 30 |
| | ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ | ○ | ○ | 30 |
| ソーシャルワークの理論と方法(専門) | ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ | ○ | ○ | 30 |
| | ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ | ○ | ○ | 30 |
| 地域福祉と包括的支援体制 | 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ | ○ | ○ | 30 |
| | 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ | ○ | ○ | 30 |
| 福祉サービスの組織と経営 | 福祉サービスの組織と経営 | ○ | ○ | 30 |
| 社会保障 | 社会保障Ⅰ | ○ | ○ | 30 |
| | 社会保障Ⅱ | ○ | ○ | 30 |
| 高齢者福祉 | 高齢者福祉 | ○ | ○ | 30 |
| 障害者福祉 | 障害者福祉 | ○ | ○ | 30 |
| 児童・家庭福祉 | 児童・家庭福祉Ⅰ | ○ | ○ | 30 |
| 貧困に対する支援 | 貧困に対する支援 | ○ | ○ | 30 |
| 保健医療と福祉 | 保健医療と福祉 | ○ | ○ | 30 |
| 権利擁護を支える法制度 | 権利擁護を支える法制度 | ○ | ○ | 30 |
| 刑事司法と福祉 | 刑事司法と福祉 | ○ | ○ | 30 |
| ソーシャルワーク演習 | ソーシャルワーク演習Ⅰ | ○ | ○ | 30 |
| ソーシャルワーク演習(専門) | ソーシャルワーク演習Ⅱ | ○ | ○ | 30 |
| | ソーシャルワーク演習Ⅲ | ○ | ○ | 60 |
| | ソーシャルワーク演習Ⅳ | ○ | ○ | 30 |
| ソーシャルワーク実習指導 | ソーシャルワーク実習指導Ⅰ | ○ | ○ | 45 |
| | ソーシャルワーク実習指導Ⅱ | ○ | ○ | 45 |
| | ソーシャルワーク実習指導Ⅲ | ○ | ○ | 45 |
| ソーシャルワーク実習 | ソーシャルワーク実習 | ○ | ○ | 240 |

表2 精神保健福祉士の受験資格を取得するために必要な授業科目及び単位数
 (「社会福祉士の受験資格を取得するために必要な授業科目及び単位数」に記載の科目は除く)

| 厚生労働省告示に定める科目 | 社会福祉学コース開講科目 | | | |
|--------------------|---------------------|--------|--------|------|
| 科目 | 科目 | 受験資格科目 | 国家試験科目 | 時間数 |
| 精神医学と精神医療 | 精神医学と精神医療Ⅰ | ○ | ○ | 30 |
| | 精神医学と精神医療Ⅱ | ○ | ○ | 30 |
| 現代の精神保健の課題と支援 | 現代の精神保健の課題と支援Ⅰ | ○ | ○ | 30 |
| | 現代の精神保健の課題と支援Ⅱ | ○ | ○ | 30 |
| 精神保健福祉の原理 | 精神保健福祉の原理Ⅰ | ○ | ○ | 30 |
| | 精神保健福祉の原理Ⅱ | ○ | ○ | 30 |
| ソーシャルワークの理論と方法(専門) | 精神保健ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ | ○ | ○ | 30 |
| | 精神保健ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ | ○ | ○ | 30 |
| 精神障害リハビリテーション論 | 精神障害リハビリテーション論 | ○ | ○ | 30 |
| 精神保健福祉制度論 | 精神保健福祉制度論 | ○ | ○ | 30 |
| ソーシャルワーク演習(専門) | 精神保健ソーシャルワーク演習Ⅰ | ○ | ○ | 30 |
| | 精神保健ソーシャルワーク演習Ⅱ | ○ | ○ | 30 |
| | 精神保健ソーシャルワーク演習Ⅲ | ○ | ○ | 30 |
| ソーシャルワーク実習指導 | 精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅰ | ○ | ○ | 45 |
| | 精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅱ | ○ | ○ | 45 |
| ソーシャルワーク実習 | 精神保健ソーシャルワーク実習 | ○ | ○ | 180※ |

- (注) 1. 本学では、社会福祉士の受験資格科目(国家試験科目)をすべて履修することを前提にして、精神保健福祉士の授業科目が組まれている。そのため、本学では、上の表に掲げる精神保健福祉士の受験資格科目(国家試験科目)のみを履修しただけでは、精神保健福祉士国家試験の受験資格を取得することができない。必ず、社会福祉士と精神保健福祉士の両方の受験資格科目(国家試験科目)をすべて履修すること。
2. 精神保健福祉士養成課程以外の学生は、この表の「厚生労働省告示に定める科目」における「ソーシャルワーク演習(専門)」、「ソーシャルワーク実習指導」、「ソーシャルワーク実習」を履修できない。

※実習時間の免除の実施

規則上の実習時間は210時間であるが、福祉の専門職である精神保健福祉士の資格を有する者が、社会福祉士の養成課程において実習を行った場合、60時間を上限として実習を免除できることとなっている。

表3 スクールソーシャルワーク教育課程に関する指定科目

| 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育 学校連盟が定める科目名 | 社会福祉学コース開講科目 | | |
|--|------------------|--------|-----|
| | 科目 | 認定資格科目 | 時間数 |
| スクール（学校）ソーシャルワーク論 | スクールソーシャルワーク論 | ○ | 30 |
| スクール（学校）ソーシャルワーク演習 | スクールソーシャルワーク演習 | ○ | 30 |
| スクール（学校）ソーシャルワーク実習指 導 | スクールソーシャルワーク実習指導 | ○ | 45 |
| スクール（学校）ソーシャルワーク実習 | スクールソーシャルワーク実習 | ○ | 90 |
| 教育基礎論などに関する科目「教育に関す る社会的、制度または経営事項」を含む | 教育社会学 | ○ | 30 |
| 教育基礎論などに関する科目「幼児、児童 生徒の心身の発達および学習家庭」を含む | 発達心理学 | ○ | 30 |
| 精神保健の課題と支援 | 現代の精神保健の課題と支援 I | ○ | 30 |

（注）スクールソーシャルワーク教育課程以外の学生は、この表の「一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟が定める科目名」における「スクール（学校）ソーシャルワーク演習」、「スクール（学校）ソーシャルワーク実習指導」、「スクール（学校）ソーシャルワーク実習」を履修できない。

表4 介護福祉士の受験資格を取得するために必要な授業科目及び単位数

| 社会福祉士介護福祉士養成指定規則 別表4及び6に定められる科目 | | | 介護福祉マネジメント学コース開設科目 | | | 備考 |
|------------------------------------|----------------|---------------------------|--------------------------------|-------|----------------------|--|
| 領域 | 教育内容 | 指定時間数 | 授業科目の名称 | 配当単位数 | 配当時間数 | |
| 人間と社会 | 人間の尊厳と自立 | 30 | 社会福祉の原理と政策 I | 2 | 30 | 左記授業科目を必ず履修し、修得すること。 |
| | 人間関係とコミュニケーション | 60 | 人間関係形成とコミュニケーション | 2 | 30 | |
| | | | 福祉サービスの組織と経営 | 2 | 30 | |
| | 社会の理解 | 60 | 高齢者福祉 | 2 | 30 | 左記授業科目の中の単位数に関わらず指定時間数240時間以上に相当する科目を選択し、修得すること。 |
| | | | 地域福祉と包括的支援体制 I | 2 | 30 | |
| | | | 自然科学要論 | 2 | 30 | |
| 人間と社会に関する選択科目 | | 社会保障 I | 2 | 30 | | |
| | | 権利擁護を支える法制度 | 2 | 30 | | |
| | | | | | | |
| 介護 | 介護の基本 | 180 | 介護原論 I | 2 | 30 | 左記授業科目を必ず履修し、修得すること。 |
| | | | 多文化介護論 | 2 | 30 | |
| | | | 介護原論 II | 2 | 30 | |
| | | | 介護管理 | 2 | 30 | |
| | | | リーダーシップ演習 | 1 | 30 | |
| | | | 介護予防演習 | 1 | 30 | |
| | コミュニケーション技術 | 60 | コミュニケーション技術 I | 1 | 30 | |
| | | | コミュニケーション技術 II | 1 | 30 | |
| | 生活支援技術 | 300 | 生活支援技術 I (生活支援の理解・居住環境・デザイン) | 1 | 30 | |
| | | | 生活支援技術 II (自立に向けた移動の介護) | 1 | 30 | |
| | | | 生活支援技術 III (自立に向けた排泄の介護) | 1 | 30 | |
| | | | 生活支援技術 IV (自立に向けた食事の介護) | 1 | 30 | |
| | | | 生活支援技術 V (自立に向けた入浴・清潔保持の介護他) | 2 | 60 | |
| | | | 生活支援技術 VI (休息睡眠の介護、人生の最終段階の介護) | 1 | 30 | |
| | | | 福祉用具の活用技術と理論 | 1 | 30 | |
| 家政学演習 | | | 1 | 30 | | |
| 住環境科学演習 | | | 1 | 30 | | |
| 介護過程 | 150 | 介護過程総論 | 1 | 30 | | |
| | | 介護過程 I (基礎) | 1 | 30 | | |
| | | 介護過程 II (実践) | 2 | 60 | | |
| | | 介護過程 III (応用) | 1 | 30 | | |
| 介護総合演習 | 120 | 介護総合演習導入 | 1 | 30 | | |
| | | 介護総合演習 I (高齢者施設、障がい者支援施設) | 1 | 30 | | |
| | | 介護総合演習 II (高齢者施設、介護過程展開) | 1 | 30 | | |
| | | 介護総合演習 III (障がい者支援施設) | 1 | 15 | | |
| | | 介護総合演習 IV (地域) | 1 | 15 | | |
| 介護実習 | 450 | 介護福祉実習 I (高齢者施設、障がい者支援施設) | 2 | 90 | | |
| | | 介護福祉実習 II (高齢者施設、介護過程展開) | 4 | 180 | | |
| | | 介護福祉実習 III (障がい者支援施設) | 2 | 90 | | |
| | | 介護福祉実習 IV (地域) | 2 | 90 | | |
| こころとからだのしくみ | 120 | 医学概論 | 2 | 30 | | |
| | | 人体の構造と機能 | 2 | 30 | | |
| | | 現代の精神保健の課題と支援 I | 2 | 30 | | |
| | | 心理学 | 2 | 30 | | |
| | 発達と老化の理解 | 60 | 老年科学 | 2 | 30 | |
| | | | 老年医学 | 2 | 30 | |
| | 認知症の理解 | 60 | 認知症論 | 2 | 30 | |
| 障害の理解 | 60 | 身体機能と障害 | 2 | 30 | | |
| | | 知的発達と障害 | 2 | 30 | | |
| 医療的ケア | 50 | 医療的ケア I | 1 | 20 | 左記授業科目を必ず履修し、修得すること。 | |
| | | 医療的ケア II | 1 | 20 | | |
| | | 医療的ケア III | 1 | 20 | | |
| | 所定回数 | 医療的ケア演習 | 1 | 30 | | |

(注) 1. 介護福祉士資格取得を希望する者は、介護福祉マネジメント学コースに在籍し、上記に定める全ての科目及び単位数を修得することにより介護福祉士国家試験受験資格を得ることができる。
2. 介護福祉マネジメント学コース以外の学生は、この表の領域「介護」「医療的ケア」の授業科目を履修できない。
3. 上記に定める科目の出席時間数が指定規則に定める時間数の3分の2(ただし、介護実習については5分の4)に満たない者については、当該科目の単位数を認定しない。
4. 介護福祉マネジメント学コースへの転学(編入学を含む)及び移籍は認めない。

表5 社会福祉主事に関する指定科目

| 指定科目 | 現代福祉学科開講科目 |
|------------|---|
| 社会福祉概論 | 社会福祉の原理と政策 I 及び II |
| 社会福祉事業史 | なし |
| 社会福祉援助技術論 | ソーシャルワークの基盤と専門職 I・II 及びソーシャルワークの理論と方法 I～IV (全て履修した場合) |
| 社会福祉調査論 | 社会福祉調査の基礎 |
| 社会福祉施設経営論 | 福祉サービスの組織と経営 |
| 社会福祉行政論 | なし |
| 社会保障論 | 社会保障 I 及び II |
| 公的扶助論 | 貧困に対する支援 |
| 児童福祉論 | 児童・家庭福祉 I |
| 家庭福祉論 | |
| 保育理論 | 保育原理(他学科教育科目) |
| 身体障害者福祉論 | 障害者福祉 |
| 知的障害者福祉論 | 知的発達と障害 |
| 精神障害者保健福祉論 | 精神保健福祉の原理 I 及び II |
| 老人福祉論 | 高齢者福祉 |
| 医療社会事業論 | 保健医療と福祉 |
| 地域福祉論 | 地域福祉と包括的支援体制 I 及び II |

| 指定科目 | 現代福祉学科開講科目 |
|------------|----------------|
| 法学 | 法学(共通教育科目) |
| 民法 行政法 | 権利擁護を支える法制度 |
| 経済学 | 経済学 (共通教育科目) |
| 社会政策 | なし |
| 経済政策 | なし |
| 心理学 | 心理学 (共通教育科目) |
| 社会学 | 社会学と社会システム |
| 教育学 | なし |
| 倫理学 | 倫理学 (共通教育科目) |
| 公衆衛生学 | なし |
| 医学一般 | 医学概論 |
| リハビリテーション論 | なし |
| 看護学 | 看護の世界(他学科教育科目) |
| 介護概論 | 介護原論 I 及び II |
| 栄養学 | 栄養学総論(他学科教育科目) |
| 家政学 | なし |

(9) 学外実習科目の履修要件

以下の実習科目を履修するためには、それぞれ以下の要件を満たす必要がある。また、事前に大学で規定する健康診断、麻疹抗体検査、腸内細菌検査等の検査を受け、実習に支障のない状態であることが確認できることが必要である。

① ソーシャルワーク実習

ソーシャルワーク実習は、以下のすべての要件を満たすことを履修要件とする。

- ＊ソーシャルワーク実習の履修前年度の前期までに開講されている社会福祉士国家試験受験科目がすべて単位認定されていること。
- ＊ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ及びソーシャルワーク実習指導Ⅰにおいて原則欠席がなく、授業の中で指示された所定の提出物(レポート等を含む)の提出がすべて行われていること。
- ＊あらゆる領域・分野の対象者に関心を持って勉学に勤しみ、資格取得の意欲をもって実習に臨むことができること。
- ＊大学で規定する抗体検査等の検査を受け、実習に支障のない状態であることが確認できること。

② 精神保健ソーシャルワーク実習

4年次に精神保健ソーシャルワーク実習を履修する学生は、以下の全ての要件を満たす事を原則とする。

- ・3年次までに開講されている社会福祉士国家試験受験科目が全て単位認定されていること。
- ・3年次までに開講されている精神保健福祉士国家試験受験科目が全て単位認定されていること。
- ・4年次開講の精神保健福祉士国家試験受験科目のうち演習及び実習指導に関する科目において原則欠席がなく、授業の中で指示された所定の提出物(レポート等を含む)の提出が全て行われていること。

③ 介護福祉実習Ⅰ、介護福祉実習Ⅱ、介護福祉実習Ⅲ、介護福祉実習Ⅳ

各実習を履修する場合は、以下の要件を満たすことを原則とする。

- ・介護福祉実習Ⅰ、介護福祉実習Ⅱ、介護福祉実習Ⅲ、介護福祉実習Ⅳのそれぞれの実習までに開講されている介護福祉士国家試験受験科目のうち、介護領域の科目が履修及び認定されていることを原則とする。
- ・介護福祉士国家試験受験科目については、原則欠席がないこととする。
- ・学校保健法による出席停止に該当しないこと、その他実習に支障のない健康状態であることとする。

④ スクールソーシャルワーク実習

4年次にスクールソーシャルワーク実習を履修する学生は、以下の全ての要件を満たすことを原則とする。

- ・3年次までに開講されている社会福祉士国家試験受験科目が全て単位認定されていること。
- ・3年次までに開講されているスクールソーシャルワーク教育課程科目が全て単位認定されていること。
- ・4年次開講のスクールソーシャルワーク教育課程科目のうち演習及び実習指導に関する科目において原則欠席がなく、授業の中で指示された所定の提出物(レポート等を含む)の提出が全て行われていること。

(10) カリキュラムマップ(2023年度)

| 授業科目の名称 | | 学位授与の方針に対する関与の程度 | | | | | | | |
|--------------------|-----------------------|------------------|---|-----|-----|---|---|---|---|
| | | A | B | C-1 | C-2 | D | E | F | G |
| 専門共通科目 | 現代福祉入門 | | | ◎ | | | | | |
| | 社会学と社会システム | ◎ | | | | ◎ | | | |
| | 社会福祉の原理と政策 I | | ◎ | ◎ | | | | | |
| | 医学概論 | ◎ | | | ◎ | | | | |
| | ソーシャルワークの基盤と専門職 I | | ◎ | ◎ | | | | | |
| | 人間関係形成とコミュニケーション | | | | | | | ◎ | |
| | 社会保障 I | | | | ◎ | | | | |
| | ソーシャルワークの基盤と専門職 II | | | ◎ | ◎ | | | | |
| | 地域福祉と包括的支援体制 I | | | ◎ | ◎ | | | | |
| | 福祉産業論 | | | ◎ | | | | | |
| | サービスマーケティング論 | | | ◎ | | | | | |
| | 高齢者福祉 | | | ◎ | | | | | |
| | 身体機能と障害 | | | | | ◎ | | | |
| | 知的発達と障害 | | | | | ◎ | | | |
| | 権利擁護を支える法制度 | | | ◎ | | | | | |
| | 福祉サービスの組織と経営 | | | ◎ | | | | | |
| | 現代の精神保健の課題と支援 I | | | ◎ | | | | | |
| | チームガバナリティ演習 | | ◎ | | | | | | ◎ |
| | 地域保健福祉演習 | | | | | | | ◎ | ◎ |
| | フードビジネス学 | | | ◎ | ◎ | | | | |
| 未来型プロジェクト<食> | | ◎ | | | | | | ◎ | |
| 海外研修(保健福祉学) | | | | | | | ◎ | | |
| 基礎ゼミナール〔隔週〕 | | | | | | ◎ | | ◎ | |
| 専門ゼミナール〔隔週〕 | | | | | | ◎ | | ◎ | |
| 研究ゼミナール | | ◎ | | | | ◎ | | ◎ | |
| 福祉行政・スクールソーシャルワーカー | 児童・家庭福祉 I | | | ◎ | | | | | |
| | 児童・家庭福祉 II | | | ◎ | | | | | |
| | 家族福祉論 | | ◎ | | ◎ | | | | |
| | 障害者福祉 | | | ◎ | | | | | |
| | 貧困に対する支援 | | | ◎ | | | | | |
| | 社会福祉の原理と政策 II | | | ◎ | | | | | |
| | 社会保障 II | | | | | ◎ | | | |
| | 国際福祉論 | | | | | ◎ | | | |
| | 国際家族政策論 | | | | | ◎ | | | |
| | 地域福祉と包括的支援体制 II | | | ◎ | | | | | |
| | 社会病理学 | | | | | ◎ | | | |
| | 社会福祉調査の基礎 | | | ◎ | | | | | |
| | 社会福祉調査演習 | | | ◎ | | | | | |
| | 福祉のまちづくり政策論 | | | | | ◎ | | | |
| | スクールソーシャルワーク論 | | | ◎ | | | | | |
| スクールソーシャルワーク演習 | | | | | ◎ | | | | |
| スクールソーシャルワーク実習指導 | | | | | ◎ | | | | |
| スクールソーシャルワーク実習 | | | | | ◎ | | | | |
| 発達心理学 | | | | | ◎ | | | | |
| 教育社会学 | | | | | ◎ | | | | |
| ソーシャルワーク | ソーシャルワークの理論と方法 I | | | ◎ | ◎ | | | | |
| | ソーシャルワークの理論と方法 II | | | ◎ | ◎ | | | | |
| | ソーシャルワークの理論と方法 III | | | ◎ | ◎ | | | | |
| | ソーシャルワークの理論と方法 IV | | | ◎ | ◎ | | | | |
| | ソーシャルワーク演習 I | | | | | ◎ | | | |
| | ソーシャルワーク演習 II | | | | | ◎ | | | |
| | ソーシャルワーク演習 III | | | | | ◎ | | | |
| | ソーシャルワーク実習指導 I | | | | | ◎ | | | |
| | ソーシャルワーク実習指導 II | | | | | ◎ | | | |
| | ソーシャルワーク実習指導 III | | | | | ◎ | | | |
| 医療・精神保健ソーシャルワーカー | 保健医療と福祉 | | ◎ | | ◎ | | | | |
| | ソーシャルワーク演習 IV | | | | | ◎ | | | |
| | 刑事司法と福祉 | | | ◎ | | | | | |
| | 精神保健福祉の原理 I | | | ◎ | | | | | |
| | 精神保健福祉の原理 II | | | ◎ | | | | | |
| | 精神保健ソーシャルワークの理論と方法 I | | | ◎ | | | | | |
| | 精神保健ソーシャルワークの理論と方法 II | | | ◎ | | | | | |
| | 精神保健ソーシャルワーク演習 I | | | | | ◎ | | | |
| | 精神保健ソーシャルワーク演習 II | | | | | ◎ | | | |
| | 精神保健ソーシャルワーク演習 III | | | | | ◎ | | | |
| | 精神障害リハビリテーション論 | | | | ◎ | | | | |
| | 精神保健福祉制度論 | | | | ◎ | | | | |
| | 精神医学と精神医療 I | | | | ◎ | | | | |
| | 精神医学と精神医療 II | | | | ◎ | | | | |
| | 現代の精神保健の課題と支援 II | | | | ◎ | | | | |
| | 精神保健ソーシャルワーク実習指導 I | | | | | ◎ | | | |
| | 精神保健ソーシャルワーク実習指導 II | | | | | ◎ | | | |
| | 精神保健ソーシャルワーク実習 | | | | | ◎ | | | |
| 生活とエルゴノミクス | | | | ◎ | | | | | |
| 臨床心理学 | | | | ◎ | | | | | |

| 現代福祉学科 学位授与の方針 | |
|--|---|
| <p>現代福祉学科は、少子高齢社会やグローバル社会といった複雑化する現代社会において生じている多様な社会的、個人的ニーズを科学的に解明し、すべての人々の健康と幸福の増進のために、介護福祉学を含む社会福祉学関連の学問を基盤に、グローバルセンスをもって岡山県から広く地域社会及び国際社会に能動的、創造的に貢献できる人材の育成を目指しています。</p> <p>卒業要件を満たすことにより、次の能力や態度・意欲を身に付けた者に学位を授与します。</p> | |
| A | <p>【人間・社会・自然の理解】</p> <p>人文科学、社会科学、自然科学、健康科学の知識を通して、人間・社会・自然を理解する力を身に付けている。</p> |
| B | <p>【倫理観】</p> <p>様々な社会問題に対する福祉の専門職業人として必要な倫理観と豊かな人間性を身に付けている。</p> |
| C-1 | <p>【専門的知識・技能1】</p> <p>個人や社会から得られたデータを用いた社会福祉学的課題や福祉サービス利用者の援助上の課題を明らかにする専門的知識と技能を身に付けている。</p> |
| C-2 | <p>【専門的知識・技能2】</p> <p>福祉ならびに保健、医療、教育等の福祉以外の分野のサービス利用者が抱える多様な福祉ニーズの理解及び課題解決のために必要な専門的知識と技能を身に付けている。</p> |
| D | <p>【論理的思考力・判断力・実践力】</p> <p>多様な社会的課題や個人の生活課題を理解し、解決していく能力、多様な福祉ニーズに対応する福祉プログラムを企画立案する能力、及び学際的な視点から情報交流や意見交換を行い、多様な福祉ニーズに対応できる能力を身に付けている。</p> |
| E | <p>【課題発見・解決力】〔主体性〕</p> <p>社会福祉学ならびにその関連分野における課題を発見し、主体的に解決する力とともに、多様な福祉ニーズに対応する力を身に付けている。</p> |
| F | <p>【コミュニケーション力】</p> <p>多様な福祉ニーズを有している外国人に対応するコミュニケーション能力や、地域社会や国際社会における福祉の実践感覚を身に付けている。</p> |
| G | <p>【多様な人々と協働する力】</p> <p>保健、医療、福祉、教育関連分野で貢献するための課題解決に必要な自己管理能力及びマネジメント力や、自他の役割を理解し、多様な人々と協調・協働して課題を解決する力を身に付けている。</p> |

| 授業科目の名称 | | 学位授与の方針に対する関与の程度 ◎:各方針と関係が深い科目 ○:各方針と関係する科目 | | | | | | | |
|---------------------------|--------------------------------|---|---|-----|-----|---|---|---|---|
| | | A | B | C-1 | C-2 | D | E | F | G |
| 健康科学 | 人体の構造と機能 | | | | ◎ | | | | |
| | 老年科学 | | | | ◎ | | | | |
| | 老年医学 | | | | ◎ | | | | |
| | 認知症論 | | | | ◎ | | | | |
| | 認知症ケア論 | | | | ◎ | | | | |
| | 運動・リハビリテーション学 | | | | ◎ | | | | |
| | 薬理学 | | | | ◎ | | | | |
| | ヒューマンケア心理学演習 | | | | | ◎ | | | |
| | 医療的ケア I | | | | ◎ | | | | |
| | 医療的ケア II | | | | ◎ | | | | |
| | 医療的ケア III | | | | ◎ | | | | |
| | 医療的ケア演習 | | | | | ◎ | | | |
| 介護福祉学 | 介護原論 I | | ◎ | | ◎ | | | | |
| | 介護原論 II | | ◎ | | ◎ | | | | |
| | 多文化介護論 | | | | | ◎ | | | |
| | リーダーシップ演習 | | | | | | ◎ | | |
| | 介護管理 | | | | ◎ | | | | |
| | 介護予防演習 | | | | | ◎ | | | |
| | コミュニケーション技術 I | | | | | | | ◎ | |
| | コミュニケーション技術 II | | | | | | | ◎ | |
| | 生活支援技術 I (生活支援の理解・居住環境・デザイン) | | | | ◎ | | | | |
| | 生活支援技術 II (自立に向けた移動の介護) | | | | ◎ | | | | |
| | 生活支援技術 III (自立に向けた排泄の介護) | | | | ◎ | | | | |
| | 生活支援技術 IV (自立に向けた食事の介護) | | | | ◎ | | | | |
| | 生活支援技術 V (自立に向けた入浴・清潔保持の介護) | | | | ◎ | | | | |
| | 生活支援技術 VI (休息睡眠の介護、人生の最終段階の介護) | | | | ◎ | | | | |
| | 福祉用具の活用技術と理論 | | | | ◎ | | | | |
| | 家政学演習 | | | | ◎ | | | | |
| | 住環境科学演習 | | | | ◎ | | | | |
| | 介護過程総論 | | | | ◎ | | | | |
| | 介護過程 I (基礎) | | | | | ◎ | | | |
| | 介護過程 II (実践) | | | | | | ◎ | | |
| | 介護過程 III (応用) | | | | | | ◎ | | |
| | 介護総合演習導入 | | | | | | ◎ | | |
| | 介護総合演習 I (高齢者施設、障がい者支援施設) | | | | | | ◎ | | |
| | 介護総合演習 II (高齢者施設、介護過程展開) | | | | | | ◎ | | |
| 介護総合演習 III (障がい者支援施設) | | | | | | ◎ | | | |
| 介護総合演習 IV (地域) | | | | | | ◎ | | | |
| 介護福祉実習 I (高齢者施設、障がい者支援施設) | | | | | | ◎ | | | |
| 介護福祉実習 II (高齢者施設、介護過程展開) | | | | | | ◎ | | | |
| 介護福祉実習 III (障がい者支援施設) | | | | | | ◎ | | | |
| 介護福祉実習 IV (地域) | | | | | | ◎ | | | |
| マネジメント学 | 介護ロボット論 | | | | ◎ | | | | |
| | 介護施設デザイン演習 | | | | | ◎ | | | |
| | 経営戦略論 | | | | ◎ | | | | |
| | 施設会計演習 | | | | ◎ | | | | |
| | 介護データマネジメント演習 | | | ◎ | | ◎ | | | |
| | 海外介護プロモーション | | ◎ | | | | | ◎ | |

| DP (卒業後5年 方針) | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | |
|---------------------|--|--|--|---|---|--|---|---------------------|
| | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 修学 基礎 | 大学で学ぶ フレッシュマンセミナー | 社会を生きる力を学ぶ | | | | | | |
| | 人文・社会科学要論 自然科学要論 心理学 社会学と社会システム 医学概論 | | | | | | | |
| A | 人文・社会科学科目群 | | | | | | | |
| | 自然科学科目群 | | | | | | | |
| | 健康科学科目群 | | | | | | | |
| | 複合PBL科目群 | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| B | ソーシャルワークの 基礎と専門職Ⅰ | | | | チームガバナビリティ 演習 保健医療と福祉 | 家族福祉論 | 未来型プロジェクト<食> | |
| | | | | | | | | |
| C-1 | 現代福祉入門 社会福祉の原理と 政策Ⅰ 社会保障Ⅰ ソーシャルワークの 基礎と専門職Ⅰ | 社会福祉の原理と 政策Ⅰ ソーシャルワークの 基礎と専門職Ⅱ 地域福祉と包括的 支援体制Ⅰ | サービス マーケティング論 児童・家庭福祉Ⅰ ソーシャルワークの 理論と方法Ⅰ 地域福祉と包括的 支援体制Ⅱ | 福祉産業論 高齢者福祉 児童・家庭福祉Ⅱ 障害者福祉 | 現代の精神保健の 課題と支援Ⅰ 貧困に対する支援 社会福祉の原理と 政策Ⅱ ソーシャルワークの 理論と方法Ⅱ 刑事司法と福祉 精神保健福祉の 原理Ⅰ スクールソーシャル ワーク論 社会福祉調査の基礎 | 権利擁護を支える 法制度 福祉サービスの 組織と経営 社会福祉調査演習 ソーシャルワークの 理論と方法Ⅲ 精神保健福祉の 原理Ⅱ 精神保健ソーシャル ワークの理論と方法Ⅰ 精神保健ソーシャル ワークの理論と方法Ⅱ | ソーシャルワークの 理論と方法Ⅳ | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| C-2 | 医学概論 | | 身体機能と障害 社会病理学 ソーシャルワークの 理論と方法Ⅰ | 知的発達と障害 社会保障Ⅱ 国際福祉論 発達心理学 生活とエルゴノミクス | 国際家族政策論 保健医療と福祉 福祉のまちづくり 政策論 精神障害 リハビリテーション論 精神保健福祉制度論 精神医学と 精神医療Ⅰ 臨床心理学 ソーシャルワークの 理論と方法Ⅱ | 家族福祉論 教育社会学 精神医学と 精神医療Ⅱ 現代の精神保健の 課題と支援Ⅱ ソーシャルワークの 理論と方法Ⅲ | ソーシャルワークの 理論と方法Ⅳ | |
| | | | | | | | | |
| D | 社会学と社会システム | | | ソーシャルワーク 演習Ⅰ ソーシャルワーク 演習Ⅱ ソーシャルワーク 実習指導Ⅰ | ソーシャルワーク 実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習 | ソーシャルワーク 演習Ⅲ ソーシャルワーク 実習指導Ⅲ 精神保健ソーシャル ワーク実習指導Ⅰ 精神保健ソーシャル ワーク演習Ⅰ | ソーシャルワーク 演習Ⅳ 精神保健ソーシャル ワーク実習指導Ⅱ 精神保健ソーシャル ワーク実習 スクールソーシャル ワーク演習 スクールソーシャル ワーク実習指導 精神保健ソーシャル ワーク演習Ⅱ | 精神保健ソーシャル ワーク演習Ⅲ |
| | | | | | | | スクールソーシャルワーク実習 | |
| E | | | 基礎ゼミナール | | 専門ゼミナール | | 研究ゼミナール | |
| F | ELP1 ELP2 海外研修(保健福祉 学) | ELP3 ELP4 人間関係形成と コミュニケーション | ELP5 | ELP6 | 地域保健福祉演習 | | | |
| | | | | | | | | |
| G | 社会連携要論 | 地域資源学 | キャリアデザイン演習 | | チームガバナビリティ 演習 地域保健福祉演習 | | 未来型プロジェクト<食> | |
| | | | 基礎ゼミナール | | 専門ゼミナール | | 研究ゼミナール | |
| | 社会連携科目群 | | | | | | | |

| DP (学位取得方針) | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | |
|----------------|------------------|------------------|---------------|--------------|----------------|---------------|--------------|----|
| | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 修学基礎 | 大学で学ぶ | 社会を生きる力を学ぶ | | | | | | |
| | フレッシュマンセミナー | | | | | | | |
| A | 人文・社会科学要論 | | | | | | | |
| | 自然科学要論 | | | | | | | |
| | 心理学 | | | | | | | |
| | 社会学と社会システム | | | | | | | |
| | 医学概論 | | | | | | | |
| | 人文・社会科学科目群 | | | | | | | |
| | 自然科学科目群 | | | | | | | |
| | 健康科学科目群 | | | | | | | |
| | 複合PBL科目群 | | | | | | | |
| B | ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅰ | | 介護原論Ⅰ | 介護原論Ⅱ | チームガバナビリティ演習 | | 未来型プロジェクト<食> | |
| | | | | | | | 海外介護プロモーション | |
| C-1 | 現代福祉入門 | 社会福祉の原理と政策Ⅰ | サービスマーケティング論 | 福祉産業論 | 現代の精神保健の課題と支援Ⅰ | 権利擁護を支える法制度 | | |
| | 社会福祉の原理と政策Ⅰ | ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅱ | 介護過程総論 | 高齢者福祉 | | 福祉サービスの組織と経営 | | |
| | 社会保障Ⅰ | 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ | 生活支援技術Ⅰ | | | 家政学演習 | | |
| | ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅰ | | 生活支援技術Ⅱ | | | 住環境科学演習 | | |
| | | | 生活支援技術Ⅲ | | フードビジネス学 | | | |
| | | | 生活支援技術Ⅳ | | | | | |
| | | | 生活支援技術Ⅴ | | | | | |
| | | | 生活支援技術Ⅵ | | | | | |
| | | | 福祉用具の活用技術と理論 | | | | | |
| C-2 | 医学概論 | | 身体機能と障害 | 知的発達と障害 | 認知症ケア論 | 医療的ケアⅢ | 介護管理 | |
| | | | 人体の構造と機能 | 介護過程Ⅰ | 薬理学 | 医療的ケア演習 | | |
| | | | 介護原論Ⅰ | 老年科学 | 医療的ケアⅠ | 介護ロボット論 | | |
| | | | 運動・リハビリテーション学 | 老年医学 | 医療的ケアⅡ | 経営戦略論 | | |
| | | | | 認知症論 | | 施設会計演習 | | |
| | | | | 介護原論Ⅱ | | | | |
| | | | | | フードビジネス学 | | | |
| D | 社会学と社会システム | | 介護総合演習導入 | 多文化介護論 | ヒューマンケア心理学演習 | 介護過程Ⅲ | 介護総合演習Ⅳ | |
| | | | 介護福祉実習Ⅰ | 介護総合演習Ⅰ | 介護予防演習 | 介護総合演習Ⅱ | 介護福祉実習Ⅳ | |
| | | | | 介護過程Ⅱ | 介護福祉実習Ⅱ | 介護総合演習Ⅲ | | |
| | | | | | | 介護福祉実習Ⅲ | | |
| | | | | | | 介護施設デザイン演習 | | |
| | | | | | | 介護データマネジメント演習 | | |
| E | | | 基礎ゼミナール | | 専門ゼミナール | | 研究ゼミナール | |
| | | | | | | | リーダーシップ演習 | |
| F | ELP1 | ELP3 | ELP5 | ELP6 | | コミュニケーション技術Ⅱ | 海外介護プロモーション | |
| | ELP2 | ELP4 | | コミュニケーション技術Ⅰ | 地域保健福祉演習 | | | |
| | 海外研修(保健福祉学) | 人間関係形成とコミュニケーション | | | | | | |
| G | 社会連携要論 | 地域資源学 | キャリアデザイン演習 | | チームガバナビリティ演習 | | 未来型プロジェクト<食> | |
| | | | | | 地域保健福祉演習 | | | |
| | | | 基礎ゼミナール | | 専門ゼミナール | | 研究ゼミナール | |
| | 社会連携科目群 | | | | | | | |

(11) 履修モデル例

国家・地方公務員等のソーシャルワーカー（福祉事務所・児童相談所・社会福祉協議会等） をめざす場合

国家・地方公務員や社会福祉協議会のソーシャルワーカーは、国の厚生労働省、法務省や都道府県庁、児童相談所、都道府県・市町村の福祉事務所、社会福祉協議会などで、事務官、保護教官、ケースワーカー、児童福祉司などとして、更生援護や障害者・高齢者・児童の相談・調査・指導などを行います。そのため、行政福祉や地域福祉の知識だけでなく国内外の社会情勢を理解する力、制度・サービスが開発できる力、他職種と連携できる力などが求められます。そこで社会福祉士受験資格科目以外にも社会病理学、国際福祉論、発達心理学などを学び、幅広い知識を身につけて、ソーシャルワーカーとしての能力を高めていくよう意識した取り組みをするとよいでしょう。

| 共通教育科目 | | | | | | | |
|--|----|-------|----|-----|----|-----|----|
| 1年次 | 単位 | 2年次 | 単位 | 3年次 | 単位 | 4年次 | 単位 |
| 大学で学ぶ◎ | 1 | ELP5◎ | 1 | | | | |
| フレッシュマンセミナー◎ | 1 | ELP6◎ | 1 | | | | |
| 人文・社会科学要論◎ | 2 | | | | | | |
| 自然科学要論◎ | 2 | | | | | | |
| 心理学◎○ | 2 | | | | | | |
| 社会連携要論◎ | 1 | | | | | | |
| 地域資源学◎ | 1 | | | | | | |
| ELP1◎ | 1 | | | | | | |
| ELP2◎ | 1 | | | | | | |
| ELP3◎ | 1 | | | | | | |
| ELP4◎ | 1 | | | | | | |
| 人文・社会科学より | 2 | | | | | | |
| 自然科学より | 2 | | | | | | |
| 健康科学より | 4 | | | | | | |
| 複合PBLより | 1 | | | | | | |
| 全カテゴリーより | 3 | | | | | | |
| 小計 | 26 | 小計 | 2 | 小計 | 0 | 小計 | 0 |
| | | | | | | 小計 | 28 |
| 備考 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通教育選択科目は12単位以上を修得する（斜体活字は選択科目を示す）。 ・ ◎は必修科目を示す。 ・ ○がついている科目は社会福祉士受験資格科目である。 | | | | | | | |

| 専門科目 | | | | | | | |
|---|----|------------------|----|--------------------|-----|-------------------|----|
| 1年次 | 単位 | 2年次 | 単位 | 3年次 | 単位 | 4年次 | 単位 |
| 現代福祉学入門◎ | 2 | 基礎ゼミナール◎ | 1 | 専門ゼミナール◎ | 1 | 研究ゼミナール◎ | 4 |
| 医学概論◎◎ | 2 | サービスマーケティング論◎ | 2 | 家族福祉論◎ | 2 | ソーシャルワーク演習IV◎ | 1 |
| 社会福祉の原理と政策I◎◎ | 2 | ソーシャルワークの理論と方法I◎ | 2 | 貧困に対する支援◎ | 2 | ソーシャルワークの理論と方法IV◎ | 2 |
| ソーシャルワークの基盤と専門職I◎◎ | 2 | 児童・家庭福祉I◎ | 2 | ソーシャルワーク実習指導II◎ | 1 | 未来型プロジェクト<食>☆ | 4 |
| 社会学と社会システム◎ | 2 | 高齢者福祉◎ | 2 | ソーシャルワーク実習指導III◎ | 2 | | |
| 人間関係形成とコミュニケーション◎ | 2 | ソーシャルワーク実習指導I◎ | 1 | ソーシャルワークの理論と方法II◎ | 2 | | |
| 地域福祉と包括的支援体制I◎ | 2 | ソーシャルワーク演習I◎ | 1 | ソーシャルワークの理論と方法III◎ | 2 | | |
| ソーシャルワークの基盤と専門職II◎ | 2 | ソーシャルワーク演習II◎ | 1 | 刑事司法と福祉◎ | 2 | | |
| 社会保障I◎ | 2 | 地域福祉と包括的支援体制II◎ | 2 | 社会福祉の原理と政策II◎ | 2 | | |
| 海外研修(保健福祉学) | 1 | 社会保障II◎ | 2 | 保健医療と福祉◎ | 2 | | |
| | | 障害者福祉◎ | 2 | 権利擁護を支える法制度◎ | 2 | | |
| | | 発達心理学 | 2 | ソーシャルワーク演習III◎ | 2 | | |
| | | 児童・家庭福祉II | 2 | 社会福祉調査の基礎◎ | 2 | | |
| | | 社会病理学 | 2 | 福祉サービスの組織と経営◎ | 2 | | |
| | | 国際福祉論 | 2 | ソーシャルワーク実習◎ | [6] | | |
| | | 福祉産業論 | 2 | 現代の精神保健の課題と支援I | 2 | | |
| | | | | 国際家族政策論 | 2 | | |
| | | | | 社会福祉調査演習 | 2 | | |
| | | | | 福祉のまちづくり政策論 | 2 | | |
| | | | | フードビジネス学☆ | 2 | | |
| | | | | 地域保健福祉演習☆ | 1 | | |
| | | | | チームガバナビリティ演習☆ | 1 | | |
| 小計 | 19 | 小計 | 28 | 小計 | 37 | 小計 | 11 |
| | | | | | | 小計 | 95 |
| 備考 <共通教育科目>28単位+<学部教育科目>95単位(+実習6単位)=123単位(+6単位) <合計129単位> <1年次>45単位、<2年次>30単位、<3年次>37単位(+6単位)、<4年次>11単位 | | | | | | | |
| ・専門共通科目、専門科目から96単位以上を修得すること。 | | | | | | | |
| ・◎は卒業必修科目を示す。 | | | | | | | |
| ・○がついている科目は社会福祉士受験資格科目である。(56単位+実習6単位、うち必修科目は10単位) | | | | | | | |
| ・斜体活字は、国家・地方公務員等(福祉事務所・児童相談所・社会福祉協議会等)のソーシャルワーカーをめざす場合に履修することが望ましい選択科目を示す。 | | | | | | | |
| ・[]は実習科目の単位を示し、履修小計に含んでいない。(履修上の注意参照) | | | | | | | |
| ・☆は副専攻「吉備の杜クリエイター課程」の科目である。 | | | | | | | |
| 履修上の注意 | | | | | | | |
| 卒業要件は、共通教育科目(28単位)と学部共通科目(96単位)、計124単位である。 | | | | | | | |
| 1年間の単位の上限は56単位である。 | | | | | | | |
| 実習及び集中講義は単位の上限の計算に含まない。 | | | | | | | |
| 4年次の研究ゼミナール履修は、研究ゼミナール4単位を含め30単位以内を単位修得することで卒業要件単位を満たすことを条件とする。 | | | | | | | |

スクールソーシャルワーカーをめざす場合

スクールソーシャルワーカーは、学校現場、教育委員会、教育関連機関などでソーシャルワークを行う福祉専門職です。学校、児童生徒とその家庭、地域の課題解決に向けて環境調整、連携、相談援助などを行います。そのため、ソーシャルワーク実践を行う学校や教育に関する知識はもちろんのこと、連携機関である行政福祉や地域福祉の知識、制度・サービスが開発できる力、他職種と連携できる力などが求められます。そこで社会福祉士受験資格科目とスクールソーシャルワーク教育課程に関する指定科目以外にも社会病理学、児童・家庭福祉Ⅱ、知的発達と障害などを学び、幅広い知識を身につけて、スクールソーシャルワーカーとしての能力を高めていくよう意識した取り組みをするとよいでしょう。

| 共通教育科目 | | | | | | | |
|--|----|-------|----|-----|----|-----|----|
| 1年次 | 単位 | 2年次 | 単位 | 3年次 | 単位 | 4年次 | 単位 |
| 大学で学ぶ◎ | 1 | ELP5◎ | 1 | | | | |
| フレッシュマンセミナー◎ | 1 | ELP6◎ | 1 | | | | |
| 人文・社会科学要論◎ | 2 | | | | | | |
| 自然科学要論◎ | 2 | | | | | | |
| 心理学◎○ | 2 | | | | | | |
| 社会連携要論◎ | 1 | | | | | | |
| 地域資源学◎ | 1 | | | | | | |
| ELP1◎ | 1 | | | | | | |
| ELP2◎ | 1 | | | | | | |
| ELP3◎ | 1 | | | | | | |
| ELP4◎ | 1 | | | | | | |
| 人文・社会科学より | 2 | | | | | | |
| 自然科学より | 2 | | | | | | |
| 健康科学より | 4 | | | | | | |
| 複合PBLより | 1 | | | | | | |
| 全カテゴリーより | 3 | | | | | | |
| 小計 | 26 | 小計 | 2 | 小計 | 0 | 小計 | 0 |
| | | | | | | 小計 | 28 |
| 備考 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通教育選択科目は12単位以上を修得する（斜体活字は選択科目を示す）。 ・ ◎は必修科目を示す。 ・ ○がついている科目は社会福祉士受験資格科目である。 | | | | | | | |

| 専門科目 | | | | | | | |
|--|----|------------------|----|------------------|-----|-----------------|-----|
| 1年次 | 単位 | 2年次 | 単位 | 3年次 | 単位 | 4年次 | 単位 |
| 現代福祉学入門◎ | 2 | 基礎ゼミナール◎ | 1 | 専門ゼミナール◎ | 1 | 研究ゼミナール◎ | 4 |
| 医学概論◎○ | 2 | サービスマーケティング | 2 | 家族福祉論◎ | 2 | ソーシャルワーク演習Ⅳ○ | 1 |
| 社会福祉の原理と政策Ⅰ◎○ | 2 | 論◎ | 2 | 貧困に対する支援○ | 2 | ソーシャルワークの理論と方 | 2 |
| ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ◎○ | 2 | ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ○ | 2 | ソーシャルワーク実習指導Ⅱ○ | 1 | 法Ⅳ○ | |
| 社会学と社会システム◎○ | 2 | 児童・家庭福祉Ⅰ○ | 2 | ソーシャルワーク実習指導Ⅲ○ | 1 | スクールソーシャルワーク実習指 | 1 |
| 人間関係形成とコミュニケーション◎ | 2 | 高齢者福祉○ | 2 | ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ○ | 2 | 導口 | |
| 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ○ | 2 | ソーシャルワーク実習指導Ⅰ○ | 1 | ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ○ | 2 | スクールソーシャルワーク実習口 | [2] |
| ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ○ | 2 | ソーシャルワーク演習Ⅰ○ | 1 | ○ | | | |
| 社会保障Ⅰ○ | 2 | ソーシャルワーク演習Ⅱ○ | 1 | 刑事司法と福祉○ | 2 | | |
| 海外研修(保健福祉学) | 1 | 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ○ | 2 | 社会福祉の原理と政策Ⅱ○ | 2 | | |
| | | 社会保障Ⅱ○ | 2 | ○ | | | |
| | | 障害者福祉○ | 2 | 保健医療と福祉○ | 2 | | |
| | | 発達心理学口 | 2 | 権利擁護を支える法制度○ | 2 | | |
| | | 児童・家庭福祉Ⅱ | 2 | ○ | | | |
| | | 社会病理学 | 2 | ソーシャルワーク演習Ⅲ○ | 2 | | |
| | | 国際福祉論 | 2 | 社会福祉調査の基礎○ | 2 | | |
| | | 知的発達と障害 | 2 | 福祉サービスの組織と経営○ | 2 | | |
| | | | | ソーシャルワーク実習○ | [6] | | |
| | | | | スクールソーシャルワーク論口 | 2 | | |
| | | | | 教育社会学口 | 2 | | |
| | | | | 現代の精神保健の課題と支援Ⅰ口 | 2 | | |
| | | | | スクールソーシャルワーク演習口 | 1 | | |
| | | | | 社会福祉調査演習 | 1 | | |
| | | | | 福祉のまちづくり政策論 | 2 | | |
| 小計 | 19 | 小計 | 28 | 小計 | 35 | 小計 | 8 |
| | | | | | | 小計 | 90 |
| 備考 <共通教育科目> 28単位 + <学部教育科目> 90単位 (+実習8単位) = 118単位 (+8単位) <合計126単位> <1年次> 45単位、<2年次> 30単位、<3年次> 35単位 (+6単位)、<4年次> 8単位 (+2単位) ・専門共通科目、専門科目から96単位以上を修得すること。 ・◎は卒業必修科目を示す。 ・○がついている科目は社会福祉士受験資格科目である。(56単位+実習6単位、うち必修科目は10単位) ・□がついている科目はスクールソーシャルワーク教育課程に関する指定科目である。(10単位+実習2単位) ・斜体活字は、スクールソーシャルワーカーをめざす場合に履修することが望ましい選択科目を示す。 ・[]は実習科目の単位を示し、履修小計に含んでいない。(履修上の注意参照) | | | | | | | |
| 履修上の注意 卒業要件は、共通教育科目(28単位)と学部共通科目(96単位)、計124単位である。 1年間の単位の上限は56単位である。 実習及び集中講義は単位の上限の計算に含まない。 4年次の研究ゼミナール履修は、研究ゼミナール4単位を含め30単位以内を単位修得することで卒業要件単位を満たすことを条件とする。 | | | | | | | |

医療ソーシャルワーカーをめざす場合

医療ソーシャルワーカーは、保健医療分野でソーシャルワークを行う福祉専門職で、傷病に伴って生じる生活上の問題・課題を抱える人の援助を行っています。そのため、傷病が与える生活への影響に関する知識はもちろんのこと患者の心理的・社会的背景を理解する力が必要となってきます。そこで、社会福祉士受験資格科目以外にも家族福祉論や社会病理学、精神医学と精神医療Ⅰなどを学び、幅広い知識を身につけて、医療ソーシャルワーカーとしての能力を高めていくよう意識した取り組みをするとよいでしょう。

| 共通教育科目 | | | | | | | |
|--|----|-------|----|-----|----|-----|----|
| 1年次 | 単位 | 2年次 | 単位 | 3年次 | 単位 | 4年次 | 単位 |
| 大学で学ぶ◎ | 1 | ELP5◎ | 1 | | | | |
| フレッシュマンセミナー◎ | 1 | ELP6◎ | 1 | | | | |
| 人文・社会科学要論◎ | 2 | | | | | | |
| 自然科学要論◎ | 2 | | | | | | |
| 心理学◎○ | 2 | | | | | | |
| 社会連携要論◎ | 1 | | | | | | |
| 地域資源学◎ | 1 | | | | | | |
| ELP1◎ | 1 | | | | | | |
| ELP2◎ | 1 | | | | | | |
| ELP3◎ | 1 | | | | | | |
| ELP4◎ | 1 | | | | | | |
| 人文・社会科学より | 2 | | | | | | |
| 自然科学より | 2 | | | | | | |
| 健康科学より | 4 | | | | | | |
| 複合PBLより | 1 | | | | | | |
| 全カテゴリーより | 3 | | | | | | |
| 小計 | 26 | 小計 | 2 | 小計 | 0 | 小計 | 0 |
| | | | | | | 小計 | 28 |
| 備考 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通教育選択科目は12単位以上を修得する（斜体活字は選択科目を示す）。 ・ ◎は必修科目を示す。 ・ ○がついている科目は社会福祉士受験資格科目である。 | | | | | | | |

| 専門科目 | | | | | | | |
|---|----|----------------|----|------------------|-----|--------------|----|
| 1年次 | 単位 | 2年次 | 単位 | 3年次 | 単位 | 4年次 | 単位 |
| 現代福祉入門◎ | 2 | 基礎ゼミナール◎ | 1 | 専門ゼミナール◎ | 1 | 研究ゼミナール | 4 |
| 医学概論◎○ | 2 | サービスマーケティン | 2 | 家族福祉論◎ | 2 | ◎ | |
| 社会福祉の原理と | 2 | グ論◎ | | 福祉サービスの組織と | 2 | ソーシャルワーク演習IV | 1 |
| 政策I◎○ | | ソーシャルワークの理論と方法 | 2 | 経営○ | | ○ | |
| ソーシャルワークの基盤と | 2 | I○ | | 貧困に対する支援○ | 2 | ソーシャルワークの理論 | 2 |
| 専門職I◎○ | | 児童・家庭福祉I○ | 2 | ソーシャルワーク実習指導II○ | 1 | と方法IV○ | |
| 社会学と社会シス | 2 | 高齢者福祉○ | 2 | ソーシャルワークの理論と方法 | 2 | 未来型プロジェ | 4 |
| テム◎○ | | ソーシャルワーク実習指導I○ | 1 | II○ | | クト<食>☆ | |
| 人間関係形成とコ | 2 | ソーシャルワーク演習I○ | 1 | 刑事司法と福祉○ | 2 | | |
| ミュニケーション | | ソーシャルワーク演習II○ | 1 | 社会福祉の原理と政策 | 2 | | |
| ◎ | | 地域福祉と包括的支援 | 2 | II○ | | | |
| 地域福祉と包括的 | 2 | 体制II○ | | 保健医療と福祉○ | 2 | | |
| 支援体制I○ | | 社会保障II○ | 2 | 権利擁護を支える法制 | 2 | | |
| ソーシャルワークの基盤と | 2 | 障害者福祉○ | 2 | 度○ | | | |
| 専門職II○ | | 児童・家庭福祉II | 2 | ソーシャルワーク演習III○ | 2 | | |
| 社会保障I○ | 2 | 発達心理学 | 2 | ソーシャルワーク実習指導III○ | 1 | | |
| 海外研修(保健福祉 | 1 | 社会病理学 | 2 | 社会福祉調査の基礎○ | 2 | | |
| 学) | | 福祉産業論 | 2 | ソーシャルワークの理論と方法 | 2 | | |
| | | 身体機能と障害 | 2 | III○ | | | |
| | | 知的発達と障害 | 2 | ソーシャルワーク実習○ | [6] | | |
| | | 国際福祉論 | 2 | 臨床心理学 | 2 | | |
| | | | | 精神保健福祉の原理I | 2 | | |
| | | | | 精神医学と精神医療I | 2 | | |
| | | | | 精神保健福祉制度論 | 2 | | |
| | | | | チーム・バリエーション演習☆ | 1 | | |
| | | | | フードビジネス学☆ | 2 | | |
| | | | | 地域保健福祉演習☆ | 1 | | |
| 小計 | 19 | 小計 | 32 | 小計 | 37 | 小計 | 11 |
| | | | | | | 小計 | 99 |
| 備考 <共通教育科目>28単位+<学部教育科目>99単位(+実習6単位)=127単位(+6単位)<合計133単位> <1年次>45単位、<2年次>34単位、<3年次>37単位(+6単位)、<4年次>11単位 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・専門共通科目、専門科目から96単位以上を修得すること。 ・◎は卒業必修科目を示す。 ・○マークがついている科目は社会福祉士受験資格科目である。(56単位+実習6単位、うち必修科目は10単位) ・斜体活字は、医療ソーシャルワーカーをめざす場合に履修することが望ましい選択科目を示す。 ・[]は実習科目の単位を示し、履修小計に含んでいない。(履修上の注意参照) ・☆は副専攻「吉備の杜クリエイター課程」の科目である。 | | | | | | | |
| 履修上の注意 | | | | | | | |
| 卒業要件は、共通教育科目(28単位)と学部共通科目(96単位)、計124単位である。 | | | | | | | |
| 1年間の単位の上限は56単位である。 | | | | | | | |
| 実習及び集中講義は単位の上限の計算に含まない。 | | | | | | | |
| 4年次の研究ゼミナール履修は、研究ゼミナール4単位を含め30単位以内を単位修得することで卒業要件単位を満たすことを条件とする。 | | | | | | | |

精神保健分野のソーシャルワーカーをめざす場合

精神保健分野のソーシャルワーカーは、地域の障害者向けの施設や行政、保健所、病院等で精神障害に伴って生じる生活上の問題・課題を抱える方々の援助を行っています。そのため、医学や精神保健学の知識はもちろんのこと患者の心理や社会的背景を理解する力が必要となってきます。そこで、社会福祉士受験資格科目に加え、社会病理学、知的発達と障害、国際福祉論などの科目、さらには精神保健福祉士の受験資格科目を学び、幅広い知識を身につけてソーシャルワーカーとしての能力を高めていくように意識した取り組みをするとよいでしょう。

| 共通教育科目 | | | | | | | |
|--|----|-------|----|-----|----|-----|----|
| 1年次 | 単位 | 2年次 | 単位 | 3年次 | 単位 | 4年次 | 単位 |
| 大学で学ぶ◎ | 1 | ELP5◎ | 1 | | | | |
| フレッシュマンセミナー◎ | 1 | ELP6◎ | 1 | | | | |
| 人文・社会科学要論◎ | 2 | | | | | | |
| 自然科学要論◎ | 2 | | | | | | |
| 心理学◎◎ | 2 | | | | | | |
| 社会連携要論◎ | 1 | | | | | | |
| 地域資源学◎ | 1 | | | | | | |
| ELP1◎ | 1 | | | | | | |
| ELP2◎ | 1 | | | | | | |
| ELP3◎ | 1 | | | | | | |
| ELP4◎ | 1 | | | | | | |
| 人文・社会科学より | 2 | | | | | | |
| 自然科学より | 2 | | | | | | |
| 健康科学より | 4 | | | | | | |
| 複合PBLより | 1 | | | | | | |
| 全カテゴリーより | 3 | | | | | | |
| 小計 | 26 | 小計 | 2 | 小計 | 0 | 小計 | 0 |
| | | | | | | 小計 | 28 |
| 備考 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通教育選択科目は12単位以上を修得すること（斜体活字は選択科目を示す）。 ・ ◎は必修科目を示す。 ・ ○がついている科目は社会福祉士受験資格科目である。 | | | | | | | |

| 専門科目 | | | | | | | |
|--|----|------------------|----|----------------------|-----|--------------------|-----|
| 1年次 | 単位 | 2年次 | 単位 | 3年次 | 単位 | 4年次 | 単位 |
| 現代福祉入門◎ | 2 | 基礎ゼミナール◎ | 1 | 専門ゼミナール◎ | 1 | 研究ゼミナール◎ | 4 |
| 医学概論◎○ | 2 | サービスマーケティング◎ | 2 | 家族福祉論◎ | 2 | ソーシャルワーク演習Ⅳ○ | 1 |
| 社会福祉の原理と政策Ⅰ◎○ | 2 | ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ○ | 2 | 福祉サービスの組織と経営○ | 2 | ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ○ | 2 |
| ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ◎○ | 2 | 児童・家庭福祉Ⅰ○ | 2 | 貧困に対する支援○ | 2 | 精神保健ソーシャルワーク演習Ⅱ□ | 1 |
| 社会学と社会システム◎○ | 2 | 高齢者福祉○ | 2 | ソーシャルワーク実習指導Ⅱ○ | 1 | □ | |
| 人間関係形成とコミュニケーション◎ | 2 | ソーシャルワーク実習指導Ⅰ○ | 1 | ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ○ | 2 | 精神保健ソーシャルワーク演習Ⅲ□ | 1 |
| 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ○ | 2 | ○ | 1 | 刑事司法と福祉○ | 2 | □ | |
| ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ○ | 2 | ソーシャルワーク演習Ⅰ○ | 1 | 社会福祉の原理と政策Ⅱ○ | 2 | 精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅱ□ | 1 |
| 社会保障Ⅰ○ | 2 | ソーシャルワーク演習Ⅱ○ | 1 | 保健医療と福祉○ | 2 | 精神保健ソーシャルワーク実習 | [4] |
| 海外研修(保健福祉学) | 1 | 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ○ | 2 | 権利擁護を支える法制度○ | 2 | □ | |
| | | 社会保障Ⅱ○ | 2 | ソーシャルワーク演習Ⅲ○ | 2 | | |
| | | 障害者福祉○ | 2 | ソーシャルワーク実習指導Ⅲ○ | 1 | | |
| | | 児童・家庭福祉Ⅱ | 2 | 社会福祉調査の基礎○ | 2 | | |
| | | 社会病理学 | 2 | ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ○ | 2 | | |
| | | 身体機能と障害 | 2 | ソーシャルワーク実習○ | [6] | | |
| | | 知的発達と障害 | 2 | 精神医学と精神医療Ⅰ□ | 2 | | |
| | | 国際福祉論 | 2 | 精神医学と精神医療Ⅱ□ | 2 | | |
| | | 生活とエルゴノミクス | 2 | 現代の精神保健の課題と支援Ⅰ□ | 2 | | |
| | | | | 現代の精神保健の課題と支援Ⅱ□ | 2 | | |
| | | | | 精神保健福祉の原理Ⅰ□ | 2 | | |
| | | | | 精神保健福祉の原理Ⅱ□ | 2 | | |
| | | | | 精神障害リハビリテーション論□ | 2 | | |
| | | | | 精神保健ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ□ | 2 | | |
| | | | | 精神保健ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ□ | 2 | | |
| | | | | 精神保健福祉制度論□ | 2 | | |
| | | | | 精神保健ソーシャルワーク演習Ⅰ□ | 1 | | |
| | | | | 精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅰ□ | 1 | | |
| 小計 | 19 | 小計 | 30 | 小計 | 47 | 小計 | 10 |
| | | | | | | 小計 | 106 |
| 備考 <共通教育科目> 28単位+<学部教育科目> 106単位(+実習10単位)=134単位(+10単位)<合計144単位> <1年次> 45単位、<2年次> 32単位、<3年次> 47単位(+6単位)、<4年次> 10単位(+4単位) ・専門共通科目、専門科目から96単位以上を修得すること。 ・◎は卒業必修科目を示す。 ・○マークがついている科目は社会福祉士受験資格科目である。(56単位+実習6単位、うち必修科目は10単位) ・□マークがついている科目は精神保健福祉士受験資格科目(25単位+実習4単位)を示す(社会福祉士科目は除く)。 ・斜体活字は、病院や保健所等の精神保健ソーシャルワーカーをめざす場合に履修することが望ましい選択科目を示す。 ・[]は実習科目の単位を示し、履修小計に含んでいない。(履修上の注意参照) | | | | | | | |
| 履修上の注意 卒業要件は、共通教育科目(28単位)と学部共通教育科目(96単位)、計124単位である。 1年間の単位の上限は56単位である。 実習及び集中講義は単位の上限の計算に含まない。 4年次の研究ゼミナール履修は、研究ゼミナール4単位を含め30単位以内を単位修得することで卒業要件単位を満たすことを条件とする。 | | | | | | | |

高齢者・障害者福祉のソーシャルワーカーをめざす場合

高齢者・障害者福祉のソーシャルワーカーは、高齢者・障害者の生活相談や施設入退所の相談や手続き、ケアプランの作成支援などを行います。そのために、高齢者・障害者福祉のほか保健・医療・司法の幅広い知識が求められます。そこで社会福祉士受験資格科目以外にも様々な科目を学び、ソーシャルワーカーとしての能力を高めていくよう意識した取り組みをするとよいでしょう。

| 共通教育科目 | | | | | | | |
|--|----|-------|----|-----|----|-----|----|
| 1年次 | 単位 | 2年次 | 単位 | 3年次 | 単位 | 4年次 | 単位 |
| 大学で学ぶ◎ | 1 | ELP5◎ | 1 | | | | |
| フレッシュマンセミナー◎ | 1 | ELP6◎ | 1 | | | | |
| 人文・社会科学要論◎ | 2 | | | | | | |
| 自然科学要論◎ | 2 | | | | | | |
| 心理学◎○ | 2 | | | | | | |
| 社会連携要論◎ | 1 | | | | | | |
| 地域資源学◎ | 1 | | | | | | |
| ELP1◎ | 1 | | | | | | |
| ELP2◎ | 1 | | | | | | |
| ELP3◎ | 1 | | | | | | |
| ELP4◎ | 1 | | | | | | |
| 人文・社会科学より | 2 | | | | | | |
| 自然科学より | 2 | | | | | | |
| 健康科学より | 4 | | | | | | |
| 複合PBLより | 1 | | | | | | |
| 全カテゴリーより | 3 | | | | | | |
| 小計 | 26 | 小計 | 2 | 小計 | 0 | 小計 | 0 |
| | | | | | | 小計 | 28 |
| 備考 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通教育選択科目は12単位以上を修得する（斜体活字は選択科目を示す）。 ・ ◎は必修科目を示す。 ・ ○がついている科目は社会福祉士受験資格科目である。 | | | | | | | |

| 専門科目 | | | | | | | |
|--|----|--------------------|----|------------------|-----|------------------|----|
| 1年次 | 単位 | 2年次 | 単位 | 3年次 | 単位 | 4年次 | 単位 |
| 現代福祉学入門◎ | 2 | 基礎ゼミナール◎ | 1 | 専門ゼミナール◎ | 1 | 研究ゼミナール◎ | 4 |
| 医学概論◎◎ | 2 | サービスマーケティング論◎ | 2 | 家族福祉論◎ | 2 | ◎ | |
| 社会福祉の原理と政策 I ◎◎ | 2 | ソーシャルワークの理論と方法 I ○ | 2 | 貧困に対する支援○ | 2 | ソーシャルワーク演習Ⅳ○ | 1 |
| ソーシャルワークの基盤と専門職 I ◎◎ | 2 | ○ | | ソーシャルワーク実習指導Ⅱ○ | 1 | ○ | |
| 社会学と社会システム◎◎ | 2 | 児童・家庭福祉 I ○ | 2 | ○ | | ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ○ | 2 |
| 人間関係形成とコミュニケーション◎ | 2 | 高齢者福祉○ | 2 | ○ | | 未来型プロジェクト<食>☆ | 4 |
| 地域福祉と包括的支援体制 I ○ | 2 | ソーシャルワーク実習指導 I ○ | 1 | ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ○ | 2 | | |
| ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ○ | 2 | ソーシャルワーク演習 I ○ | 1 | 法Ⅲ○ | 2 | | |
| 社会保障 I ○ | 2 | ソーシャルワーク演習Ⅱ○ | 1 | 刑事司法と福祉○ | 2 | | |
| 海外研修(保健福祉学) | 1 | 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ○ | 2 | 社会福祉の原理と政策Ⅱ○ | 2 | | |
| | | 社会保障Ⅱ○ | 2 | 保健医療と福祉○ | 2 | | |
| | | 障害者福祉○ | 2 | 権利擁護を支える法制度○ | 2 | | |
| | | 発達心理学 | 2 | 社会福祉調査の基礎○ | 2 | | |
| | | 児童・家庭福祉Ⅱ | 2 | 福祉サービスの組織と経営○ | 2 | | |
| | | 社会病理学 | 2 | ソーシャルワーク演習Ⅲ○ | 2 | | |
| | | 国際福祉論 | 2 | ソーシャルワーク実習○ | [6] | | |
| | | 福祉産業論 | 2 | 現代の精神保健の課題と支援Ⅰ | 2 | | |
| | | 生活とエルゴノミクス | 2 | 国際家族政策論 | 2 | | |
| | | | | 社会福祉調査演習 | 1 | | |
| | | | | チームガバナビリテイ演習☆ | 1 | | |
| | | | | 福祉のまちづくり政策論 | 2 | | |
| | | | | 臨床心理学 | 2 | | |
| | | | | フードビジネス学☆ | 2 | | |
| | | | | 地域保健福祉演習☆ | 1 | | |
| 小計 | 19 | 小計 | 30 | 小計 | 38 | 小計 | 11 |
| | | | | | | 小計 | 98 |
| <p>備考 <共通教育科目>28単位+<学部教育科目>98単位(+実習6単位)=126単位(+6単位) <合計132単位> <1年次>45単位、<2年次>32単位、<3年次>38単位(+6単位)、<4年次>11単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門共通科目、専門科目から96単位以上を修得すること。 ・◎は卒業必修科目を示す。 ・○マークがついている科目は社会福祉士受験資格科目である。(56単位+実習6単位、うち必修科目は10単位) ・斜体活字は、高齢者・障害者福祉のソーシャルワーカーをめざす場合に履修することが望ましい選択科目を示す。 ・[]は実習科目の単位を示し、履修小計に含んでいない。(履修上の注意参照) ・☆は副専攻「吉備の杜クリエイター課程」の科目である。 | | | | | | | |
| <p>履修上の注意</p> <p>卒業要件は、共通教育科目(28単位)と学部共通科目(96単位)、計124単位である。</p> <p>1年間の単位の上限は56単位である。</p> <p>実習及び集中講義は単位の上限の計算に含まない。</p> <p>4年次の研究ゼミナール履修は、研究ゼミナール4単位を含め30単位以内を単位修得することで卒業要件単位を満たすことを条件とする。</p> | | | | | | | |

介護福祉のリーダー及び企業人を目指す場合

介護福祉士は生活上に何らかの困難を抱え、その解決のために援助を求めている人々に対し、介護福祉の専門職として生活支援を行います。そのために、介護福祉の専門職としての倫理や価値、尊厳の保持、科学的思考に基づく解決方法に加えて、多職種と連携できるマネジメント力や介護福祉職のリーダーとして国内外で活躍できる力が必要となってきます。さらに超高齢社会では、介護事業だけでなく、介護ロボット、AI (Artificial Intelligence)、福祉用具などを含めた介護産業の市場規模が急速に拡大しており、一般企業においても介護福祉の価値・知識・技術を身に付けた人材の活躍が期待できます。そこで、介護福祉士の受験資格科目に加え、生活支援のための運動学や薬理学、管理経営、経営戦略論、会計学等を学び、幅広い知識を身につけて、介護福祉の専門家としての能力を高め、管理業務も意識した取り組みをすると良いでしょう。

| 共通教育科目 | | | | | | | |
|---|----|-------|----|-----|----|-----|----|
| 1年次 | 単位 | 2年次 | 単位 | 3年次 | 単位 | 4年次 | 単位 |
| 大学で学ぶ◎ | 1 | ELP5◎ | 1 | | | | |
| フレッシュマンセミナー◎ | 1 | ELP6◎ | 1 | | | | |
| 人文・社会科学要論◎ | 2 | | | | | | |
| 経営学 | 2 | | | | | | |
| 自然科学要論◎○ | 2 | | | | | | |
| 心理学◎○ | 2 | | | | | | |
| 社会連携要論◎ | 1 | | | | | | |
| 地域資源学◎ | 1 | | | | | | |
| ELP1◎ | 1 | | | | | | |
| ELP2◎ | 1 | | | | | | |
| ELP3◎ | 1 | | | | | | |
| ELP4◎ | 1 | | | | | | |
| 自然科学より | 2 | | | | | | |
| 健康科学より | 4 | | | | | | |
| 複合PBLより | 1 | | | | | | |
| 全カテゴリーより | 3 | | | | | | |
| 小計 | 26 | 小計 | 2 | 小計 | 0 | 小計 | 0 |
| 小計 | | | | | | | 28 |
| 備考 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通教育選択科目は10単位以上を修得すること（斜体活字は選択科目を示す）。 ・ ◎は必修科目を示す。 ・ ○がついている科目は介護福祉士受験資格科目である。 <p>【人文・社会科学】から4単位は、「経営学」は必ず履修し、「日本国憲法」等、経済や法律の科目を履修することが望ましい。</p> <p>【自然科学】から2単位は、「コンピュータ演習Ⅰ」、「コンピュータ演習Ⅱ」を履修することが望ましい。</p> | | | | | | | |

| 専門科目 | | | | | | | |
|---|----|---------------|-----|-----------------|-----|---------------|-----|
| 1年次 | 単位 | 2年次 | 単位 | 3年次 | 単位 | 4年次 | 単位 |
| 現代福祉学入門◎ | 2 | 基礎ゼミナール◎ | 1 | 専門ゼミナール◎ | 1 | 研究ゼミナール◎ | 4 |
| 社会学と社会システム◎ | 2 | サービスマーケティング論◎ | 2 | 権利擁護を支える法制度○ | 2 | リーダーシップ演習○ | 1 |
| 社会福祉の原理と政策I◎○ | 2 | 介護原論I◎○ | 2 | 福祉サービスの組織と経営○ | 2 | 介護管理○ | 2 |
| 医学概論◎○ | 2 | 身体機能と障害○ | 2 | 現代の精神保健の課題と支援I○ | 2 | 介護総合演習IV○ | 1 |
| ソーシャルワークの基盤と専門職I◎○ | 2 | 知的発達と障害○ | 2 | チームガバナビリティ演習☆ | 1 | 海外介護プロモーション◆ | 1 |
| 人間関係形成とコミュニケーション◎○ | 2 | 高齢者福祉○ | 2 | 認知症ケア論○ | 2 | 介護福祉実習IV○ | [2] |
| 地域福祉と包括的支援体制I○ | 2 | 福祉産業論◆ | 2 | 薬理学 | 2 | 未来型プロジェクト<食☆> | 4 |
| 社会保障I○ | 2 | 介護原論II○ | 2 | ヒューマンケア心理演習 | 1 | | |
| 海外研修(保健福祉学) | 1 | 多文化介護論○ | 2 | 医療的ケアI○ | 1 | | |
| | | 認知症論○ | 2 | 医療的ケアII○ | 1 | | |
| | | 人体の構造と機能○ | 2 | 医療的ケアIII○ | 1 | | |
| | | 老年医学○ | 2 | 医療的ケア演習○ | 1 | | |
| | | 老年科学○ | 2 | 介護予防演習○ | 1 | | |
| | | 運動・リハビリテーション学 | 2 | コミュニケーション技術II○ | 1 | | |
| | | コミュニケーション技術I○ | 1 | 家政学演習○ | 1 | | |
| | | 生活支援技術I○ | 1 | 住環境科学演習○ | 1 | | |
| | | 生活支援技術II○ | 1 | 介護過程III○ | 1 | | |
| | | 生活支援技術III○ | 1 | 介護総合演習II○ | 1 | | |
| | | 生活支援技術IV○ | 1 | 介護総合演習III○ | 1 | | |
| | | 生活支援技術V○ | 1 | 介護ロボット論◆ | 2 | | |
| | | 生活支援技術VI○ | 1 | 介護データマネジメント演習◆ | 1 | | |
| | | 福祉用具の活用技術と理論○ | 1 | 介護施設デザイン演習◆ | 1 | | |
| | | 介護過程総論○ | 1 | 経営戦略論◆ | 2 | | |
| | | 介護過程I○ | 1 | 施設会計演習◆ | 1 | | |
| | | 介護過程II○ | 2 | 介護福祉実習II○ | [4] | | |
| | | 介護総合演習導入○ | 1 | 介護福祉実習III○ | [2] | | |
| | | 介護総合演習I○ | 1 | フードビジネス学☆ | 2 | | |
| | | 介護福祉実習I○ | [2] | 地域保健福祉演習☆ | 1 | | |
| 小計 | 17 | 小計 | 41 | 小計 | 34 | 小計 | 13 |
| 小計 | | | | | | 105 | |
| 備考 <共通教育科目>28単位+<学部教育科目>105単位(+実習10単位)=133単位(+10単位)<合計143単位> <1年次>43単位、<2年次>43単位(+2単位)、<3年次>34単位(+6単位)、<4年次>13単位(+2単位) | | | | | | | |
| ・専門共通科目、専門科目から96単位以上を修得すること。 | | | | | | | |
| ・◎は卒業必修科目を示す。 | | | | | | | |
| ・○がついている科目は、介護福祉士受験資格科目(73単位+実習10単位)を示す(必修科目を除く) | | | | | | | |
| ・◆がついている科目は、マネジメント科目であり、全科目履修することが望ましい | | | | | | | |
| ・斜体活字は、選択ではあるが、履修することが望ましい | | | | | | | |
| ・実習科目の単位は、履修小計に含んでいない。(履修上の注意参照) | | | | | | | |
| ・☆は副専攻「吉備の杜クリエイター課程」の科目である。 | | | | | | | |
| 履修上の注意 | | | | | | | |
| 卒業要件は、共通教育科目(28単位)と学部共通教育科目(96単位)、計124単位である。 | | | | | | | |
| 1年間の単位の上限は56単位である。 | | | | | | | |
| 実習及び集中講義は単位の上限の計算に含まない。 | | | | | | | |
| 4年次の研究ゼミナール履修は、研究ゼミナール4単位を含め30単位以内を単位修得することで卒業要件単位を満たすことを条件とする。 | | | | | | | |

4 子ども学科

4. 1 本学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

子ども学科は、子どもの育ちと支援にかかわる理論を理解し、子どもの学びと育ちを支えることができる実践力を身に付けるとともに、子ども学を子どもの育成環境整備や保健・医療・福祉・教育分野との連携・協働へと応用し、岡山県から広く地域社会及び国際社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

卒業要件を満たすことにより、次の能力や態度・意欲を身に付けた者に学位を授与します。

A.【人間・社会・自然の理解】

人文科学、社会科学、自然科学、健康科学の知識を通して、人間・社会・自然を理解する力を身に付けている。

B.【倫理観】

幼児教育・保育に携わる専門職業人として必要な倫理観と豊かな人間性を身に付けている。

C-1.【専門的知識・技能1】

幼児教育学・保育学の専門職として、幅広く社会に貢献するために必要な基礎的知識と技能を身に付けている。

C-2【専門的知識・技能2】

幼児教育・保育について、科学的・論理的な視点による事象の理解、及び課題解決のための応用的な専門的知識と技能を身に付けている。

D.【論理的思考力・判断力・実践力】

子どもの豊かな育成環境を考え創造し表現する能力、及び幼児教育・保育の知識・技能を活用して実践的な援助や判断ができる能力を身に付けている。

E.【課題発見・解決力】【主体性】

幼児教育学・保育学、ならびにその関連分野における課題を発見し、主体的に解決する能力を身に付けている。

F.【コミュニケーション力】

地域の様々な人との交流から学び、課題に対して主体的に介入できるコミュニケーションの技術を身に付けている。

G.【多様な人々と協働する力】

保健、医療、福祉、教育関連分野で貢献するための課題解決に必要な自己管理能力及びマネジメント力や、他の役割を理解し、多様な人々と協調・協働して課題を解決する力を身に付けている。

4. 2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本方針】

子ども学科では、学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、年間で系統的に修得する幼児教育学・保育学に関する広範囲な分野の専門的知識を基礎として、地域と協働しながら子どもの育ちと学びを支える専門職としての活動ができるよう、体系的な教育課程を以下のように編成しています。

【共通教育科目】

共通教育科目では、幼稚園教諭・保育教諭・保育士に求められる知的実践的自律性を培うため、教養教育の導入、理論、実践を網羅する科目群を編成しています。

【修学基礎力】

高校の学びから大学での学びへの転換と準備のための初年次教育ならびに子ども学の専門性への学びを促す修学基礎科目群

【人間・社会・自然の理解】

人間や社会及び文化について考えるため、普遍的な理論や知識を修得し、人間理解を深めるとともに、社会の仕組みや歴史を修得し、そのあり方を問う論理的思考力や課題発見力を養う人文・社会科学科目群

自然現象やそれに関わる発見から普遍的な真理を探究することを通じ、論理的思考力や課題発見力などを身に付ける自然科学科目群

心身の健康に関する理論や知識を修得し、生活する上で適切な判断を導く思考力を養うとともに、生涯にわたり健全な社会生活を送るための技能を修得する健康科学科目群

以上の学問分野において、主体的に課題を設定し、調査、考察、発表、討論を経て最終的な解決に取り組む複合 PBL 科目群

【コミュニケーション力】

グローバル化する国内外の地域で活躍するために必要な語学力を育成する語学国際科目群、相互対話によって主体的に問題に取り組み自らの見解を他者に合理的に発信できる複合 PBL 科目群

【多様な人々と協働する力】

豊かな人間性を持って地域で活躍するために必要な課題発見力と多様な人々との協働性を養成する社会連携科目群

【学部教育科目】

学部教育科目では、幼児教育・保育の専門家として社会に貢献するために必要な理論と技術、実践力等を涵養する科目群を編成しています。

専門分野は、コア1(教育の基礎・領域と指導演法)、コア2(保育と福祉)、スキルアップ(基礎技能)、フィールドチャレンジ(実習・地域連携・国際)、研究の5つのカテゴリで構成されています。

【専門的知識・技能1】

幼児教育学・保育学の専門職として、幅広く社会に貢献するために必要な基礎的知識と技能を身に付ける「教育基礎論」「保育原理」などの科目

【専門的知識・技能2】

幼児教育・保育について、科学的・論理的な視点による事象の理解、及び課題解決のための応用的な専門知識と技能を身に付ける「幼児と健康」「保育内容総論」などの科目

【論理的思考力・判断力・実践力】

子どもの豊かな育成環境を考え、創造し表現するために、幼児教育学・保育学の専門職として論理的思考力、判断力、実践力を身に付ける「カリキュラム論」「子ども学概論」「保育内容総合演習」および「総合表現」などの科目

【倫理観】

幼児教育・保育に携わる高度専門職業人として必要な倫理観と豊かな人間性とともに、応用的学習経験と実践知を身に付ける「保育・教職実践演習」「教育実習」などの科目

【課題発見・解決力】【主体性】【多様な人々と協働する力】

系統的に修得した幼児教育学・保育学に関する広範囲な分野の専門的知識を基礎として、発見した課題を解決に導くための深い知識の獲得や、幼稚園教諭・保育教諭・保育士の倫理を遵守した計画を主体的に立案し遂行する能力、専門分野で貢献するための課題解決に必要な自己管理能力及びマネジメント力、ならびに自他の役割を理解し、多様な人々と協調・協働して課題を解決する力を養う「研究ゼミナール」などの科目

【教職教育科目】

【教育力】

幼稚園教諭・保育教諭として必要である専門的知識と技能を身に付けるための「コア1(教育の基礎・領域と指導演法)」「コア2(保育と福祉)」「スキルアップ(基礎技能)」「フィールドチャレンジ(実習・地域連携・国際)」

に関する科目群

【コミュニケーション力】

グローバル化する地域の様々な人との交流から学び、課題に対して主体的に介入できるコミュニケーションの技術を身に付ける「地域連携・国際」などの科目群

4. 3 教育課程の編成

子ども学科では以下に示す教育課程を編成している。

| 子ども学科カリキュラム | 概要 |
|-------------|--|
| 専 門 科 目 | |
| コア1 | 教育の基礎理論や保育の領域と指導法に関する専門的知識を修得する。 |
| コア2 | 保健福祉学の基礎理論や関連諸科学に関する専門的知識を修得する。 |
| スキルアップ | コア1、コア2で習得した専門的知識に基づき、教育と保育の基礎技能を修得する。 |
| フィールドチャレンジ | 教育実習・保育実習、地域連携授業等により教育・保育の総合力を修得する。 |
| 研究 | 1年次から4年次までの小グループによる一貫教育を通して、研究方法を修得すると共に、卒業論文の執筆に向けた指導を行う。 |

4. 4 卒業要件と履修方法

(1) 卒業要件

子ども学科令和5年度入学生の卒業要件単位数は下表に示している。

| 子ども学科 | 必修科目 | 選択科目 | 計 |
|--------|--------|-------|--------|
| 共通教育科目 | 23 単位 | 5 単位 | 28 単位 |
| 学部教育科目 | 81 単位 | 15 単位 | 96 単位 |
| 計 | 104 単位 | 20 単位 | 124 単位 |

(2) 履修上の留意点

共通教育科目(2-12頁参照)は、教育職・保育職に求められる豊かな知識・教養を涵養するものであるとともに、専門に進む基礎となるものである。このため、1年次、2年次で履修することが望ましい。

専門科目は、コアⅠ、コアⅡ、スキルアップ、フィールドチャレンジ、研究の五つの柱から構成され、子どもの育ちと学びに関わる理論や知識、方法・技術を修得するとともに実践的指導力・支援力を培うものである。履修にあたっては、学年に従って段階的に各領域科目の学習を積み重ねると共に、教育実習・保育実習における実践とその振り返りからさらに学びを深めていく。なお、専門科目の多くは卒業に不可欠な科目となっている。また、各年次に開講されている教育実習及び保育実習の履修に必要な科目は必ず履修し修得しなければならない。

また、1年次から4年次まで全学年で少人数制のゼミナール教育を実施しており、大学での学びへの導入から専門研究へと段階的に導いていく内容となっている。1年次の「入門ゼミナール」では、大学での学び方の基礎を身に付け、2年次の「基礎ゼミナール」では、子ども学という視点から研究方法の基礎を学ぶ。3年次の「専門ゼミナール」からは研究室に所属し、4年次の「研究ゼミナール」において卒業研究に取り組み卒業論文を作成する。

(3) 研究ゼミナールの履修要件

「研究ゼミナール」は、卒業研究に取り組むための4年次の必修科目である。したがって、4年次に研究ゼミナール4単位を含め30単位以内を単位修得することにより卒業要件単位(共通教育科目と学部教育科目を総合した124単位)を満たすものとする。

(4) 他学部・他学科開講科目の扱い

保健福祉学部の他学科並びに他学部が開講する学部教育科目を修得した場合、修得単位の4単位までを本学科の学部教育科目の選択科目として認定する。当該授業科目のカテゴリーは保健福祉学部長が決定する。修得単位は卒業要件単位数に含める。

(5) 子ども学科授業科目

| 授業科目の名称 | 授業の方法 | 担当教員 | 開講年次及び 必修選択の別 | | | | 時間 数 | 単位 | 卒業要 件単位 数 | |
|----------------|---------------|--------------|----------------------------|-------------|---|---|---------|----|-----------------|---|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | | |
| 教育の基礎 | 教育基礎論 | 講義 | ※都田 | ◎ | | | | 30 | 2 | |
| | 教師論 | 講義 | ※都田 | | ◎ | | | 30 | 2 | |
| | 教育と社会 | 講義 | 池田(隆) | | ◎ | | | 30 | 2 | |
| | 教育心理学 | 講義 | 樟本 | ◎ | | | | 30 | 2 | |
| | 特別支援教育の理解 | 講義 | 京林 | | ◎ | | | 30 | 2 | |
| | カリキュラム論 | 講義 | ※都田 | | | ◎ | | 30 | 2 | |
| | 幼児教育方法論 | 講義 | 高橋(多) | | | | ◎ | 30 | 2 | |
| | 幼児理解の理論と方法 | 演習 | 樟本・池田(隆)・京林 | | ◎ | | | 30 | 2 | |
| | 保育・教育相談 | 演習 | 中野・※荊木 | | ◎ | | | 15 | 1 | |
| | 保育・教職実践演習 | 演習 | 安久津・樟本・ 高橋(多)・ 池田(隆) | | | | ◎ | 30 | 2 | |
| | 領域と指導法 | 幼児と健康 | 演習 | 小畑 | | ◎ | | | 15 | 1 |
| | | 幼児と人間関係 | 演習 | 京林 | ◎ | | | | 15 | 1 |
| | | 幼児と環境 | 演習 | 高橋(多) | | | ◎ | | 15 | 1 |
| | | 幼児と言葉 | 演習 | 樟本 | ◎ | | | | 15 | 1 |
| | | 幼児と表現A | 演習 | 安久津 | | ◎ | | | 15 | 1 |
| | | 幼児と表現B | 演習 | 関崎 | | ◎ | | | 15 | 1 |
| | | 幼児と表現C | 演習 | 新山 | | ◎ | | | 15 | 1 |
| | | 保育内容総論 | 演習 | 高橋(多) | ◎ | | | | 30 | 2 |
| | | 保育内容(健康)の指導法 | 演習 | 小畑 | | ◎ | | | 15 | 1 |
| 保育内容(人間関係)の指導法 | | 演習 | 京林 | ◎ | | | | 15 | 1 | |
| 保育内容(環境)の指導法 | | 演習 | 高橋(多) | | | ◎ | | 15 | 1 | |
| 保育内容(言葉)の指導法 | | 演習 | 樟本 | | ◎ | | | 15 | 1 | |
| 保育内容(音楽表現)の指導法 | | 演習 | 安久津 | | ◎ | | | 15 | 1 | |
| 保育内容(造形表現)の指導法 | | 演習 | 関崎 | | ◎ | | | 15 | 1 | |
| 保育内容(身体表現)の指導法 | | 演習 | 新山 | | ◎ | | | 15 | 1 | |
| 保育内容総合演習 | | 演習 | ※入江 | | | ◎ | | 30 | 2 | |
| 保育と福祉 | | 保健福祉学 | 講義 | 中村・高橋(多)・京林 | ◎ | | | | 30 | 2 |
| | 保育原理 | 講義 | 池田(隆) | ◎ | | | | 30 | 2 | |
| | 社会福祉の原理と政策Ⅰ | 講義 | 村社 | ◎ | | | | 30 | 2 | |
| | 社会福祉の原理と政策Ⅱ | 講義 | 岩満 | | | ○ | | 30 | 2 | |
| | 児童・家庭福祉Ⅰ | 講義 | 周防 | | ◎ | | | 30 | 2 | |
| | 児童・家庭福祉Ⅱ | 講義 | 周防 | | ○ | | | 30 | 2 | |
| | 社会的養護Ⅰ | 講義 | 中野 | | ◎ | | | 30 | 2 | |
| | 社会的養護Ⅱ | 演習 | 中野 | | ◎ | | | 30 | 2 | |
| | 子ども家庭支援の心理学 | 講義 | 小畑 | | ◎ | | | 30 | 2 | |
| | 子どもの保健 | 講義 | 小畑 | | ◎ | | | 30 | 2 | |
| | 子どもの食と栄養Ⅰ | 演習 | 山本(登) | | | ○ | | 15 | 1 | |
| | 子どもの食と栄養Ⅱ | 演習 | 丸田 | | | ○ | | 15 | 1 | |
| | 乳幼児保育Ⅰ | 講義 | ※宮川 | | | ○ | | 30 | 2 | |
| | 乳幼児保育Ⅱ | 演習 | ※宮川 | | | ○ | | 30 | 2 | |
| | 子どもの健康と安全 | 演習 | 木村 | | | ○ | | 15 | 1 | |
| | 子ども家庭支援論 | 講義 | 中野 | | | ○ | | 30 | 2 | |
| | 子ども家庭支援演習 | 演習 | 中野 | | | | ○ | 15 | 1 | |
| | 子どもの障害と支援 | 演習 | 京林 | | | ○ | | 30 | 2 | |
| | 身体機能と障害 | 講義 | 中村・高戸 | | ○ | | | 30 | 2 | |
| | 知的発達と障害 | 講義 | 中村 | | ○ | | | 30 | 2 | |
| | 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ | 講義 | 口村 | | ○ | | | 30 | 2 | |
| | 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ | 講義 | 口村 | | ○ | | | 30 | 2 | |
| | 子ども学概論 | 講義 | 池田(隆) | | | ○ | | 30 | 2 | |
| 臨床心理学 | 講義 | 樂木 | | | ○ | | 30 | 2 | | |

96 単位

| 授業科目の名称 | | 授業の方法 | 担当教員 | 開講年次及び 必修選択の別 | | | | 時間 数 | 単位 | 卒業要 件単位 数 |
|---|---------------------------|----------------|---------|------------------|-------|---|----|---------|-----|-----------------|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | |
| スキル アップ | 基礎 技能 | 音楽Ⅰ | 演習 | 安久津 | ◎ | | | | 30 | 1 |
| | | 音楽Ⅱ | 演習 | 安久津・※非常勤 | ◎ | | | | 30 | 1 |
| | | 音楽Ⅲ | 演習 | 安久津・※非常勤 | | ○ | | | 30 | 1 |
| | | 音楽Ⅳ | 演習 | 安久津・※非常勤 | | | ○ | | 30 | 1 |
| | | 図画工作Ⅰ | 演習 | 関崎 | | | ◎ | | 30 | 1 |
| | | 図画工作Ⅱ | 演習 | 関崎 | | | ◎ | | 30 | 1 |
| | | 体育Ⅰ | 演習 | 新山 | | | ◎ | | 30 | 1 |
| | | 体育Ⅱ | 演習 | 新山 | | | ◎ | | 30 | 1 |
| | | 総合表現 | 演習 | 新山・安久津・児玉 | | | | ○ | 60 | 2 |
| 表現活動研究 | 演習 | 新山・安久津 | | | | ○ | 30 | 1 | | |
| フイ ールド チャ レンジ | 教育 実習 ・ 保育 実習 | 教育実習 | 実習 | 樟本・児玉 | | | ◎ | | 180 | 4 |
| | | 教育実習指導 | 演習 | 樟本・児玉 | | | ◎ | | 30 | 2 |
| | | 保育実習ⅠA | 実習 | 中野・京林・児玉 | | ◎ | | | 90 | 2 |
| | | 保育実習指導ⅠA | 演習 | 中野・京林 | | ◎ | | | 30 | 2 |
| | | 保育実習ⅠB | 実習 | 高橋(多)・小畑・児玉 | | | ○ | | 90 | 2 |
| | | 保育実習指導ⅠB | 演習 | 高橋(多)・小畑 | | | ○ | | 30 | 2 |
| | | 保育実習Ⅱ | 実習 | 池田(隆)・児玉 | | | | ○ | 90 | 2 |
| | | 保育実習指導Ⅱ | 演習 | 池田(隆)・※非常勤 | | | | ○ | 30 | 2 |
| | | 保育実習Ⅲ | 実習 | 中野・京林・児玉 | | | | ○ | 90 | 2 |
| | 保育実習指導Ⅲ | 演習 | 中野・京林 | | | | ○ | 30 | 2 | |
| | 地域 連携 ・ 国際 | 子ども臨床基礎演習Ⅰ | 演習 | 樟本 | ◎ | | | | 30 | 2 |
| | | 子ども臨床基礎演習Ⅱ | 演習 | 小畑 | ◎ | | | | 15 | 1 |
| | | 子育て支援プロジェクト研究A | 演習 | 学科教員 | ○ | | | | 15 | 1 |
| | | 子育て支援プロジェクト研究B | 演習 | 学科教員 | | ○ | | | 15 | 1 |
| | | 地域保健福祉演習 | 演習 | 久保田・坂野・住吉 他 | | | ○ | | 30 | 1 |
| | | フードビジネス学 | 講義 | 伊東 他 | | | ○ | | 30 | 2 |
| | | 未来型プロジェクト<食> | 演習 | 伊東 他 | | | | ○ | 120 | 4 |
| | | 海外研修(保健福祉学) | 演習 | 関根 他 | ○ | | | | 30 | 1 |
| | | 多文化保育 | 演習 | デスマレス | | ○ | | | 15 | 1 |
| 研究 | | 研究 | 入門ゼミナール | 演習 | 池田(隆) | ◎ | | | | 15 |
| | 基礎ゼミナール | | 演習 | 学科教員 | | ◎ | | | 30 | 2 |
| | 専門ゼミナール | | 演習 | 学科教員 | | | ◎ | | 30 | 2 |
| | 研究ゼミナール | | 演習 | 学科教員 | | | | ◎ | 60 | 4 |
| <p>「◎」は必修科目、「○」は選択科目、「※」は非常勤講師 資格取得に関しては「資格取得に必要な授業科目及び単位数」を参照のこと。 学部教育科目の卒業要件単位数 96単位 卒業要件単位数 124単位(共通教育科目の卒業要件28単位を含む)</p> | | | | | | | | | | |

(6) 科目ナンバリング

| | 授業科目の名称 | 科目ナンバリング | 分野1(略称と英語名称) | | 分野2(略称と英語名称) | |
|-------------------------|------------------|------------------|------------------|---|--|--|
| | | | 略称 | 英語名称 | 略称 | 英語名称 |
| 教育の基礎 | 教育基礎論 | EDU_EDU-A7-1R-L1 | EDU | Education | EDU | Principles of Education |
| | 教師論 | EDU_TEP-A7-2R-L1 | | | TEP | Teaching Profession |
| | 教育と社会 | EDU_EDS-A7-2R-L1 | | | EDS | Education and Society |
| | 教育心理学 | EDU_EDP-A7-1R-L1 | | | EDP | Educational Psychology |
| | 特別支援教育の理解 | EDU_SSE-A7-2R-L1 | | | SSE | Development and Special Support Education |
| | カリキュラム論 | EDU_CEC-A7-3R-L1 | | | CEC | Early Childhood Education Curriculum |
| | 幼児教育方法論 | EDU_TME-A7-4R-L1 | | | TME | Teaching Methodology for Early Childhood Education |
| | 幼児理解の理論と方法 | EDU_TMC-A7-2R-S1 | | | TMC | Theory and Method for Child understanding |
| | 保育・教育相談 | EDU_CCE-A7-2R-S1 | | | CCE | Counseling for Child Care and Education |
| | 保育・教職実践演習 | EDU_STP-A7-4R-S1 | | | STP | Seminar in the Teaching Profession |
| コアⅠ 領域と指導法 | 幼児と健康 | ECE_CHC-A7-2R-S1 | ECE | Early Childhood Education | CHC | Child and Health Care |
| | 幼児と人間関係 | ECE_CSR-A7-1R-S1 | | | CSR | Child and Social Relationship |
| | 幼児と環境 | ECE_CEN-A7-3R-S1 | | | CEN | Child and Environment |
| | 幼児と言葉 | ECE_CLA-A7-1R-S1 | | | CLA | Child and Language |
| | 幼児と表現A | ECE_CEA-A7-2R-S1 | | | CEA | Child and ExpressionsA |
| | 幼児と表現B | ECE_CEB-A7-2R-S1 | | | CEB | Child and ExpressionsB |
| | 幼児と表現C | ECE_CEC-A7-2R-S1 | | | CEC | Child and ExpressionsC |
| | 保育内容総論 | ECE_GNC-A7-1R-S1 | | | GNC | General Nursing for Children |
| | 保育内容(健康)の指導法 | ECE_1HC-A7-2R-S1 | | | HC | Child Care Contents (Health Care) |
| | 保育内容(人間関係)の指導法 | ECE_1SR-A7-1R-S1 | | | SR | Child Care Contents (Social Relationship) |
| | 保育内容(環境)の指導法 | ECE_1EN-A7-3R-S1 | | | EN | Child Care Contents (Environment) |
| | 保育内容(言葉)の指導法 | ECE_1LA-A7-2R-S1 | | | LA | Child Care Contents (Language) |
| | 保育内容(音楽表現)の指導法 | ECE_1ME-A7-2R-S1 | | | ME | Child Care Contents (Musical Expressions) |
| | 保育内容(造形表現)の指導法 | ECE_1AC-A7-2R-S1 | | | AC | Child Care Contents (Art and Craft) |
| | 保育内容(身体表現)の指導法 | ECE_2BE-A7-2R-S1 | | | BE | Child Care Contents (Body Expressions) |
| | 保育内容総合演習 | ECE_SCC-A7-3R-S1 | | | SCC | Seminar for Child Care Contents |
| | コアⅡ 保育と福祉 | 保健福祉学 | CCW_IHS-A7-1R-L0 | CCW | Child Care and Welfare | IHS |
| 保育原理 | | CCW_PC1-A7-1R-L1 | | | PC | Principles of Early Childhood Care and Education |
| 社会福祉の原理と政策Ⅰ | | CCW_PS1-A7-1R-L1 | | | PS1 | Principals of Social Welfare I |
| 社会福祉の原理と政策Ⅱ | | CCW_PS2-A7-3E-L1 | | | PS2 | Principals of Social Welfare II |
| 児童・家庭福祉Ⅰ | | CCW_CP1-A7-2R-L1 | | | CP1 | Child Welfare Policy and Practice I |
| 児童・家庭福祉Ⅱ | | CCW_CP2-A7-2E-L1 | | | CP2 | Child Welfare Policy and Practice II |
| 社会的養護Ⅰ | | CCW_CC1-A7-2R-L1 | | | CC1 | Alternative Child Care I |
| 社会的養護Ⅱ | | CCW_CC2-A7-2R-S1 | | | CC2 | Alternative Child Care II |
| 子ども家庭支援の心理学 | | CCW_PFC-A7-2R-L1 | | | PFC | Psychology for Family and Child |
| 子どもの保健 | | CCW_CHA-A7-2R-L1 | | | CHA | Child Healthcare |
| 子どもの食と栄養Ⅰ | | CCW_CN1-A7-3E-S1 | | | CN1 | Childhood Nutrition I |
| 子どもの食と栄養Ⅱ | | CCW_CN2-A7-3E-S1 | | | CN2 | Childhood Nutrition II |
| 乳幼児保育Ⅰ | | CCW_N11-A7-3E-L1 | | | N11 | Nursing for Infants I |
| 乳幼児保育Ⅱ | | CCW_N12-A7-3E-S1 | | | N12 | Nursing for Infants II |
| 子どもの健康と安全 | | CCW_CHS-A7-3E-S1 | | | CHS | Child Health and Safety |
| 子ども家庭支援論 | | CCW_FCS-A7-3E-L1 | | | FCS | Family and Child Support |
| 子ども家庭支援演習 | | CCW_FCE-A7-4E-S1 | | | FCE | Family and Child Support Exercise |
| 子どもの障害と支援 | | CCW_TCD-A7-3E-S1 | | | TCD | Teaching Methods for Children with Disabilities |
| 身体機能と障害 | | CCW_PFD-A7-2E-L1 | | | PFD | Physical Functions and Disabilities |
| 知的発達と障害 | | CCW_IDD-A7-2E-L1 | | | IDD | Intellectual Development and Developmental Disorders |
| 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ | | CCW_CB1-A7-2E-S1 | | | CB1 | Community based Welfare I |
| 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ | | CCW_CB2-A7-2E-S1 | | | CB2 | Community based Welfare II |
| 子ども学概論 | | CCW_PC2-A7-3E-L1 | | | PC2 | Principles of Early Childhood Care and Education |
| 臨床心理学 | CCW_CLI-A7-3E-L1 | | | CLI | Clinical Psychology | |
| スキルアップ 基礎技能 | 音楽Ⅰ | CES_MU1-A7-1R-S1 | CES | Connection to Elementary School Education | MU1 | Music I |
| | 音楽Ⅱ | CES_MU2-A7-1R-S1 | | | MU2 | Music II |
| | 音楽Ⅲ | CES_MU3-A7-2E-S1 | | | MU3 | Music III |
| | 音楽Ⅳ | CES_MU4-A7-3E-S1 | | | MU4 | Music IV |
| | 図画工作Ⅰ | CES_AC1-A7-3R-S1 | | | AC1 | Art and Craft I |
| | 図画工作Ⅱ | CES_AC2-A7-3R-S1 | | | AC2 | Art and Craft II |
| | 体育Ⅰ | CES_PE1-A7-3R-S1 | | | PE1 | Physical Education I (Dance) |
| | 体育Ⅱ | CES_PE2-A7-3R-S1 | | | PE2 | Physical Education II (Physical Play) |
| | 総合表現 | CES_SE1-A7-4E-S1 | | | SE | Synthetic Expressions |
| | 表現活動研究 | CES_REA-A7-4E-S1 | | | REA | Research of Expression Activity |
| 教育実習・保育実習 フィールドチャレンジ | 教育実習 | TCP_PRT-A7-3R-P1 | TCP | Teaching and Child Care Practice | PRT | Teaching Practice |
| | 教育実習指導 | TCP_LTP-A7-3R-S1 | | | LPT | Leading of Teaching Practice |
| | 保育実習ⅠA | TCP_CPA-A7-2R-P1 | | | CPA | Child Care Practice I A |
| | 保育実習指導ⅠA | TCP_LPA-A7-2R-S1 | | | LPA | Leading of Child Care Practice I A |
| | 保育実習ⅠB | TCP_CPB-A7-3E-P1 | | | CPB | Child Care Practice I B |
| | 保育実習指導ⅠB | TCP_LPB-A7-3E-S1 | | | LPB | Leading of Child Care Practice I B |
| | 保育実習Ⅱ | TCP_CP2-A7-4E-P1 | | | CP2 | Child Care Practice II |
| | 保育実習指導Ⅱ | TCP_LP2-A7-4E-S1 | | | LP2 | Leading of Child Care Practice II |
| | 保育実習Ⅲ | TCP_CP3-A7-4E-P1 | | | CP3 | Child Care Practice III |
| | 保育実習指導Ⅲ | TCP_LP3-A7-4E-S1 | | | LP3 | Leading of Child Care Practice III |
| | 子ども臨床基礎演習Ⅰ | CBL_SCC-A7-1R-S0 | CBL | Community Based Learning | SCC | Seminar of Clinical Child Care1 |
| | 子ども臨床基礎演習Ⅱ | CBL_SCC-A7-1R-S0 | | | SCC | Seminar of Clinical Child Care2 |
| | 子育て支援プロジェクト研究A | CBL_PCA-A7-1E-S0 | | | PCA | Project of Child Care A |
| 子育て支援プロジェクト研究B | CBL_PCB-A7-2E-S0 | | | PCB | Project of Child Care B | |
| 地域保健福祉演習 | CBL_RHW-A7-3E-S0 | | | RHW | Practice of Regional Health and Welfare | |
| フードビジネス学 | CBL_FOB-A7-3E-L0 | | | FOB | Food business | |
| 未来型プロジェクト<食> | CBL_PSF-A7-4E-S0 | | | PSF | Project for a Sustainable Future <Food> | |
| 海外研修(保健福祉学) | CBL_SAH-A7-1E-S0 | | | SAH | Study Abroad Program(Health and Welfare Science) | |
| 多文化保育 | CBL_MCC-A7-2E-S1 | | | MCC | Multicultural Child Care | |
| 研究 | 入門ゼミナール | IND_SEM-A7-1R-S0 | IND | Interdisciplinary | SEM | Seminar I |
| | 基礎ゼミナール | IND_SEM-A7-2R-S0 | | | SEM | Seminar II |
| | 専門ゼミナール | IND_SEM-A7-3R-S0 | | | SEM | Seminar III |
| | 研究ゼミナール | IND_THE-A7-4R-S0 | | | THE | Thesis |

(7) 資格取得

1) 幼稚園教諭一種免許状

①資格の概要

幼稚園教諭は、学校教育法に定められた幼稚園において「幼児の保育をつかさどる」（学校教育法第27条）教員である。幼稚園教諭は家庭・地域社会と連携しながら生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要な役割を担っている。

②免許状の種類 幼稚園教諭一種免許状

子ども学科では必要な単位数を修得することにより、卒業と同時に幼稚園教諭一種免許状を取得することができる。

③基礎資格

幼稚園教諭一種免許状は、基礎資格である学士の学位（卒業）を有し、かつ、教育職員免許法別表第一に示される大学において修得することを必要とする最低単位数を修得した者に授与される。

④単位修得及び履修の方法

教育職員免許法施行規則第二条に基づいて、本学での開講科目と必要最低単位数を以下の様に定めている（表1参照）。

| 免許状の種類 | 基礎資格 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | 教職教育科目 |
|------------|-------------|-------------------------|--------|
| 幼稚園教諭一種免許状 | 学士の学位を有すること | 8単位 | 51単位 |

1) 学士の学位を有すること

幼稚園教諭一種免許状を取得するには、基礎資格である学士の学位（卒業）を有することが必要となるため、子ども学科の卒業要件を満たさなければならない。

2) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目をすべて修得しなければならない。

3) 教育職教育科目の必要最低単位数は51単位であり、以下の内訳に従って修得しなければならない。

- ・領域及び保育内容の指導法に関する科目 18単位
- ・教育に関する基礎的理解に関する科目 12単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 5単位
- ・教育実践に関する科目 8単位
- ・大学が独自に設定する科目 8単位

⑤教育実習について

教育実習は、教員免許状の取得をめざす学生たちにとっては欠かすことのできないものである。実際の教育現場において、大学で学んだ理論や知識を生かすとともに、教育の現場に触れながら教育の実践的な知識、技能等の基礎を修得するものである。実習についての詳細は教育実習の手引きに記載されている。

1) 教育実習の期間と単位数

| 種類 | 期間 | 科目名 | 単位 | 年次 |
|---------|-----|--------|----|----|
| 幼稚園教育実習 | 4週間 | 教育実習 | 4 | 3 |
| | | 教育実習指導 | 2 | 3 |

2) 教育実習履修資格

教育実習を履修するには、原則として以下の履修要件を満たすことが必要である。

- ア) i 領域及び保育内容の指導法に関する科目 13 科目 14 単位以上修得していること。
 - ii 教育に関する基礎的理解に関する科目 5 科目 10 単位修得していること。
 - iii 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目を 2 科目 3 単位修得していること
 - iv 大学が独自に設定する科目 2 科目 2 単位以上を修得していること。
 - v 文部科学省令に定める科目（教育職員免許法施行規則第 66 条の 6）を全て修得していること。
- イ) 教育実習の事前指導を受けていること。
 - ウ) 伝染性疾患を有しない者。
 - エ) その他、実習に支障のないものであること。

⑥ 保育・教職実践演習について

「保育・教職実践演習」は教職課程の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として形成されたかについて確認する科目である。したがって、4 年次後期に開講され、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置づけられている。本学における「保育・教職実践演習」を履修するためには以下の条件を満たしていることが必要である。

- ア) 各年次の学科オリエンテーションに必ず参加していること。
- イ) 1 年次から履修している教職課程科目について、履修カルテ I 及び II を作成していること。
- ウ) 履修履歴に関して担当教員との面談を行っていること。
- エ) 原則として、教育実習を終えていること。

2) 保育士資格

① 資格の概要

保育士は、児童福祉法に「専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者」（児童福祉法第 18 条の 4）と定められている。保育士は保育所をはじめとした児童福祉施設に必置の専門職であり、子ども及び子育て支援の中核を担う専門職として重要な役割を担っている。

② 資格の種類 保育士（国家資格）

子ども学科では必要な単位数を修得することにより、卒業と同時に保育士資格を取得することができる。

③ 単位修得及び履修の方法

厚生労働省告示により保育士を養成する学校の修業教科目と単位数が定められている。それに基づいて本学での開講科目と単位数を定めている（表 2 参照）。

- 1) 教養科目 12 単位
すべての科目が必修となる。
- 2) 必修科目 62 単位
すべての科目が必修となる。
- 3) 選択必修科目 10 単位以上

選択必修科目においては、保育実習Ⅱ及び保育実習指導Ⅱ、または保育実習Ⅲ及び保育実習指導Ⅲのいずれかを必ず履修し修得すること。

④保育実習について

保育実習は、保育士養成校において修得した知識や技術を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うことを目的としている。実習についての詳細は保育実習（保育所・施設）の手引きに記載されている。

1) 保育実習の期間と単位数

| 種 類 | | 期 間 | 科 目 名 | 単 位 | 年 次 |
|------------------|------------------------|---------------|----------|-----|-----|
| 必 修 | 児童福祉施設 (保育所以外) での実習 | 10 日間 (宿泊) | 保育実習ⅠA | 2 | 2 |
| | | | 保育実習指導ⅠA | 1 | 2 |
| | 保育所での実習 | 10 日間 | 保育実習ⅠB | 2 | 3 |
| | | | 保育実習指導ⅠB | 1 | 3 |
| 選 択 必 修 | 保育所での実習 | 10 日間 | 保育実習Ⅱ | 2 | 4 |
| | | | 保育実習指導Ⅱ | 2 | 4 |
| | 児童福祉施設 (保育所以外) での実習 | 10 日間 | 保育実習Ⅲ | 2 | 4 |
| | | | 保育実習指導Ⅲ | 2 | 4 |

2) 保育実習履修資格

保育実習(「保育実習ⅠA」、「保育実習ⅠB」、「保育実習Ⅱ」または「保育実習Ⅲ」)を履修するには、以下の履修要件を満たすことが必要である。

- ア) 各実習に該当する保育実習指導を合わせて履修すること。
- イ) 原則として、保育士資格に必要な授業科目(表2)の内、各実習までに開講されている必修科目を修得していること。
- ウ) 健康診断、麻疹抗体検査、腸内細菌検査等を事前に受診していること。
- エ) その他、実習に支障のないものであること。

⑤保育士登録について

「保育士」として業務を行う場合、都道府県知事に対し、業務に就く前に保育士登録手続きを行う必要がある(児童福祉法第18条の6、第18条の18)。保育士登録手続きは4年次後期に大学を通して行う。

3) 社会福祉主事

社会福祉主事は、「社会福祉法」に規定された資格で、基本的には、都道府県、市町村の行政職や福祉職の公務員試験に合格し、福祉事務所などのケースワーカーに採用される場合に活きる任用資格である。また、一定の社会福祉施設的生活支援員等の資格にも準用される。この資格を得るためには、「社会福祉主事に関する指定科目」(表5「社会福祉主事に関する指定科目」)のうち、いずれか3科目を取得する必要がある。

表1 幼稚園教諭一種免許状を取得するために必要な授業科目

| 教育職員免許法施行規則に定める科目 | | | 授業科目の名称 | 授業の方法 | 開講年次及び必修選択の別 | | | | 開講時間数 | 開講単位数 | 必修選択の別 | 備考 |
|--------------------|----------------|--|----------------|-------|--------------|----|---|-----|-------|-------|---------------------------|--------------------------|
| | | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | | |
| 領域及び保育内容の指導法に関する科目 | 領域に関する専門的事項 | 健康 | 幼児と健康 | 演習 | | ◎ | | | 15 | 1 | 必修 | 左記の授業科目18単位を必ず履修し、修得すること |
| | | 人間関係 | 幼児と人間関係 | 演習 | ◎ | | | | 15 | 1 | 必修 | |
| | | 環境 | 幼児と環境 | 演習 | | | ◎ | | 15 | 1 | 必修 | |
| | | 言葉 | 幼児と言葉 | 演習 | ◎ | | | | 15 | 1 | 必修 | |
| | | 表現 | 幼児と表現A | 演習 | | ◎ | | | 15 | 1 | 必修 | |
| | | | 幼児と表現B | 演習 | | ◎ | | | 15 | 1 | 必修 | |
| | 保育内容の指導法 | 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む) | 幼児と表現C | 演習 | | ◎ | | | 15 | 1 | 必修 | |
| | | | 保育内容総論 | 演習 | ◎ | | | | 30 | 2 | 必修 | |
| | | | 保育内容(健康)の指導法 | 演習 | | ◎ | | | 15 | 1 | 必修 | |
| | | | 保育内容(人間関係)の指導法 | 演習 | ◎ | | | | 15 | 1 | 必修 | |
| | | | 保育内容(環境)の指導法 | 演習 | | | ◎ | | 15 | 1 | 必修 | |
| | | | 保育内容(言葉)の指導法 | 演習 | | ◎ | | | 15 | 1 | 必修 | |
| | | | 保育内容(造形表現)の指導法 | 演習 | | ◎ | | | 15 | 1 | 必修 | |
| | | | 保育内容(音楽表現)の指導法 | 演習 | | ◎ | | | 15 | 1 | 必修 | |
| 保育内容(身体表現)の指導法 | 演習 | | ◎ | | | 15 | 1 | 必修 | | | | |
| | | 保育内容総合演習 | 演習 | | | ◎ | | 30 | 2 | 必修 | | |
| 教職教育科目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 | 教育基礎論 | 講義 | ◎ | | | | 30 | 2 | 必修 | 左記の授業科目12単位を必ず履修し、修得すること |
| | | 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む) | 教師論 | 講義 | | ◎ | | | 30 | 2 | 必修 | |
| | | 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む) | 教育と社会 | 講義 | | ◎ | | | 30 | 2 | 必修 | |
| | | 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 | 教育心理学 | 講義 | ◎ | | | | 30 | 2 | 必修 | |
| | | 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 | 特別支援教育の理解 | 講義 | | ◎ | | | 30 | 2 | 必修 | |
| | | 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む) | カリキュラム論 | 講義 | | | ◎ | | 30 | 2 | 必修 | |
| 教職教育科目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む) | 幼児教育方法論 | 講義 | | | ◎ | 30 | 2 | 必修 | 左記の授業科目5単位を必ず履修し、修得すること | |
| | | 幼児理解の理論及び方法 | 幼児理解の理論と方法 | 演習 | | ◎ | | 30 | 2 | 必修 | | |
| | | 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 | 保育・教育相談 | 演習 | | ◎ | | 15 | 1 | 必修 | | |
| 教職教育科目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | 教育実習 | 教育実習 | 実習 | | | ◎ | 180 | 4 | 必修 | 左記の授業科目8単位を必ず履修し、修得すること | |
| | | 教育実習指導 | 教育実習指導 | 演習 | | | ◎ | 30 | 2 | 必修 | | |
| | | 教職実践演習 | 保育・教職実践演習 | 演習 | | | ◎ | 30 | 2 | 必修 | | |
| 大学が独自に設定する科目 | 他欄の余剰単位含む | 音楽Ⅰ | 音楽Ⅰ | 演習 | ◎ | | | 30 | 1 | 必修 | 左記の授業科目から8単位以上を履修し、修得すること | |
| | | 音楽Ⅱ | 音楽Ⅱ | 演習 | ◎ | | | 30 | 1 | 必修 | | |
| | | 音楽Ⅲ | 音楽Ⅲ | 演習 | | ○ | | 30 | 1 | 選択 | | |
| | | 音楽Ⅳ | 音楽Ⅳ | 演習 | | | ○ | 30 | 1 | 選択 | | |
| | | 図画工作Ⅰ | 図画工作Ⅰ | 演習 | | | ◎ | 30 | 1 | 必修 | | |
| | | 図画工作Ⅱ | 図画工作Ⅱ | 演習 | | | ◎ | 30 | 1 | 必修 | | |
| | | 体育Ⅰ | 体育Ⅰ | 演習 | | | ◎ | 30 | 1 | 必修 | | |
| | | 体育Ⅱ | 体育Ⅱ | 演習 | | | ◎ | 30 | 1 | 必修 | | |
| | | 総合表現 | 総合表現 | 演習 | | | | ○ | 60 | 2 | | 選択 |
| | | 表現活動研究 | 表現活動研究 | 演習 | | | | ○ | 30 | 1 | | 選択 |
| | | 乳幼児保育Ⅰ | 乳幼児保育Ⅰ | 講義 | | | ○ | 30 | 2 | 選択 | | |
| | | 身体機能と障害 | 身体機能と障害 | 演習 | | ○ | | 30 | 2 | 選択 | | |
| | | 知的発達と障害 | 知的発達と障害 | 講義 | | ○ | | 30 | 2 | 選択 | | |

履修方法

幼稚園教諭一種免許状取得のために必要な修得単位数は下記の59単位とする。

①教職教育科目 計51単位

②別表1の共通教育科目から計8単位

日本国憲法2単位

健康スポーツA、健康スポーツB 計2単位

English Language Program 1、English Language Program 2 計2単位

コンピュータ演習Ⅰ、コンピュータ演習Ⅱ 計2単位

表2 保育士の資格を取得するために必要な授業科目及び単位数

| 保育士を養成する学校の修業教科目 (平成13年厚生労働省告示第198号) | | 子ども学科における開設科目等 | | | | 備考 | |
|---|----------------|----------------------------|----------------|-------|---|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 教育内容 | 授業科目等の名称 | 授業の方法 | 配当単位数 | 開講時間数 | | | |
| 教養科目 | 外国語 | English Language Program 1 | 演習 | 1 | 30 | 左記の授業科目を必ず履修し、 修得すること。 12単位 | |
| | | English Language Program 2 | 演習 | 1 | 30 | | |
| | 体育 | スポーツ科学 | 講義 | 1 | 15 | | |
| | | 健康スポーツA | 実技 | 1 | 30 | | |
| | その他 | 心理学 | 講義 | 2 | 30 | | |
| | | 日本国憲法 | 講義 | 2 | 30 | | |
| | | 人文・社会科学要論 | 講義 | 2 | 30 | | |
| | 自然科学要論 | 講義 | 2 | 30 | | | |
| 必修科目 | 保育の本質・目的に関する科目 | 保育原理 | 保育原理 | 講義 | 2 | 30 | 左記の授業科目を必ず履修し、 修得すること。 64単位 |
| | | 教育原理 | 教育基礎論 | 講義 | 2 | 30 | |
| | | 子ども家庭福祉 | 児童・家庭福祉 I | 講義 | 2 | 30 | |
| | | 社会福祉 | 社会福祉の原理と政策 I | 講義 | 2 | 30 | |
| | | 子ども家庭支援論 | 子ども家庭支援論 | 講義 | 2 | 30 | |
| | | 社会的養護 I | 社会的養護 I | 講義 | 2 | 30 | |
| | 保育者論 | 教師論 | 講義 | 2 | 30 | | |
| | 保育の対象の理解に関する科目 | 保育の心理学 | 教育心理学 | 講義 | 2 | 30 | |
| | | 子ども家庭支援の心理学 | 子ども家庭支援の心理学 | 講義 | 2 | 30 | |
| | | 子どもの理解と援助 | 幼児理解の理論と方法 | 演習 | 2 | 30 | |
| | | 子どもの保健 | 子どもの保健 | 講義 | 2 | 30 | |
| | | 子どもの食と栄養 | 子どもの食と栄養 I | 演習 | 1 | 15 | |
| | | | 子どもの食と栄養 II | 演習 | 1 | 15 | |
| | 保育の内容・方法に関する科目 | 保育の計画と評価 | カリキュラム論 | 講義 | 2 | 30 | |
| | | 保育内容総論 | 保育内容総論 | 演習 | 2 | 30 | |
| | | 保育内容演習 | 幼児と健康 | 演習 | 1 | 15 | |
| | | | 幼児と人間関係 | 演習 | 1 | 15 | |
| | | | 幼児と環境 | 演習 | 1 | 15 | |
| | | | 幼児と言葉 | 演習 | 1 | 15 | |
| | | | 幼児と表現A | 演習 | 1 | 15 | |
| | | | 幼児と表現B | 演習 | 1 | 15 | |
| | | 保育内容の理解と方法 | 幼児と表現C | 演習 | 1 | 15 | |
| | | | 保育内容(健康)の指導法 | 演習 | 1 | 15 | |
| | | | 保育内容(人間関係)の指導法 | 演習 | 1 | 15 | |
| | | | 保育内容(環境)の指導法 | 演習 | 1 | 15 | |
| | | | 保育内容(言葉)の指導法 | 演習 | 1 | 15 | |
| | | | 保育内容(音楽表現)の指導法 | 演習 | 1 | 15 | |
| | | | 保育内容(造形表現)の指導法 | 演習 | 1 | 15 | |
| | | 保育内容(身体表現)の指導法 | 演習 | 1 | 15 | | |
| | | 保育内容総合演習 | 演習 | 2 | 30 | | |
| | | 乳児保育 I | 乳幼児保育 I | 講義 | 2 | 30 | |
| | 乳児保育 II | 乳幼児保育 II | 演習 | 2 | 30 | | |
| | 子どもの健康と安全 | 子どもの健康と安全 | 演習 | 1 | 15 | | |
| 障害児保育 | 子どもの障害と支援 | 演習 | 2 | 30 | | | |
| 社会的養護 II | 社会的養護 II | 演習 | 2 | 30 | | | |
| 子育て支援 | 子ども家庭支援演習 | 演習 | 1 | 15 | | | |
| 保育実習 | 保育実習 I | 保育実習 I A | 実習 | 2 | 90 | | |
| | | 保育実習 I B | 実習 | 2 | 90 | | |
| | 保育実習指導 I | 保育実習指導 I A | 演習 | 2 | 30 | | |
| | | 保育実習指導 I B | 演習 | 2 | 30 | | |
| 総合演習 | 保育実践演習 | 演習 | 2 | 30 | | | |
| 保育に関する科目 (上記の系列より科目設定) ※18単位以上の開講必要 | 保育の本質・目的に関する科目 | 社会福祉の原理と政策 II | 講義 | 2 | 30 | 左記の授業科目から2単位以上履修し、 修得すること。 | |
| | | 児童・家庭福祉 II | 講義 | 2 | 30 | | |
| | | 地域福祉と包括的支援体制 I | 講義 | 2 | 30 | | |
| | | 地域福祉と包括的支援体制 II | 講義 | 2 | 30 | | |
| | | 子ども学概論 | 講義 | 2 | 30 | | |
| | 保育の対象の理解に関する科目 | 身体機能と障害 | 講義 | 2 | 30 | 左記の授業科目から2単位以上履修し、 修得すること。 | |
| | | 知的発達と障害 | 講義 | 2 | 30 | | |
| | | 臨床心理学 | 講義 | 2 | 30 | | |
| | 保育の内容・方法に関する科目 | 総合表現 | 演習 | 2 | 60 | 左記の授業科目から2単位以上履修し、 修得すること。 | |
| | | 表現活動研究 | 演習 | 1 | 30 | | |
| 多文化保育 | | 演習 | 1 | 15 | | | |
| 保育実習 II 又は III | | 保育実習 II | 実習 | 2 | 90 | | |
| 保育実習指導 II 又は III | 保育実習 III | 実習 | 2 | 90 | 保育実習 II 及び保育実習指導 II、または、 保育実習 III 及び保育実習指導 III のいずれか を履修し、修得すること。 | | |
| | 保育実習指導 II | 演習 | 2 | 30 | | | |
| | 保育実習指導 III | 演習 | 2 | 30 | | | |

(注) 1. 他大学における授業科目の履修等については、学則第36条第3項、第37条第2項及び第38条第2項中の「60単位」は、「30単位」と読み替えてこの表を適用する。 2. 子ども学科以外の学生は、原則として子ども学科の専門科目の演習・実習の授業科目を履修できない。

(8) 子ども学科 カリキュラムマップ(2023年度)

| 授業科目の名称 | | 学位授与の方針に対する関与の程度 | | | | | | | |
|-------------------------|----------------|------------------|---|-----|-----|---|---|---|---|
| | | A | B | C-1 | C-2 | D | E | F | G |
| 教育の基礎 | 教育基礎論 | ◎ | | ◎ | | | | | |
| | 教師論 | | ◎ | ◎ | | | | | |
| | 教育と社会 | ◎ | | ◎ | | | | | |
| | 教育心理学 | ◎ | | ◎ | | | | | |
| | 特別支援教育の理解 | | | ◎ | | | | | |
| | カリキュラム論 | | | ◎ | | ◎ | | | |
| | 幼児教育方法論 | | | ◎ | | ◎ | | | |
| | 幼児理解の理論と方法 | | | ◎ | | | | | |
| | 保育・教育相談 | | ◎ | ◎ | | | | | |
| | 保育・教職実践演習 | | ◎ | ◎ | | | | | |
| コアⅠ 領域と指導法 | 幼児と健康 | | | | ◎ | | | | |
| | 幼児と人間関係 | | | | ◎ | | | | |
| | 幼児と環境 | | | | ◎ | | | | |
| | 幼児と言葉 | | | | ◎ | | | | |
| | 幼児と表現A | | | | ◎ | | | | |
| | 幼児と表現B | | | | ◎ | | | | |
| | 幼児と表現C | | | | ◎ | | | | |
| | 保育内容総論 | | | | ◎ | | | | |
| | 保育内容(健康)の指導法 | | | | ◎ | ◎ | | | |
| | 保育内容(人間関係)の指導法 | | | | ◎ | ◎ | | | |
| | 保育内容(環境)の指導法 | | | | ◎ | ◎ | | | |
| | 保育内容(言葉)の指導法 | | | | ◎ | ◎ | | | |
| | 保育内容(音楽表現)の指導法 | | | | ◎ | ◎ | | | |
| | 保育内容(造形表現)の指導法 | | | | ◎ | ◎ | | | |
| 保育内容(身体表現)の指導法 | | | | ◎ | ◎ | | | | |
| 保育内容総合演習 | | | | ◎ | ◎ | | | | |
| コアⅡ 保育と福祉 | 保健福祉学 | | ◎ | | | | | | |
| | 保育原理 | | | ◎ | | | | | |
| | 社会福祉の原理と政策Ⅰ | | ◎ | | ◎ | | | | |
| | 社会福祉の原理と政策Ⅱ | | | ◎ | | | | | |
| | 児童・家庭福祉Ⅰ | ◎ | | | | | | | |
| | 児童・家庭福祉Ⅱ | | | ◎ | | | | | |
| | 社会的養護Ⅰ | | | ◎ | | | | | |
| | 社会的養護Ⅱ | | | ◎ | | | | | |
| | 子ども家庭支援の心理学 | | | ◎ | | | | | |
| | 子どもの保健 | | | ◎ | | | | | |
| | 子どもの食と栄養Ⅰ | | | ◎ | | | | | |
| | 子どもの食と栄養Ⅱ | | | | ◎ | | | | |
| | 乳幼児保育Ⅰ | | | ◎ | | | | | |
| | 乳幼児保育Ⅱ | | | | ◎ | | | | |
| | 子どもの健康と安全 | | | ◎ | | | | | |
| | 子ども家庭支援論 | | | ◎ | | | | | |
| | 子ども家庭支援演習 | | | | ◎ | | | | |
| | 子どもの障害と支援 | | | | ◎ | | | | |
| | 身体機能と障害 | | | | ◎ | | | | |
| | 知的発達と障害 | | | | ◎ | | | | |
| 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ | | | | ◎ | | | | | |
| 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ | | | | ◎ | | | | | |
| 子ども学概論 | | | | ◎ | | | | | |
| 臨床心理学 | | | | | ◎ | | | | |
| スキルアップ 基礎技能 | 音楽Ⅰ | | | | ◎ | | | | |
| | 音楽Ⅱ | | | | ◎ | | | | |
| | 音楽Ⅲ | | | | ◎ | | | | |
| | 音楽Ⅳ | | | | ◎ | | | | |
| | 図画工作Ⅰ | | | | ◎ | | | | |
| | 図画工作Ⅱ | | | | ◎ | | | | |
| | 体育Ⅰ | | | | ◎ | | | | |
| 体育Ⅱ | | | | ◎ | | | | | |
| 総合表現 | | | | ◎ | | | ◎ | | |
| 表現活動研究 | | | | ◎ | | | | ◎ | |
| フィールドチャレンジ 教育実習・保育実習 | 教育実習 | | ◎ | | ◎ | | | ◎ | |
| | 教育実習指導 | | | | ◎ | | | | |
| | 保育実習ⅠA | | | | ◎ | | | ◎ | |
| | 保育実習指導ⅠA | | | | ◎ | | | | |
| | 保育実習ⅠB | | | | ◎ | | | ◎ | |
| | 保育実習指導ⅠB | | | | ◎ | | | | |
| | 保育実習Ⅱ | | | | | ◎ | | ◎ | |
| | 保育実習指導Ⅱ | | | | | ◎ | | | |
| | 保育実習Ⅲ | | | | | ◎ | | ◎ | |
| | 保育実習指導Ⅲ | | | | | ◎ | | | |
| | 子ども臨床基礎演習Ⅰ | | ◎ | ◎ | | | | ◎ | |
| | 子ども臨床基礎演習Ⅱ | | ◎ | ◎ | | | | ◎ | |
| | 子育て支援プロジェクト研究A | | | | | | | ◎ | ◎ |
| 子育て支援プロジェクト研究B | | | | | | | ◎ | ◎ | |
| 地域保健福祉演習 | | | | | | | ◎ | ◎ | |
| フードビジネス学 | | | ◎ | ◎ | | | | | |
| 未来型プロジェクト<食> | | ◎ | | | | | | ◎ | |
| 海外研修(保健福祉学) | | | | | | | ◎ | | |
| 多文化保育 | | | | | | | ◎ | | |
| 研究 研究 | 入門ゼミナール | | ◎ | | | | | ◎ | |
| | 基礎ゼミナール | | | | | ◎ | | ◎ | |
| | 専門ゼミナール | | | | | | ◎ | ◎ | |
| | 研究ゼミナール | | | | | | ◎ | ◎ | |

| 子ども学科 学位授与の方針 |
|---|
| 子ども学科は、子どもの育ちと支援にかかわる理論を理解し、子どもの学びと育ちを支えることができる実践力を身に付けるとともに、子ども学を子どもの育成環境整備や保健・医療・福祉・教育分野との連携・協働へと応用し、岡山県から広く地域社会及び国際社会に貢献できる人材の育成を目指しています。卒業要件を満たすことにより、次の能力や態度・意欲を身に付けた者に学位を授与します。 |
| A【人間・社会・自然の理解】 人文科学、社会科学、自然科学、健康科学の知識を通して、人間・社会・自然を理解する力を身に付けている。 |
| B【倫理観】 幼児教育・保育に携わる専門職業人として必要な倫理観と豊かな人間性を身に付けている。 |
| C-1【専門的知識・技能1】 幼児教育学・保育学の専門職として、幅広く社会に貢献するために必要な基礎的知識と技能を身に付けている。 |
| C-2【専門的知識・技能2】 幼児教育・保育について、科学的・論理的な視点による事象の理解、及び課題解決のための応用的な専門的知識と技能を身に付けている。 |
| D【論理的思考力・判断力・実践力】 子どもの豊かな育成環境を考え創造し表現する能力、及び幼児教育・保育の知識・技能を活用して実践的な援助や判断ができる能力を身に付けている。 |
| E【課題発見・解決力】【主体性】 幼児教育学・保育学、並びにその関連分野における課題を発見し解決できる能力を身に付けている。 |
| F【コミュニケーション力】 地域の様々な人との交流から学び、課題に対して主体的に介入できるコミュニケーションの技術を身に付けている。 |
| G【多様な人々と協働する力】 保健、医療、福祉、教育関連分野で貢献するための課題解決に必要な自己管理能力及びマネジメント力や、自他の役割を理解し、多様な人々と協調・協働して課題を解決する力を身に付けている。 |

| DP (学位授与 方針) | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | |
|--------------------|----------------------|--------------------------------|--------------------|---|---------------------------------|--------------|---------------|-----------|
| | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 修学基礎 | 大学で学ぶ フレッシュマンセミナー | 社会を生きる力を学ぶ | | | | | | |
| A | 人文社会科学要論 | 日本国憲法 | | | | | | |
| | 心理学 | コンピュータ演習Ⅱ | | | | | | |
| | 自然科学要論 | 健康スポーツB | | | | | | |
| | コンピュータ演習Ⅰ | | | | | | | |
| | 健康スポーツA | | | | | | | |
| | スポーツ科学 | | | | | | | |
| 人文・社会科学科目群 | | | | | | | | |
| 自然科学科目群 | | | | | | | | |
| 健康科学科目群 | | | | | | | | |
| 複合PBL科目群 | | | | | | | | |
| | 教育基礎論 | 教育心理学 | 児童・家庭福祉Ⅰ | 教育と社会 | | | | |
| B | 保健福祉学 | 入門ゼミナール | 保育・教育相談 | 教師論 | 教育実習 | | | 保育・教職実践演習 |
| | 子ども臨床基礎演習Ⅰ | *社会福祉の原理と政策Ⅰ 子ども臨床基礎演習Ⅱ | | | | | *未来型プロジェクト<食> | |
| C-1 | 教育基礎論 | 教育心理学 | 特別支援教育の理解 | 教師論 | カリキュラム論 | 子どもの健康と安全 | 幼児教育方法論 | 保育・教職実践演習 |
| | 子ども臨床基礎演習Ⅰ | 保育原理 | 保育・教育相談 | 教育と社会 | 子どもの食と栄養Ⅰ | 子ども家庭支援論 | | |
| | | 子ども臨床基礎演習Ⅱ | 社会的養護Ⅰ | 幼児理解の理論と方法 | 乳幼児保育Ⅰ | | | |
| | | | 子どもの保健 | 社会的養護Ⅱ | 子ども学概論 | | | |
| | | | | 子ども家庭支援の心理学 | *社会福祉の原理と政策Ⅱ | | | |
| | | | | *児童・家庭福祉Ⅱ *地域福祉と包括的支援体制Ⅰ *地域福祉と包括的支援体制Ⅱ | *フードビジネス学 | | | |
| C-2 | 音楽Ⅰ | 保育内容総論 | 幼児と表現A | 幼児と表現B | 保育内容総合演習 | 幼児と環境 | 子ども家庭支援演習 | 表現活動研究 |
| | | 幼児と人間関係 | 保育内容(音楽表現)の指導法 | 保育内容(造形表現)の指導法 | 図画工作Ⅰ | 保育内容(環境)の指導法 | 総合表現 | |
| | | 保育内容(人間関係)の指導法 | 幼児と表現C | 幼児と健康 | 体育Ⅰ | 図画工作Ⅱ | | |
| | | 幼児と言葉 | 保育内容(身体表現)の指導法 | 保育内容(健康)の指導法 | 音楽Ⅳ | 体育Ⅱ | | |
| | | *社会福祉の原理と政策Ⅰ | 保育内容(言葉)の指導法 | 保育実習ⅠA | *臨床心理学 | 子どもの食と栄養Ⅱ | | |
| | | 音楽Ⅱ | *身体機能と障害 | 保育実習指導ⅠA | | 乳幼児保育Ⅱ | | |
| | | | 音楽Ⅲ *知的発達と障害 | 教育実習 教育実習指導 *フードビジネス学 | 子どもの障害と支援 保育実習ⅠB 保育実習指導ⅠB | | | |
| D | | 保育内容(人間関係)の指導法 | 保育内容(音楽表現)の指導法 | 保育内容(造形表現)の指導法 | カリキュラム論 | 保育内容(環境)の指導法 | 幼児教育方法論 | |
| | | 保育内容(身体表現)の指導法 | 保育内容(健康)の指導法 | 保育内容(言葉)の指導法 | 保育内容総合演習 | | 保育実習Ⅱ | |
| | | 基礎ゼミナール | | | | | 保育実習指導Ⅱ | |
| E | | | | | 専門ゼミナール | | 研究ゼミナール | |
| | | | | | | | | |
| F | ELP1 | ELP3 | ELP5 | ELP6 | 教育実習 | | 総合表現 | |
| | ELP2 | ELP4 | | 保育実習ⅠA | | 保育実習ⅠB | 保育実習Ⅱ | |
| | 子ども臨床基礎演習Ⅰ | 子ども臨床基礎演習Ⅱ *海外研修(保健福祉学)(集中) | | 多文化保育 | | | 保育実習Ⅲ | |
| G | 社会連携科目群 | | | | | | | |
| | 社会連携要論 | 地域資源学 | 基礎ゼミナール | | 専門ゼミナール | | 研究ゼミナール | |
| | | 入門ゼミナール | 子育て支援プロジェクト研究B(集中) | | *地域保健福祉演習(集中) | | | |
| | 子育て支援プロジェクト研究A(集中) | | | | | | 表現活動研究 | |

共通教育科目 子ども学必修科目 子ども学選択科目 *は学部・他学科開講科目

(9) 子ども学科履修モデル

1) 幼稚園・保育所・認定こども園の保育者をめざす場合
(幼稚園教諭一種免許状、及び保育士資格の両方を取得する)

| | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|----------------|---------------------------------|-----------|---------------------------------|----|-----------------|----|-----------------|-----|
| 共通 教育 科目 | ◎ 大学で学ぶ[共] | 1 | ◎ English Language Program 5[共] | 1 | | | | |
| | ◎ フレッシュマンセミナー[共] | 1 | ◎ English Language Program 6[共] | 1 | | | | |
| | ◎ 人文・社会科学要論[共] | 2 | | | | | | |
| | ◎ 心理学[共] | 2 | | | | | | |
| | ◎ 日本国憲法[共] | 2 | | | | | | |
| | ◎ 自然科学要論[共] | 2 | | | | | | |
| | ◎ コンピュータ演習Ⅰ[共] | 1 | | | | | | |
| | ◎ コンピュータ演習Ⅱ[共] | 1 | | | | | | |
| | ◎ 健康スポーツA[共] | 1 | | | | | | |
| | ◎ 健康スポーツB[共] | 1 | | | | | | |
| | ◎ スポーツ科学[共] | 1 | | | | | | |
| | ◎ English Language Program 1[共] | 1 | | | | | | |
| | ◎ English Language Program 2[共] | 1 | | | | | | |
| | ◎ English Language Program 3[共] | 1 | | | | | | |
| | ◎ English Language Program 4[共] | 1 | | | | | | |
| | ◎ 社会連携要論[共] | 1 | | | | | | |
| | ◎ 地域資源学[共] | 1 | | | | | | |
| | 小計 | 21 | 小計 | 2 | 小計 | 0 | 小計 | 0 |
| | 複合PBLから1単位 | | | | | | | 1 |
| | 全カテゴリーから4単位 | | | | | | | 4 |
| | 共通教育科目合計 | | | | | | | 28 |
| 専門 科目 | ◎ 教育基礎論 | 2 | ◎ 教師論 | 2 | ◎ カリキュラム論 | 2 | ◎ 幼児教育方法論 | 2 |
| | ◎ 教育心理学 | 2 | ◎ 教育と社会 | 2 | ◎ 幼児と環境 | 1 | ◎ 保育・教職実践演習 | 2 |
| | ◎ 幼児と人間関係 | 1 | ◎ 特別支援教育の理解 | 2 | ◎ 保育内容（環境）の指導法 | 1 | ○ 子ども家庭支援演習（保必） | 1 |
| | ◎ 幼児と言葉 | 1 | ◎ 幼児理解の理論と方法 | 2 | ◎ 保育内容指導法 | 1 | ○ 総合表現 | 2 |
| | ◎ 保育内容総論 | 2 | ◎ 保育・教育相談 | 1 | ○ 子どもの食と栄養Ⅰ（保必） | 1 | ○ 保育実習Ⅱ | 2 |
| | ◎ 保育内容（人間関係）の指導法 | 1 | ◎ 幼児と健康 | 1 | ○ 子どもの食と栄養Ⅱ（保必） | 1 | ○ 保育実習指導Ⅱ | 2 |
| | ◎ 保健福祉学 | 2 | ◎ 幼児と表現A | 1 | ○ 乳幼児保育Ⅰ（保必） | 2 | ◎ 研究ゼミナール | 4 |
| | ◎ 保育原理 | 2 | ◎ 幼児と表現B | 1 | ○ 乳幼児保育Ⅱ（保必） | 1 | | |
| | ◎ 社会福祉の原論と政策Ⅰ | 2 | ◎ 幼児と表現C | 1 | ○ 子どもの健康と安全（保必） | 1 | | |
| | ◎ 音楽Ⅰ | 1 | ◎ 保育内容（健康）の指導法 | 1 | ○ 子ども家庭支援論（保必） | 2 | | |
| | ◎ 音楽Ⅱ | 1 | ◎ 保育内容（言葉）の指導法 | 1 | ○ 子どもの障害と支援（保必） | 2 | | |
| | ◎ 子ども臨床基礎演習Ⅰ | 2 | ◎ 保育内容（音楽表現）の指導法 | 1 | ○ 子ども学概論 | 2 | | |
| | ◎ 子ども臨床基礎演習Ⅱ | 1 | ◎ 保育内容（造形表現）の指導法 | 1 | ○ 音楽Ⅳ | 1 | | |
| | ○ 子育て支援プロジェクト演習A | 1 | ◎ 保育内容（身体表現）の指導法 | 1 | ◎ 図画工作Ⅰ | 1 | | |
| | ◎ 入門ゼミナール | 1 | ◎ 児童・家庭福祉Ⅰ | 2 | ◎ 図画工作Ⅱ | 1 | | |
| | | | ◎ 社会的養護Ⅰ | 2 | ◎ 体育Ⅰ | 1 | | |
| | | | ◎ 社会的養護Ⅱ | 2 | ◎ 体育Ⅱ | 1 | | |
| | | | ◎ 子ども家庭支援の心理学 | 2 | ◎ 教育実習 | 4 | | |
| | | | ◎ 子どもの保健 | 2 | ◎ 教育実習指導 | 2 | | |
| | | | ○ 身体機能と障害 | 2 | | | | |
| | | | ○ 知的発達と障害 | 2 | ○ 保育実習ⅠB（保必） | 2 | | |
| | | | ○ 音楽Ⅲ | 1 | ○ 保育実習指導ⅠB（保必） | 2 | | |
| | | | ◎ 保育実習ⅠA | 2 | ◎ 専門ゼミナール | 2 | | |
| | | | ◎ 保育実習指導ⅠA | 2 | | | | |
| | | | ○ 子育て支援プロジェクト演習B | 1 | | | | |
| | | | ○ 多文化保育 | 2 | | | | |
| | | | ◎ 基礎ゼミナール | 2 | | | | |
| | 小計 | 22 | 小計 | 42 | 小計 | 34 | 小計 | 15 |
| | 専門科目及び下記の履修可能な選択科目の中から10単位 | | | | | | | 0 |
| | 専門科目合計単位数 | | | | | | | 113 |
| | 合計卒業単位数 | | | | | | | 141 |
| 履修可能な 選択科目 | 他学部・他学科科目 | 4単位まで履修可能 | | | | | | |

2) 児童養護施設・児童発達支援センターなどの施設保育士を目指す場合
(幼稚園教諭一種免許状、及び保育士資格の両方を取得する)

| | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | |
|-----------|--|----------------------------|---------------------------------|-------|-------|
| 共通教育科目 | ◎ 大学で学ぶ[共] | 1 | ◎ English Language Program 5[共] | 1 | |
| | ◎ フレッシュマンセミナー[共] | 1 | ◎ English Language Program 6[共] | 1 | |
| | ◎ 人文・社会科学要論[共] | 2 | | | |
| | ◎ 心理学[共] | 2 | | | |
| | ◎ 日本国憲法[共] | 2 | | | |
| | ◎ 自然科学要論[共] | 2 | | | |
| | ◎ コンピュータ演習Ⅰ[共] | 1 | | | |
| | ◎ コンピュータ演習Ⅱ[共] | 1 | | | |
| | ◎ 健康スポーツA[共] | 1 | | | |
| | ◎ 健康スポーツB[共] | 1 | | | |
| | ◎ スポーツ科学[共] | 1 | | | |
| | ◎ English Language Program 1[共] | 1 | | | |
| | ◎ English Language Program 2[共] | 1 | | | |
| | ◎ English Language Program 3[共] | 1 | | | |
| | ◎ English Language Program 4[共] | 1 | | | |
| | ◎ 社会連携要論[共] | 1 | | | |
| | ◎ 地域資源学[共] | 1 | | | |
| | 小計 | 21 | 小計 2 | 小計 0 | 小計 0 |
| | | 複合PBLから1単位 | | | |
| | | 全カテゴリーから4単位 | | | |
| | 共通教育科目合計 | | | | |
| | 28 | | | | |
| 専門科目 | ◎ 教育基礎論 | 2 | ◎ 教師論 | 2 | |
| | ◎ 教育心理学 | 2 | ◎ 教育と社会 | 2 | |
| | ◎ 幼児と人間関係 | 1 | ◎ 特別支援教育の理解 | 2 | |
| | ◎ 幼児と言葉 | 1 | ◎ 幼児理解の理論と方法 | 2 | |
| | ◎ 保育内容総論 | 2 | ◎ 保育・教育相談 | 1 | |
| | ◎ 保育内容（人間関係）の指導法 | 1 | ◎ 幼児と健康 | 1 | |
| | ◎ 保健福祉学 | 2 | ◎ 幼児と表現A | 1 | |
| | ◎ 保育原理 | 2 | ◎ 幼児と表現B | 1 | |
| | ◎ 社会福祉の原論と政策Ⅰ | 2 | ◎ 幼児と表現C | 1 | |
| | ◎ 音楽Ⅰ | 1 | ◎ 保育内容（健康）の指導法 | 1 | |
| | ◎ 音楽Ⅱ | 1 | ◎ 保育内容（言葉）の指導法 | 1 | |
| | ◎ 子ども臨床基礎演習Ⅰ | 2 | ◎ 保育内容（音楽表現）の指導法 | 1 | |
| | ◎ 子ども臨床基礎演習Ⅱ | 1 | ◎ 保育内容（造形表現）の指導法 | 1 | |
| | ○ 子育て支援プロジェクト演習A | 1 | ◎ 保育内容（身体表現）の指導法 | 1 | |
| | ◎ 入門ゼミナール | 1 | ◎ 児童・家庭福祉Ⅰ | 2 | |
| | | | ○ 児童・家庭福祉Ⅱ | 2 | |
| | | | ◎ 社会的養護Ⅰ | 2 | |
| | | | ◎ 社会的養護Ⅱ | 2 | |
| | | | ◎ 子ども家庭支援の心理学 | 2 | |
| | | | ◎ 子どもの保健 | 2 | |
| | | | ○ 身体機能と障害 | 2 | |
| | | | ○ 知的発達と障害 | 2 | |
| | | | ○ 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ | 2 | |
| | | | ◎ 保育実習ⅠA | 2 | |
| | | | ◎ 保育実習指導ⅠA | 2 | |
| | | | ○ 子育て支援プロジェクト演習B | 1 | |
| | | | ○ 多文化保育 | 2 | |
| | | | ◎ 基礎ゼミナール | 2 | |
| | 小計 | 22 | 小計 45 | 小計 34 | 小計 15 |
| | | 専門科目及び下記の履修可能な選択科目の中から10単位 | | | |
| | 0 | | | | |
| | 専門科目合計単位数 | | | | |
| | 116 | | | | |
| | 合計卒業単位数 | | | | |
| | 144 | | | | |
| 履修上の注意 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教諭一種免許状の取得は卒業要件である。 ・ 幼稚園教諭免許状取得のための履修科目は表4を参照のこと。 ・ 幼稚園教育実習の履修条件は、(5)資格取得1)⑤を参照のこと ・ 保育・教職実践演習の履修条件は、(5)資格取得1)⑥を参照のこと | | | | |
| 履修可能な選択科目 | 他学部・他学科科目 | 4単位まで履修可能 | | | |